

熊本大学大学院医学教育部  
における組織評価  
自己評価書

平成 26 年 9 月 30 日  
12. 大学院医学教育部



## 目次

I	熊本大学大学院医学教育部の現況及び特徴	2
II	教育の領域に関する自己評価書	7
	1. 教育の目的と特徴	8
	2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	8
	3. 観点ごとの分析及び判定	8
	4. 質の向上度の分析及び判定	45
III	社会貢献の領域に関する自己評価書	46
	1. 社会貢献の目的と特徴	47
	2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	48
	3. 観点ごとの分析及び判定	48
	4. 質の向上度の分析及び判定	63
IV	国際化の領域に関する自己評価書	64
	1. 国際化の目的と特徴	65
	2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	66
	3. 観点ごとの分析及び判定	66
	4. 質の向上度の分析及び判定	74
V	男女共同参画の領域に関する自己評価書	75
	1. 男女共同参画の領域の目的と特徴	76
	2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	77
	3. 観点ごとの分析及び判定	77
	4. 質の向上度の分析及び判定	80
VI	管理運営に関する自己評価書	81
	1. 管理運営の目的と特徴	82
	2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	83
	3. 観点ごとの分析及び判定	83
	4. 質の向上度の分析及び判定	98

## I 熊本大学大学院医学教育部の現況及び特徴

### 1. 現況

- (1) 学部等名：熊本大学大学院医学教育部
- (2) 学生数及び教員数（平成 26 年 5 月 1 日現在）  
：学生数 388 人、専任教員数：現員数 188 人、助手数 0 人

### 2. 特徴

熊本大学大学院医学教育部は、昭和 30(1955)年度に設置された大学院医学研究科を改組し、大学院教育に特化した組織として平成 15(2003)年度に設置された。これは医学系大学院における研究と教育に対する社会と学術界からの多様かつ高度な要請に応えるために、課題対応型の教員による研究組織と、学問を体系的に伝授する教育組織を分離する理念に基づき実施され、従来の「講座＝科目制」の枠より解放された教育カリキュラムの柔軟な構築と、時代が要求する人材育成への迅速な対応を可能とした。

4 年制博士課程（入学定員 88 人、収容定員 352 人）と 2 年制修士課程（入学定員 20 人、収容定員 40 人）により構成され、当初は前者は 4 専攻で後者は 1 専攻を有していた。修士課程は 4 年制大学の卒業生を対象とし、平成 14(2002)年度に設置された大学院医学研究科医科学専攻（修士課程）の後身である。

しかし、臨床医学の急速な発展や研究の国際的競争力の強化が臨まれる状況を鑑み、先端的な生命科学の知識を背景として新たな治療法を開発できる臨床医、医学生命科学の将来展望を見据えて新たな分野に挑戦する基礎研究者、先進医療を理解したコメディカルなど、領域を越えた新たな人材育成が求められた。医学教育部では、その当時に 21 世紀 COE 「細胞系譜制御研究教育ユニットの構築(H14～18 年度)」、魅力ある大学院教育イニシアティブ「エイズ制圧をめざした研究者養成プログラム(H18～19 年度)」、および「熊本大学臨床医学疫学機関連携事業(H17～21 年度)」を獲得し、特色ある人材を育成した。

さらに以上の実績を背景として、分野横断的な先端教育を実践するために平成 20 年度より、これまで基礎系、臨床系、社会医学系が分断されていた博士課程の 4 専攻体制を、定員を変えずに「医学専攻」の単一専攻体制に改組し、複数の分野が共同して研究指導する教育体制を構築した。またカリキュラムを大改訂し、次の新コースを設置した。

1) エイズ制圧を目指した研究者養成プログラム：国際的に活躍できるエイズの教育・研究者、医療従事者、研究志向を持つ専門医の育成、2) 発生・再生医学研究者育成コース：発生・再生医学を包括的に理解し、将来の発生・再生医療を実践する先導的な研究者および医師の育成、3) 代謝・循環情報医学エキスパート育成コース：代謝・循環器疾患の臨床病態を熟知した生命科学研究者、研究心を有する高度専門臨床医、優れた病態知識を有する疫学・保健医療専門家の育成、4) がん博士育成プログラム：「九州がんプロフェッショナル養成協議会」の協力を得た、優れたがん研究医の育成。

上記の取り組みは下記の 3 の (5) に詳述する、1) グローバル COE プログラム (GCOE) 「エイズ制圧を目指した国際教育研究拠点」、2) グローバル COE 「細胞系譜制御研究の国際的人材育成ユニット」、3) 組織的な大学院教育改革推進プログラム「臨床・基礎・社会医学一体型先端教育の実践」、4) 「九州がんプロフェッショナル養成プラン及び九州がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」、5) 「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」による支援により大きく加速され発展した。

なお教育の国際化推進のために 10 月入学制度も整え、授業は原則として英語で実施すると共に、シラバスも和文と英文で冊子体および Web 上に公開している。また平成 20～24 年度に国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムの採択を受け、多くの留学生を受入れると共に、大学院生の海外派遣を積極的に推進している。さらに社会人や遠隔地学生の講義履修を支援するために、eラーニングを普及率 60% にまで整備した。また、優れた臨床研究の教育を目指して、厚労省管轄の 6 つの研究センター等および医薬品医療機器総合機構 (PMDA) と連携大学院を締結した。

さらに平成24年度より、医学科学生の大学院講義の先取り履修と初期研修医を社会人大学院生として受入れ、学部と大学院教育をシームレスに継続出来る新規教育システムとして、文科省に採択された「柴三郎プログラム：熊本発基礎研究医養成(H24～28年度)」を実行しつつある。また平成24年10月に、リーディング大学院プログラム「グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラムHIGO」の採択を受けて、アジア諸国、地方行政および民間企業と密接に連携した大学院教育を、医学教育部と薬学教育部が社会文化科学研究科と連携して開始した。

これらの医学教育部の教育内容を冊子体のみならず、Web上に広く公開し広報活動に努めている。また厳格な教員資格審査と学位授与基準を設け、教育の質を保証し多くの学位授与実績を有している。

### 3 組織の目的

「熊本大学大学院医学教育部規則」に明記された、現在の大学院医学教育部における組織（教育）の目的は、修士課程では「医学又は生命科学の知識及び思考力を備えた、専門分野における高度な研究能力を有する研究者、教育者又は高度専門職業人」を育成することであり、また、博士課程では「医学又は生命科学の幅広い知識及び深い思考力を備えた、専門分野における国際的研究能力を有する研究者もしくは教育者又は高い研究志向及び問題解決能力を有する高度専門職業人」を育成することである。なお、修士課程修了者には博士課程へ進学して、当該大学院教育の目的を極めることを期待している。

この両課程における目的を概述すると、「1）医学及び生命科学分野での研究者と教育者の育成、2）研究心を有する高度医療人の育成」に大別することができる。医学教育部が発足した平成15年度当時は、医学系大学院に対する社会の要請は、主として、目的1）にあったが、日本における疾病構造の急速な変化等に対応するため、平成17年11月の中央教育審議会答申において、2）高度医療人の育成が第二の目的として強く要請されることになり、これを医学教育部でも第二の柱と位置づけた。そして教育カリキュラムを含めた制度改革により、平成20年度より、この第二の目的をより効果的に達成するための態勢を再構築した。

大学院医学教育部の人材育成の目的及びカリキュラムポリシーは、以下のとおりである。

#### (1) 修士課程

##### ・人材育成の目的

医学又は生命科学の知識及び思考力を備えた、専門分野における高度な研究能力を有する研究者、教育者又は高度専門職業人を育成することを目的とする。

##### ・カリキュラムポリシー

高度な専門知識をもって医学・生命科学の分野で活躍できる研究者・教育者・専門職業人を育成するために、オムニバス形式の講義とマンツーマン教育による研究指導を中心としたカリキュラムにより、以下の知識・能力の習得を図る。

1. 医学・生命科学に関する領域複合的な課題を解決できる学際的な専門知識
2. 国内外でヘルスプロモーションの推進に参画できる先進医療の専門知識
3. 技術革新によってもたらされる新しい医学・生命科学にも対応できる研究能力

#### (2) 博士課程

##### ・人材育成の目的

医学又は生命科学の幅広い知識及び深い思考力を備えた、専門分野における国際的研究能力を有する研究者若しくは教育者、又は高い研究志向及び問題解決能力を有する高度医療専門職業人を育成することを目的とする。

・カリキュラムポリシー

医学・生命科学分野で活躍する国際水準の研究者・教育者、高い研究志向を備えた臨床医など、研究マインドを持つ医療人を育成するために、オムニバス形式の講義・コースワークと、複数の指導分野の協同による研究指導を中心としたカリキュラムにより、以下の知識・能力の習得を図る。

1. 先進の医学・生命科学に関する領域複合的な課題を解決できる高度で学際的な専門知識
2. 医学・生命科学分野の国際レベルでの先端的研究を遂行できる高い研究能力
3. 国内外で先進医療の推進と医療技術の革新をリードできる高度な医学知識と臨床技術

(3) リーディング大学院 HIGO プログラムの人材育成の目的

HIGO プログラムでは、高度の専門的知識をもち、アジア志向の国際化の展開により、アジアと地域社会の仕組みと産業界のニーズを理解できる人材の育成を目指し、下記の目標を中心に展開している。本プログラムの展開により、大学内における新たな大学院教育の改革を先導する。

- ・九州・アジアにおいてグローバルに活躍する人材の育成
- ・行政・産業界と連携した人材育成
- ・熊本大学のアジア戦略を活用した海外インターンシップ教育の充実
- ・社会文化科学にも精通する理系人材の育成

HIGO プログラムで育成される人材像として、下記を想定している。

- ・将来保健行政・医療行政・薬事行政に携わるリーダー
- ・アジアに展開する健康生命関連企業で活躍するリーダー
- ・国際的（グローバル）に活躍する健康生命科学分野の教育研究リーダー

(4) ミッション再定義を加味した医学教育部の目的の追加

平成 25 年度になされたミッションの再定義に基づき、医学教育部は従来にも増して、下記のような教育を強化することにした。

最先端の研究・開発機能の強化を推進するために、基礎および臨床研究を進め、革新的な医薬品・医療機器開発等による、我が国発のイノベーション創出を強化するための、人材育成に資する大学院教育を強化する。本学の特色である、発生医学やエイズ学の拠点機能を活かした大学院教育を推進する。

(5) 大学院教育改革を目指して採択された種々のプログラムの目的とその達成

**1) 魅力ある大学院教育イニシアティブ「エイズ制圧を目指した研究者養成プログラム」**

**(H 18～19 年度) 合計 18,400 千円**

エイズを制圧するために、基礎研究成果を基にエイズの治療薬や治療法の開発まで行う Translational Research (TR) の専門家を育成した。「エイズ制圧を目指した研究者養成コース」を新設し、国内外から大学院学生を受け入れて組織的な大学院教育を実施し、TR を推進する能力を有する研究者・エイズ専門医の育成、さらに HIV-1 などの高病原性微生物を取り扱う能力を備えた研究者を育成した。

**2) 「九州がんプロフェッショナル養成プラン及び九州がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」**

**(第 I 期；H19～23 年度 合計 26,347 千円、第 2 期；H 24～28 年度 4,235 千円)**

日本国医師免許を有し保険医登録をしている、大学院医学教育部博士課程学生に対して、最先端のがんの研究、医療と臨床実習を共に行う教育システムを構築し実績を上げた。

**3) グローバルCOEプログラム (H19～23年度)**細胞系譜制御研究の国際的人材育成ユニット 合計**1,118,597**千円

からだの成り立ちや臓器の形成と修復を司る、様々な種類の細胞のもとになる細胞（幹細胞）から変化していく様子を細胞の系譜として捉える概念である「細胞系譜制御」に関する大学院教育を実現した。大学院学生、博士研究員および教員が、集い会って相乗的に能力を引き出すリエゾンラボを構築し、教育の国際化や若手人材の雇用を推進した。

**4) グローバルCOEプログラム (H20～24年度)**エイズ制圧を目指した国際教育研究拠点 合計**1,076,146**千円

日本において、グローバルな視点で研究を行う欧米諸国と並ぶレベルのエイズ学教育研究拠点を設立し、国際的に活躍できるエイズの研究者、医療従事者の体系的・組織的な育成を実現した。特に英語による授業と国際共同研究の推進により、国際化を推進した。

**5) 組織的な大学院教育改革推進プログラム (H20～22年度)**臨床・基礎・社会医学一体型先端教育の実践 合計 **91,690**千円

代謝・循環器医療もしくは発生医学・再生医療のいずれかに軸足を置きつつ、深く関連する両領域を俯瞰し連携させることができる臨床医・研究者・高度医療専門職業人を養成するため、上記の2つの教育コースのカリキュラムを連携させ、基礎・臨床・社会医学一体型の教育を実現した。

**6) 組織的な若手研究者等海外派遣プログラム (H22年3月～25年3月)**合計 **42,700**千円

大学院学生を、海外の研究機関に派遣して国際的な共同研究を推進するとともに、海外の研究者との連携を深め、さらに海外の研究環境の良い所を修得させることにより、熊本大学における生命科学研究の国際的な発展を実現した。

**7) 医学・医療の高度化の基盤を担う基礎研究医の養成 (H24年8月～29年3月)**「柴三郎プログラム：熊本発基礎研究医養成」 合計 **100,000**千円

優れた基礎研究医の育成を目的として、医学部学生を科目等履修生として、大学院の講義を先取り履修することを可能とした。また、卒後臨床研修と大学院博士課程の1、2年次を並行して行えるプログラムを構築し、学部と大学院修了までの研究のシームレス化を実現しつつある。

**8) 博士課程教育リーディングプログラム 複合領域型 (生命健康)**

(H24年10月～31年3月)

「グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラムHIGO」 予算：未定

HIGO (Health life science: Interdisciplinary and Glocal Oriented) プログラムは、医学・薬学等を基盤とする健康生命科学の専門的知識と研究マインドをもち、九州という地域性と世界観（主にアジア）を連結した国際・地域社会（グローバル社会）における課題とニーズを捉えて、健康増進と疾病対策のために最新の知見と科学技術を活用する次世代の医療人・専門職業人を養成するものである。

**9) 国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム**

(第1期：H20年10月～平成25年9月)

本プログラムは、主にアジア・アフリカの発展途上国の留学生と日本人学生に、「エイズ学」および「発生・再生医学」に特化した大学院教育を実施して、優れた教育・研究者および企業人を育成することを目的とする。定員6名/年の採択を、平成20年10月～平成25年9月まで受け、現時点で24名の留学生を受け入れ、第1期生4名に博士の学位を授与した。





## II 教育の領域に関する自己評価書

## 1. 教育の目的と特徴

熊本大学大学院医学教育部は、医学または生命科学の幅広い知識および思考力を備えた国際的研究能力を有する研究者・教育者、高い研究志向および問題解決能力を有する高度医療専門職業人を育成することを目的としている。修士課程および博士課程に分かれており、修士課程修了後は博士課程へ進学し一貫した教育目的達成を期待する。幅広い医学知識と先端臨床技術の習得、そして研究マインドの涵養を可能とする教育プログラムを実施し、特にグローバルな任務である「国際水準の教育者・研究者の育成」とローカルな責務である「研究マインドを持った臨床医の育成」を両立させるため、HIGOプログラムや柴三郎プログラムなどの独創性の高い数多くの人材育成プログラムを創出している。国際化を推進するためのカリキュラム改革や支援体制の整備にも力を注ぎ、多くの優秀な人材を輩出している。大学院教育改革を目指して数多くの外部資金を獲得し、積極的な改革を実践していることが特徴である。

### [想定する関係者とその期待]

在校生、卒業生からは、国際的な研究能力を身につけ、修了後には国際水準の研究者、教育者又は研究マインドを持った高度専門職業人として活躍できるようになることを期待されている。将来、医学教育部を入学希望している高校生、大学生、若手研究者からは、医学教育部で実施されている教育内容や研究内容の説明、明確なアドミッションポリシーの設定、厳格な入学選抜試験が期待されている。各研究分野、卒業生の雇用者、地域社会からは、研究の発展、高度の知識および思考力を持った人材の輩出、研究成果の社会への還元が期待されている。海外の研究者からは、海外への国際的な研究者および高度専門職業人の輩出と、外国人留学生を通じた教育・研究交流が期待されている。

## 2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

### 【優れた点】

国際的研究能力を有する研究者もしくは高度医療専門職業人を育成するために次のような様々な優れたプログラムの実施や向上を行った点が優れている。

1. アドミッションポリシーの修正を行い、入学選抜方法の改革を実施することで、より国際通用性のあるシステムを構築するとともに、10月入学制度を拡充するなど社会のニーズに則した教育課程への改革を実施した。
2. カリキュラムポリシーおよびディプロマポリシーの明確化を行い、eラーニングの促進など多様な学生の単位取得を支援するための体制を充実させ、連携大学院を提携し多様な教員の確保を行い、教育の質を充実した。
3. 平成20年から大学院教育の実質化を行い、専門分野に特化した独創性の高いプログラムを実施した。
4. 学生の自主的な学習をサポートするための様々な取り組みを行い、特に学生の積極的な海外への派遣を支援する複数のプログラムを実施した。
5. 国際社会のリーダーとして九州・アジアにおいてグローバル(グローバル+ローカル)に活躍できる行政・産業界と連携した人材を育成するため、HIGOプログラムを創出・運営し、新たな大学院教育を開始した。
6. 基礎研究医を養成するため「柴三郎プログラム：熊本発基礎研究医養成」を通じて、医学部から大学院修了まで初期臨床研修と平行して研究をシームレスに継続できるシステムを構築した。
7. 国費留学生特別枠の獲得による国費および私費留学生の積極的な受け入れや授業・シラバス・ウェブサイト情報の英語化を実施しており、国際化の一層の対応を行った。
8. 学生の積極的な学会発表および論文発表を奨励し、多くの学位授与者を社会に排出した。
9. 大学院教育改革を目指して数多くの外部資金を獲得し、積極的な改革を実践した。

### 【改善を要する点】

修士課程および博士課程の在学生の就職状況調査や在学中の就職活動支援が不十分であり、今後改善を要する。また、積極的な外国人留学生の受け入れを実施しているが、その修了者のサポートは十分とは言えず、今後、修了者が帰国後の卒業生ネットワーク作りなど支援体制の確立が必要となる。

## 3. 観点ごとの分析及び判定

### 分析項目 I 教育活動の状況

観点 教育実施体制
-----------

(観点に係る状況)

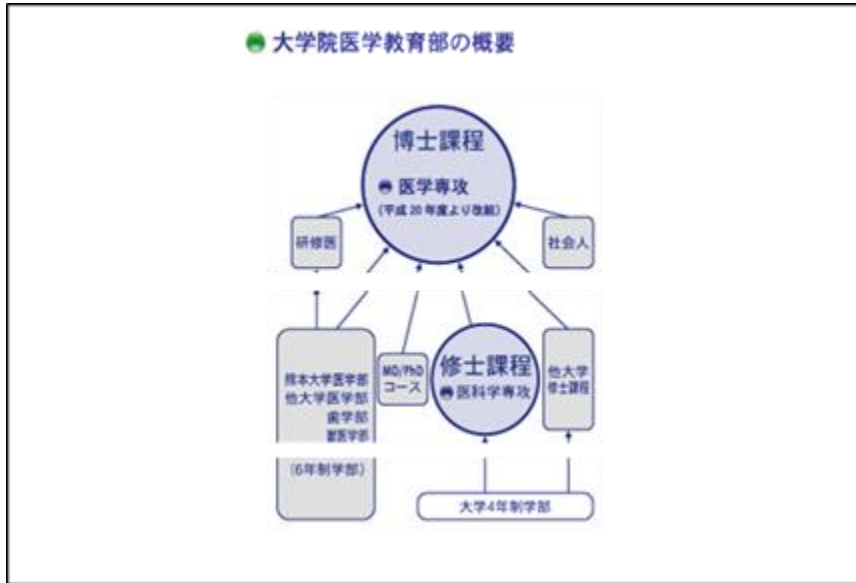
1. 教員組織編成や教育体制の工夫 (中期計画番号 K03、K07、K20)

#### (1) 概要

医学教育部は大学院教育に特化した組織である。修士課程と博士課程があり、社会人や外国人留学生を含む学生が在籍している。大学院生命科学研究部他、複数の教員組織に所属する教員が教育を担当している (資料 A-1-1-1-1)。平成20年度より大学院教育の実質化を行い、カリキュラムポリシーに則した講義・演習を実施し広く学際的な知識・技術の習得とともに、各指導分野でのマンツーマンの研究指導実践を実施している。

(資料 A-1-1-1-2～A-1-1-1-4)

資料 A-1-1-1-1 医学教育部の概略、専攻指導分野の表  
医学教育部の概略（概要）



(出典：医学教育部ウェブサイト)

■ 大学院医学教育部博士課程 Doctoral Course	
専攻 Program	指導分野 Department
医学専攻 Medical Sciences	<b>【基礎医学系】</b> Basic Medicine 形態構築学、生体微細構築学、脳回路構造学、神経化学学、 知覚生理学、分子生理学、分子酵素化学、病態生化学、 分子遺伝学、腫瘍医学、機能病理学、 細胞病理学、分子病理学、細胞情報薬理学、生体機能薬理学、 感染防御学、微生物学、免疫学、免疫識別学、腫瘍治療トランスレショナルリサーチ Anatomic Morphology, Histology, Morphological Neural Science, Developmental Neurobiology, Sensory and Cognitive Physiology, Molecular Physiology, Molecular Enzymology, Medical Biochemistry, Molecular Genetics, Tumor Genetics and Biology, Pathology and Experimental Medicine, Cellular Pathology, Molecular Pathology, Molecular Pharmacology, Cell and Biological Pharmacology, Medical Virology, Microbiology, Immunology, Immunogenetics, Medical Oncology Translational Research
	<b>【社会医学系】</b> Environmental and SocioMedical Sciences 公衆衛生学、法医学、生命倫理学、臨床倫理学、臨床心理学、 レギュラトリーサイエンス学 Public Health, Forensic Medicine, Bioethics, Clinical Ethics, Clinical Psychology, Regulatory Science
	<b>【内科系】</b> Internal Medicine and Pediatrics 呼吸器内科学、循環器内科学、循環器先進医療学、代謝内科学、腎臓内科学、 消化器内科学、血液内科学、膠原病内科学、感染免疫内科学、 神経内科学、小児科学、病態情報解析学、 生体機能評価学、放射線診断学、放射線治療医学、神経精神医学、 総合診療科学、保健医学、薬剤情報分析学、医療情報医学 Respiratory Medicine, Cardiovascular Medicine, Advanced Cardiovascular Medicine, Metabolic Medicine, Nephrology, Gastroenterology and Hepatology, Hematology, Rheumatology and Clinical Immunology, Infectious Diseases, Neurology, Pediatrics, Diagnostic Medicine, Physiological Function Assessment, Diagnostic Radiology, Radiation Oncology, Psychiatry and Neuropsychology, General Medicine, Health Science, Clinical Chemistry and Informatics, Medical Informatics Technology
	<b>【外科系】</b> Surgery 消化器外科学、呼吸器外科学、心臓血管外科学、乳腺内分泌外科学、 小児外科・移植外科、脳神経外科、整形外科、 産科婦人科学、泌尿器科学、眼科学、 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学、歯科口腔外科学、皮膚病態治療再建学、 侵襲制御医学、麻酔科学、臨床国際協力学 Gastroenterological Surgery, Thoracic Surgery, Cardiovascular Surgery, Breast and Endocrine Surgery, Pediatric Surgery and Transplantation, Neurosurgery, Orthopaedic, Obstetrics and Gynecology, Urology, Ophthalmology, Otolaryngology-Head and Neck Surgery, Oral and Maxillofacial Surgery, Dermatology and Plastic Surgery, Aggressology and Critical Care Medicine, Anesthesiology, Department of International Medical Cooperation
	<b>【発生医学研究所】</b> Institute of Molecular Embryology and Genetics 組織構築学、分子細胞制御学、腎臓発生学、脳発生学、 幹細胞誘導学、損傷修復学、組織幹細胞学、肝臓発生学、 多能性幹細胞学、細胞医学 Cellular Interactions, Molecular Cell Biology, Kidney Development, Brain Morphogenesis, Cell Modulation, Cell Maintenance, Cell Differentiation, Pattern Formation, Stem Cell Biology, Medical Cell Biology
	<b>【エイズ研究センター】</b> Center for AIDS Research エイズ学Ⅰ、エイズ学Ⅱ、エイズ学Ⅲ、エイズ学Ⅳ、エイズ学Ⅴ、エイズ学Ⅵ、 エイズ学Ⅶ、エイズ学Ⅷ、エイズ学Ⅷ、エイズ学Ⅸ、エイズ学Ⅹ、エイズ学Ⅺ、エイズ学Ⅻ AIDS Research I, AIDS Research II, AIDS Research III, AIDS Research IV, AIDS Research V, AIDS Research VI, AIDS Research VII, AIDS Research VIII, AIDS Research IX, AIDS Research X, AIDS Research XI, AIDS Research XII
	<b>【生命資源研究・支援センター】</b> Institute of Resource Development and Analysis 資源開発学、バイオ情報学、RI実験学 Reproductive Engineering, Bioinformatics, Iatopex Science

(出典：生命科学研究所概要)

資料 A-1-1-1-2 医学教育部シラバス (表紙)

平成26年度

**熊本大学大学院医学教育部医学専攻  
(博士課程) 履修案内**

シラバス

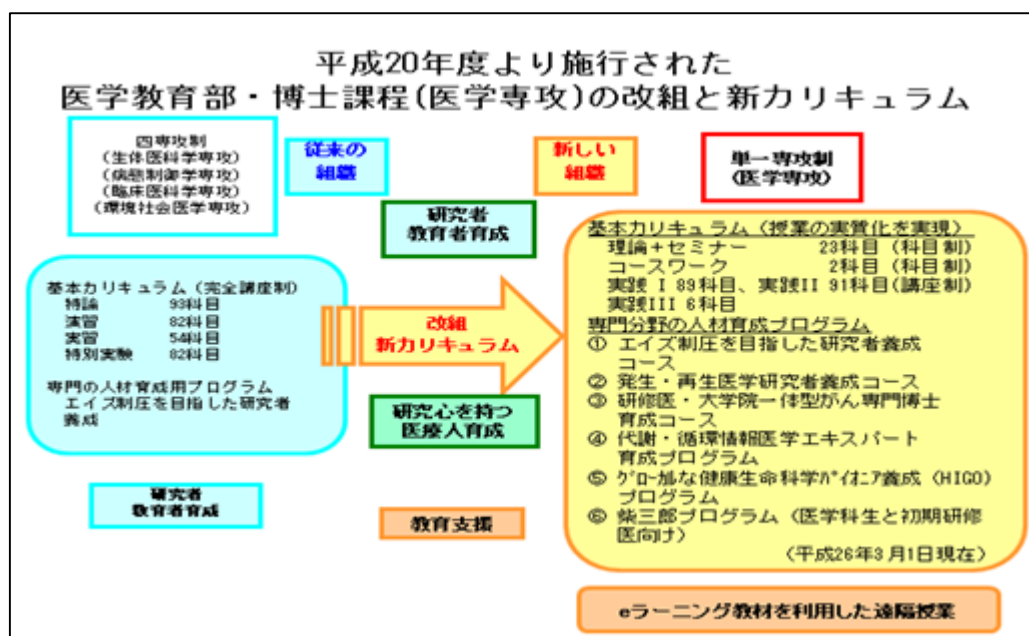
熊本大学大学院医学教育部

医学教育部 HP 内「学生・教職員へのお知らせ」ページ URL :  
http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp/medgrad/keijiban/newpage1.htm

問い合わせ先: 熊本大学生命科学系事務ユニット  
医学事務チーム教務担当  
〒860-8556 熊本市中心区本荘 1丁目1番1号  
TEL: 096-373-5025 FAX: 096-373-5030  
E-mail: iyg-igaku@jimu.kumamoto-u.ac.jp  
http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp/

(出典: 平成26年度医学教育部博士課程シラバス)

資料 A-1-1-1-3 平成20年度施行の博士課程の改組について



(出典: 平成26年度医学教育部博士課程シラバス)

熊本大学大学院医学教育部

あなたも熊本大学で学びませ

医学の伝統と先端が出逢う森の都熊本に  
従来の大学院を超える大学院が誕生しました。

医学教育部は、平成15年4月に、医学研究者・教育者並びに高度医療人を育成するための、純粋な大学院教育組織として設置されました。医学教育部は、4年制の博士課程(短縮修了制度有り)と2年制の修士課程からなっています。

DR 柴三郎プログラム

おしらせ

入学のご案内

特待(トクトク)情報

組織的な若手研究者等海外派遣プログラム

大学院教育改革支援プログラム  
臨床・基礎・社会医学・体験  
先端教育の実践

学内専用情報

グローバルCOEプログラム

グローバルCOEプログラム  
エイブ制圧を目指す  
国際教育研究拠点

がんプロフェッショナル  
養成プラン

大学院薬学教育部

医学部

薬学部

学会・シンポジウム

アクセスマップ

関連施設リンク

先生医学研究所  
医学部附属病院  
生命資源研究・支援センター  
エイズ学研究センター  
保健管理センター  
附属図書館  
附属病院事務部  
生命科学系事務ユニット  
他大学教員公募【学内専用】  
財務部契約課

新着情報

- 『インターネットによる合格速報(医学教育部)』
- 平成26年度 学位論文(乙)英語試験 第1期 合格発表
- 平成27年度大学院医学教育部 修士課程 推薦入試 合格発表 (2014.07.28)
- 平成26年9月4日(木)、5日(金)熊本医学・生命科学国際シンポジウムを開催 (2014.05.08)
- 5月10日(土)平成27年度大学院医学教育部修士・博士課程入試説明会を開催 (2014.04.09)
- 平成26年度大学院医学教育部(博士課程)入学試験(一般・社会人・外国人留学生、柴三郎プログラム)第3期募集 合格発表

学生・教職員へのお知らせ(教務企画より)

1 クリックすると別ページに移動します。日々更新されますので随時ご確認ください。

熊本大学生命科学系事務部医学系教務企画(入学試験、カリキュラムに関する問い合わせ)  
〒860-8556 熊本市中心区本荘1丁目1番1号 TEL 096-373-5025

当ウェブサイトの著作権は、熊本大学大学院生命科学研究所・教育部に属します。掲載内容および画像などの無断転載を禁止します。

(出典：医学教育部ウェブサイトトップページ)

(2) 教育課程・教育方法等を検討する組織体制

医学教育部の教育課程や方法を検討する組織体制として、最終審議機関である医学教育部教授会とその下位委員会で構成されている。入学試験合格者選考、課程修了判定、学位審査等の教育に関する全ての重要事項について医学教育部教授会で審議・決定している

(資料 A-1-1-1-5)。教育課程の編成、授業および研究指導担当教員、学生の入学・修了、学位の授与等に関する事項は、医学教育部大学院教育委員会において詳細な審議を行った上で、上記教授会に上程している(資料 A-1-1-1-6)。その他の委員会としては、大学院学生委員会、リーディング大学院運営委員会、柴三郎プログラム運営委員会、エイズ制圧を

目指した研究者養成プログラム運営委員会があり、適切な教育課程・方法を検討している。  
適宜メール会議を利用し委員の公務スケジュールに影響されない迅速審議を促進している。

資料 A-1-1-1-5 熊本大学大学院医学教育部教授会規則（抜粋）

<p>(趣旨)</p> <p>第1条 この規則は、熊本大学教授会等規則(平成16年4月1日制定)第14条の規定に基づき、熊本大学大学院医学教育部教授会(以下「教授会」という。)に関し必要な事項を定める。</p> <p>(組織)</p> <p>第2条 教授会は、次に掲げる者であつて、医学教育部の教育を担当するもの(兼担を除く。)をもって組織する。</p> <p>(1) 生命科学研究部の専任の教授</p> <p>(2) 医学部附属病院の専任の教授</p> <p>(3) 保健センターの専任の教授</p> <p>(4) 発生医学研究所の専任の教授</p> <p>(5) エイズ学研究センターの専任の教授</p> <p>(6) 生命資源研究・支援センターの専任の教授</p> <p>(7) 生命科学研究部の併任教授</p> <p>(8) 第1号から第6号までに掲げる組織の専任の准教授及び講師のうちから選出された者6人以内</p> <p>(9) 医学教育部の連携講座及びエイズ学研究センターの客員教授(以下「客員教授」という。)</p> <p>(10) 第1号から第6号までに掲げる組織の研究分野、部等(以下「研究分野等」という。)で教授が配置されていないものの専任の准教授又は講師 当該研究分野等ごとに各1人</p> <p>2 前項第1号から第6号までに掲げる組織の研究分野等(生命科学研究部においては、併任教授が配置されている研究分野を除く。)において、専任の教授に欠員が生じた場合は、当該研究分野等の専任の准教授又は講師各1人を構成員とする。</p> <p>3 第1項第8号の構成員は、同項第10号及び前項の構成員を兼ねることができる。</p> <p>4 第1項第8号及び第10号の構成員の任期は、1年とし、再任を妨げない。</p> <p>5 第2項の構成員の任期は、当該欠員が補充されるまでの間とする。</p> <p>(審議事項)</p> <p>第3条 教授会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 教育課程の編成に関する事項</p> <p>(2) 学生の入学、修了その他その在籍に関する事項及び学位の授与に関する事項</p> <p>(3) 教育部長候補適任者及び附属図書館医学系分館長候補者の選考に関する事項</p> <p>(4) その他教育に関する重要事項</p> <p>2 客員教授は、前項第2号に定める学位の授与に関する事項についてのみ、審議に加わる。</p> <p>(会議)</p> <p>第4条 教授会は、定例教授会又は臨時教授会とする。</p> <p>2 教授会に、議長を置き、教育部長をもって充てる。</p> <p>3 教育部長に事故があるときは、教育部長があらかじめ指名する教授がその職務を代行す</p>
---

(出典：医学教育部教授会規則（抜粋）)

熊本大学大学院医学教育部大学院教育委員会規則	
(設置)	
第1条	熊本大学大学院医学教育部規則(平成16年4月1日制定)第11条第2項の規定に基づき、医学教育部に熊本大学大学院医学教育部大学院教育委員会(以下「委員会」という。)を置く。
(組織)	
第2条	委員会は、医学教育部の教育を担当する次に掲げる者をもって組織する。
	(1) 医学教育部副教育部長
	(2) 生命科学研究部の専任の基礎医学系教授のうちから4人
	(3) 生命科学研究部の専任の臨床医学系教授及び医学部附属病院の専任の教授のうちから4人
	(4) 生命資源研究・支援センター、エイズ学研究センター及び発生医学研究所の専任の教授並びにエイズ学研究センターの専任の教授又は准教授のうちから3人
	(5) 第2号から第4号までに掲げる組織の専任の准教授及び講師のうちから2人
	(6) 第2号から第4号までに掲げる組織の専任の助教のうちから2人
	(7) その他委員長が必要と認めた者 若干人
2	前項2号から第6号までの委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、引き続き4年を超えて在任することはできない。
3	第1項2号から第6号までの委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前項の規定にかかわらず、前任者の残任期間とする。
4	第1項2号から第6号までの委員は、熊本大学医学部医学科教育・教務委員会委員と重複しないものとする。
(審議事項)	
第3条	委員会は、次に掲げる事項を審議する。
	(1) 教育課程の編成に関する事項
	(2) 学生の入学、修了その他在籍に関する事項
	(3) 学位の授与に関する事項
	(4) その他教育及び研究指導に関する重要事項
(委員長及び副委員長)	
第4条	委員会に、委員長を置き、第2条第1項第1号の委員をもって充てる。
2	委員会に、副委員長を若干名置き、第2条第1項第2号から第4号までの委員から、委員の互選により選出する。
3	委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
4	副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代行する。
(議事)	
第5条	委員会は、委員の過半数の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。
2	委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
(開催)	
第6条	委員会は、原則として月1回定例委員会を開催する。ただし、議長が必要と認めたときは、臨時に開催することができる。
(意見の聴取)	
第7条	委員長は、必要があるときは、委員以外の者を委員会に出席させ、意見を聴くことができる。
(小委員会)	
第8条	委員会に、大学院入試に関する事項を調査審議するため、入試小委員会を置くことができる。
2	入試小委員会に関し必要な事項は、別に定める。
(事務)	
第9条	委員会の事務は、生命科学系事務部において処理する。
(雑件)	
第10条	この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。
附 則	
この規則は、平成22年4月1日から施行する。	
この規則は、平成23年2月23日から施行する。	

(出典：大学院教育委員会規則)



○熊本大学大学院医学教育部規則		(平成16年4月1日規則第192号)
改	平成17年12月28日規則第137号	平成18年10月25日規則第250号
正	平成19年2月28日規則第24号	平成20年1月23日規則第21号
	平成21年1月28日規則第20号	平成22年3月26日規則第88号
	平成23年3月23日規則第67号	平成24年3月28日規則第64号
	平成24年5月23日規則第80号	平成24年11月28日規則第112号
	平成25年2月27日規則第20号	平成25年3月19日規則第22号
	平成26年3月19日規則第38号	

(趣旨)

第1条 この規則は、熊本大学大学院学則(平成16年4月1日制定。以下「学則という。」)第11条の規定に基づき、熊本大学大学院医学教育部(以下「本教育部」という。))の授業科目、単位、教育コース、履修方法その他必要な事項を定める。

(教育上の目的)

第1条の2 医科学専攻(修士課程)は、医学又は生命科学の知識及び思考力を備えた、専門分野における高度な研究能力を有する研究者、教育者又は高度専門職業人を育成することを目的とする。

2 医学専攻(博士課程)は、医学又は生命科学の幅広い知識及び深い思考力を備えた、専門分野における国際的研究能力を有する研究者若しくは教育者又は高い研究志向及び問題解決能力を有する高度医療専門職業人を育成することを目的とする。

(授業科目及び単位)

第2条 修士課程における授業科目及び単位数は、別表第1のとおりとする。

2 博士課程における授業科目は、別表第2のとおりとする。

(履修方法等)

第3条 修士課程の学生は、別表第1に掲げる授業科目のうちから、30単位以上を修得しなければならない。

2 博士課程の学生は、別表第2に掲げる授業科目のうちから、30単位以上を修得しなければならない。

3 前項の履修に当たっては、別表第3のとおり修得しなければならない。

4 学生は、授業科目を選択する場合は、指導教員の指導を受けるものとする。

5 開講する授業科目、単位数、授業担当教員及び授業時間は、学年又は学期の始めに公示する。

6 授業は、講義、演習、実験若しくは実習のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

7 毎年度開講する授業科目の内容、方法及び成績評価基準等は、学年の始めに授業計画書により公示する。

(履修科目の届出及び承認)

第4条 学生は、履修しようとする授業科目を所定の履修届により、指定の期日までに、指導教員の承認を得て大学院医学教育部長(以下「教育部長」という。))に提出するものとする。

(出典：医学教育部規則（抜粋）)

### (3) 専門分野の人材育成プログラム

専門性のある人材を育成するために専門分野に特化した独創性の高いプログラムを実施している。平成22～25年度には次の5つのプログラムを実施した。特に平成24年度からは、HIGOプログラムを創出し運営している。これ以外にも基礎医学研究者育成のための柴三郎プログラムも実施されている。

#### 1) エイズ制圧を目指した研究者養成プログラム

「エイズ制圧のためのトランスレーショナル研究者育成コース」と「エイズ先端研究者育成コース」の2つのサブコースを設置し、トランスレーショナル研究を推進する能力を有した研究者・エイズ専門医の育成と高病原性微生物を取り扱う能力を備えた研究者の育成を行う。

2) 発生・再生医学研究者育成コース

発生・再生医学に関する学際的な諸領域を包括的に理解して、将来の再生医療を実践する上で解決すべき諸問題に挑む先導的な研究者、医師、専門家の育成を行う。

3) がん博士育成プログラム

研究とがん医療の臨床実習を共に行い、がん医療に携わる医療人として必須の様々な知識を重点的に習得することができる。

4) 代謝・循環情報医学エキスパート育成プログラム

代謝・循環器疾患の臨床病態を熟知した生命科学研究者、リサーチマインドを有する高度専門臨床医、優れた病態知識を有する疫学・保健医療専門家の育成を行う。

5) グローカルな健康生命科学パイオニア養成(HIGO)プログラム

九州・アジアの社会的ニーズを理解し、地域と世界を結びつけて、諸課題の解決に挑戦できるグローバルな健康生命科学パイオニアとしてのリーダーを育成するため、大学・行政・産業界が連携した大学院教育プログラムである。社会文化科学に精通した人材育成を目指し海外インターンシップも展開しているのが特徴である。

2. 入学者選抜方法の工夫（中期計画番号 K03、K07、K20）

(1) アドミッションポリシー

アドミッションポリシーに関する入学者アンケート調査を実施し、アドミッションポリシーの一部修正を行った。現在、修士課程において4項目、博士課程において7項目のアドミッションポリシーを設定し入試説明会やウェブサイトで周知している（資料 A-1-1-2-1～A-1-1-2-3）。

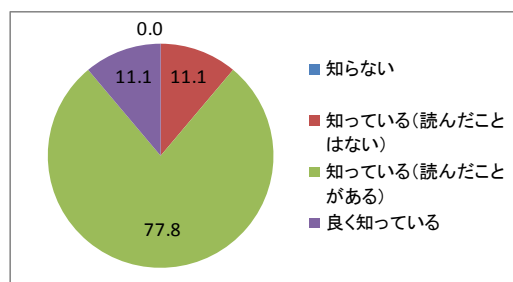
平成25年度大学院入学者アンケート集計（医学）

2013.05.31

○前期課程

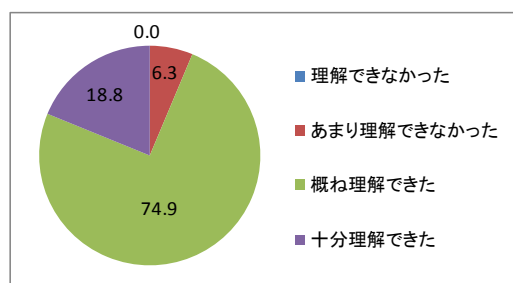
Q5. 合格された研究科(教育部)のアドミッションポリシー(入学者受入方針)を知っていますか？

	選択項目	人数	%
1	知らない	0	0.0
2	知っている(読んだことはない)	2	11.1
3	知っている(読んだことがある)	14	77.8
4	良く知っている	2	11.1
	無回答	0	
	計	18	100.0



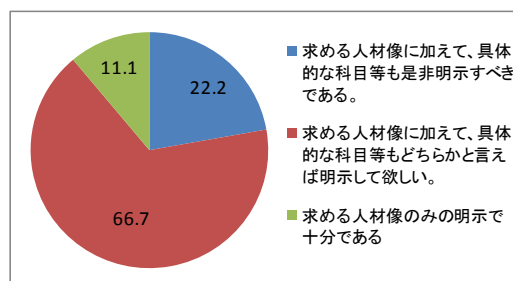
Q6. Q5で3又は4と回答した方にお尋ねします

	選択項目	人数	%
1	理解できなかった	0	0.0
2	あまり理解できなかった	1	6.3
3	概ね理解できた	12	74.9
4	十分理解できた	3	18.8
	計	16	100.0



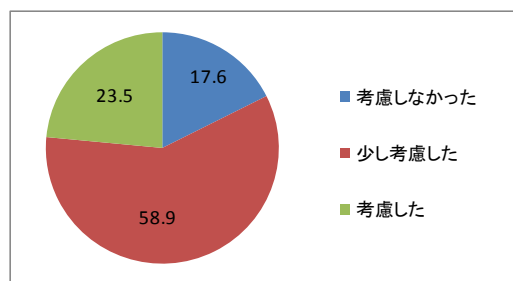
Q7. 現行アドミッションポリシーは求める人材像を明示していますが、学部又は博士前期(修士)課程で修得しておくべき具体的な科目や学問分野についても明示すべきかどうか、御意見を聞かせて下さい。

	選択項目	人数	%
1	求める人材像に加えて、具体的な科目等も是非明示すべきである。	4	22.2
2	求める人材像に加えて、具体的な科目等もどちらかと言えば明示して欲しい。	12	66.7
3	求める人材像のみの明示で十分である	2	11.1
	無回答	0	
	計	18	100.0



Q8. 大学院の選択にあたりアドミッションポリシーを考慮しましたか？

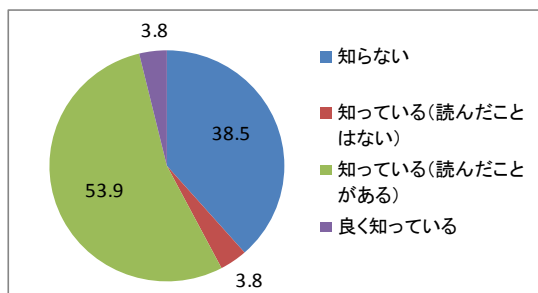
	選択項目	人数	%
1	考慮しなかった	3	17.6
2	少し考慮した	10	58.9
3	考慮した	4	23.5
	無回答	1	
	計	18	100.0



○博士課程

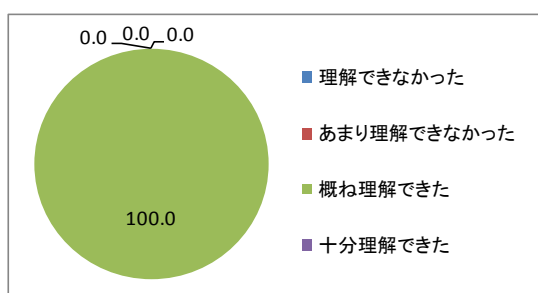
Q5. 合格された研究科(教育部)のアドミッションポリシー(入学者受入方針)を知っていますか？

選択項目	人数	%
1 知らない	10	38.5
2 知っている(読んだことはない)	1	3.8
3 知っている(読んだことがある)	14	53.9
4 良く知っている	1	3.8
無回答	0	
計	26	100.0



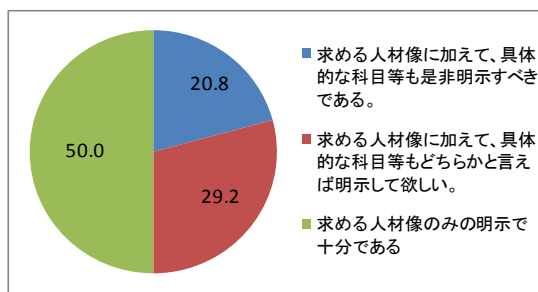
Q6. Q5で3又は4と回答した方にお尋ねします

選択項目	人数	%
1 理解できなかった	0	0.0
2 あまり理解できなかった	0	0.0
3 概ね理解できた	15	100.0
4 十分理解できた	0	0.0
計	15	100.0



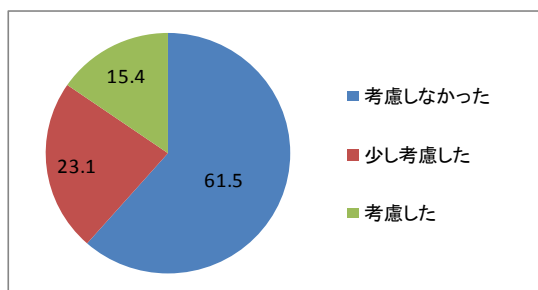
Q7. 現行アドミッションポリシーは求める人材像を明示していますが、学部又は博士前期(修士)課程で修得しておくべき具体的な科目や学問分野についても明示すべきかどうか、御意見を聞かせて下さい。

選択項目	人数	%
1 求める人材像に加えて、具体的な科目等も是非明示すべきである。	5	20.8
2 求める人材像に加えて、具体的な科目等もどちらかと言えば明示して欲しい。	7	29.2
3 求める人材像のみの明示で十分である	12	50.0
無回答	2	
計	26	100.0



Q8. 大学院の選択にあたりアドミッションポリシーを考慮しましたか？

選択項目	人数	%
1 考慮しなかった	16	61.5
2 少し考慮した	6	23.1
3 考慮した	4	15.4
無回答	0	
計	26	100.0



(出典：入学者アンケート結果(入試ユニット作成))

資料 A-1-1-2-2 医学教育部のアドミッションポリシー

熊本大学大学院医学教育部のアドミッションポリシー（旧）	
<b>修士課程（医科学専攻）</b>	
1.	医学・生命科学に興味をもち、最先端の医学・医療および生命科学領域に対応できる研究者、教育者あるいは高度専門職業人になる能力と意欲をもった人
2.	修士課程における研究をさらに発展させるべく、博士課程に進学する意欲をもつ人
<b>博士課程（医学専攻）</b>	
1.	医学の教育・研究を通して将来の我が国および諸外国の医学・医療に貢献する能力と熱意を持つ人間性豊かな人
2.	研究を通して国内外の人々との交流を実践し、医学・生命科学分野において世界をリードする研究の展開を志す人
3.	在職中の社会人として、医学・生命科学の研究に取り組む熱意と能力を持った人
4.	医学の分野に限定せず、多彩な学問領域において高い基礎学力を身につけた人
熊本大学大学院医学教育部のアドミッションポリシー（現行）	
<b>修士課程（医科学専攻）</b>	
1.	医学・生命科学に興味をもち、最先端の医学・生命科学領域に対応できる研究者、教育者あるいは高度専門職業人になる能力と意欲をもった人
2.	修士課程における研究をさらに発展させるべく、博士課程に進学する意欲をもつ人
3.	博士課程に進学して、エイズ学、発生・再生医学、代謝・循環情報医学などの分野の高度専門職業人になる意欲を強くもつ人
4.	博士課程に進学して、地域・アジアで活躍するグローバルな健康生命科学パイオニアになる意欲を強くもつ人
<b>博士課程（医学専攻）</b>	
1.	教育・研究を通して、将来の我が国および諸外国の医学・生命科学に貢献する能力と熱意を持つ人間性豊かな人
2.	研究を通して国内外の人々との交流を実践し、医学・生命科学の分野において世界をリードする研究と教育の展開を志す人
3.	在職中の社会人として、医学・生命科学の研究に取り組む熱意と能力を持った人
4.	医学以外の多彩な学問領域において高い基礎学力を身につけ、医学・生命科学の教育、研究あるいは社会還元を志す人
5.	エイズ学、発生・再生医学、代謝・循環情報医学などの分野の高度専門職業人を強く志す人
6.	がん研究とがん医療の臨床習練をともにを行い、がん診療に関係する専門医あるいは認定医の資格取得を志す人
7.	地域・アジアで活躍するグローバルな健康生命科学パイオニアになる意欲を強くもつ人

（出典：平成 25 年度及び平成 26 年度修士課程・博士課程学生募集要項より）

資料 A-1-1-2-3 入試説明会実施状況

大学院入試説明会実施状況			
実施年度	参加者数 第1回 (5月)	参加者数 第2回 (11月)	参加者数 合計
22	54	12	66
23	35	20	55
24	41	35	76
25	26	12	38

（出典：医学事務チーム教務担当資料）

(2) 入学選抜試験の改革

修士課程では推薦入試、一般入試、博士課程では進学者選考、一般入試、社会人入試、外国人留学生入試を実施している。年2回(5月、11月)の入試説明会を実施し適切な情報提供を行っている。入試に関する情報はウェブサイトにも公開しており、詳細な情報を簡便に入手できるようにしている。ウェブサイトによる合格発表も実施し受験生の利便性を図っている。平成23年度からは、外国からの志願者にはIELTSなどのグローバル英語試験評価結果を入学選抜試験の英語の試験として利用した。インターネット面接を併用し海外在住の受験生が来日することなく受験可能となり、外国人留学生の利便性が向上した。平成25年度より入学選抜試験の英語試験としてTOEFL-ITPを導入することで、より国際通用性のある入試システムを構築した(資料A-1-1-2-4、A-1-1-2-5)。

資料A-1-1-2-4 入試のご案内(大学院)



**熊本大学大学院生命科学研究所**

[お問い合わせ](#)
[品](#)
[サイトマップ](#)
[English](#)

---

**入試のご案内** 大学院

[トップページ](#) [戻る](#)

[学部の入試のご案内はこちら >>](#)

お知らせ

**英語試験実施方法の変更について**

本教育部修士課程(医科学専攻)及び博士課程(医学専攻)では、平成26年度入試より、従来の独自試験から、TOEFL-ITP試験に変更しております(ただし、博士課程第3期入試を除く)。詳しくは、以下のファイルをご覧ください。

- ・[英語試験の変更について\(PDF 38KB\)](#)


**平成27年度入試募集要項一部変更について**

本教育部では、修士課程(推薦入試)、修士課程(第1期募集)および博士課程(第1期募集)の応募者でHIGOプログラムの希望者に対して、これまで入学後にHIGOプログラム選抜試験を実施していましたが、平成27年度より、入試と併せて選抜試験を実施することとなりました。詳しくは、以下の募集要項の選抜区分にあります[「一部変更情報」](#)をご覧ください。

**平成27年度募集** ※Web合格速報は、当日リンクします。

医学教育部	出願期間	試験日	合格者発表	入学手続期間
修士課程[推薦入試] <a href="#">【PDF 429KB】</a> 一部変更情報 <a href="#">【PDF 8KB】</a>	26年6月11日 ～6月17日	26年7月5日	7月25日 Web合格発表!	27年3月
修士課程[第1期] (外国人留学生平成26年10月入学を含む) <a href="#">【PDF 459KB】</a> 一部変更情報 <a href="#">【PDF 9KB】</a>	26年7月17日 ～7月23日	26年8月12日	8月29日 <a href="#">Web合格発表!</a>	27年3月
博士課程[第1期] (一般・社会人・外国人留学生) <a href="#">【PDF 587KB】</a> 一部変更情報 <a href="#">【PDF 10KB】</a>	26年7月17日 ～7月23日	26年8月12日	8月29日 <a href="#">Web合格発表!</a>	27年3月
博士課程 [平成26年10月入学] (一般・社会人・外国人留学生) <a href="#">【PDF 586KB】</a>	26年7月17日 ～7月23日	26年8月12日	8月29日 <a href="#">Web合格発表!</a>	26年9月

(出典：生命科学研究所・医学教育部ウェブサイト)

 **Kumamoto University**

平成26年度

熊本大学大学院医学教育部

修士・博士課程入試説明会

1. 日時等: **平成25年11月 9日(土)**

① 13:00~13:30  
内容: **修士課程**の概要及び入試の説明

② 13:30~13:50  
内容: 平成24年度採択リーディング大学院 HIGO  
プログラムの紹介  
(対象: 修士課程・博士課程受験希望者・学部学生)

③ 14:00~14:30  
内容: **博士課程**の概要及び入試の説明

2. 会 場: 熊本大学 医学教育図書棟3階 第2講義室

3. 主 催: 熊本大学大学院医学教育部

詳細については、熊本大学大学院医学教育部 HP をご覧ください。  
※ 検索サイトで「医学教育部」を検索すれば、簡単にアクセスできます。また、  
右下のQRコードで上記の情報を保存できます。

〒860-8556 熊本市中央区本荘1-1-1  
熊本大学生命科学系事務ユニット医学事務チーム教務担当  
TEL 096-373-5025 FAX 096-373-5030  
E-mail: [iyg-igaKu@jimu.kumamoto-u.ac.jp](mailto:iyg-igaKu@jimu.kumamoto-u.ac.jp)



(出典：生命科学研究部・医学教育部ウェブサイト)

(3) 入学者実績および充足率

入学者の定員に対する充足率は修士課程では 100%を超えており、博士課程においても 85~98%と十分な学生の確保が実施できている。外国人留学生は、平成 22~25 年度には修士課程 8 名、博士課程 49 名が入学しており、特に国費留学生特別枠 16 名が入学した。  
(資料 A-1-1-2-6、A-1-1-2-7)。

資料 A-1-1-2-6 入学試験実施状況

過去5年間の医科学専攻(修士課程)入学試験実施状況						
年度	募集日程	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員充足率
22年度	推薦	18	18	18	16	
	第1期	13	13	11	10	
	第2期	8	8	7	7	
	合計	39	39	36	33	1.65
23年度	推薦	13	13	13	13	
	第1期	10	10	10	6	
	第2期	4	4	4	4	
	合計	27	27	27	23	1.15
24年度	推薦	8	8	8	8	
	第1期	15	14	14	11	
	第2期	8	8	7	5	
	合計	31	30	29	24	1.20
25年度	推薦	11	11	11	11	
	第1期	18	17	16	16	
	第2期	9	9	9	8	
	合計	38	37	36	35	1.75
26年度	推薦	7	7	7	6	
	第1期	8	8	6	6	
	第2期	4	4	3	3	
	合計	19	19	16	15	0.75

過去5年間の医学専攻(博士課程)入学試験実施状況						
年度	募集日程	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員充足率
22年度	第1期(進学者含む)	14	14	14	13	
	第2期	56	56	56	56	
	第3期	6	6	6	6	
	10月入学留学生	5	5	5	5	
	国費留学生優先配置	10	10	6	6	
	合計	91	91	87	86	0.98
23年度	第1期(進学者含む)	27	27	27	24	
	第2期	33	33	33	33	
	第3期	7	7	7	7	
	10月入学留学生	5	5	5	5	
	国費留学生優先配置	10	10	6	6	
	合計	82	82	78	75	0.85
24年度	第1期(進学者含む)	17	17	17	16	
	第2期	53	51	50	49	
	第3期	10	10	10	10	
	H24.10月入学	4	3	3	3	
	国費留学生優先配置	9	9	6	6	
	中国国家高水平	1	1	1	1	
合計	94	91	87	85	0.97	
25年度	第1期(進学者含む)	14	14	14	14	
	第2期	52	50	49	47	
	第3期	11	11	11	11	
	H25.10月入学	4	4	4	4	
	HIGOプログラム留学生	3	3	2	2	
	合計	84	82	80	78	0.89
26年度(予定)	第1期(進学者含む)	15	15	15	13	
	第2期	43	43	43	43	
	第3期	24	24	24	24	
	H26.10月入学	8	8	8	8	
	HIGOプログラム留学生	8	8	5	4	
	中国国家高水平	1	1	1	1	
合計	99	99	96	93	1.06	

(出典：医学事務チーム教務担当資料)



資料 A-1-1-2-7 外国人留学生（正規生）の入学数（国費・私費別）

年度	博士			修士			非正規生	
	国費	私費	計	国費	私費	計	国費	私費
H22	7	8	15	0	1	1	1	0
H23	7	7	14	0	1	1	1	3
H24	7	4	11	0	3	3	0	0
H25	2	7	9	0	3	3	0	0
合計	23	26	49	0	8	8	2	3

(出典：医学事務チーム教務担当資料)

## 3. 教員の質を保证するための工夫（中期計画番号 K03、K07、K20）

## (1) 教員の体制・教員資格審査

大学院教育を担当する教員の教育能力の評価に関して、医学教育部において独自の評価システムを考案し、それに基づいて厳格に審査し、科目担当教員を十分に確保している（資料 A-1-1-3-1、A-1-1-3-2）。

資料 A-1-1-3-1 教員資格審査基準（抜粋）

## 大学院医学教育部を担当する教員の資格審査基準

平成 19 年 8 月 1 日

大学院医学教育部教授会承認

一部改正 平成 19 年 12 月 26 日

一部改正 平成 20 年 3 月 26 日

一部改正 平成 21 年 11 月 25 日

一部改正 平成 23 年 2 月 23 日

一部改正 平成 26 年 8 月 27 日

大学院医学教育部を担当する教員の資格審査については、大学院教育委員会で審議して、その結果を大学院教育部教授会に附議し、同教授会が決定する。原則として以下の諸要件への適合性を検討し、下記 2 の大学院教員判定基準の(1)～(6)、または(7)を目安にして判定する。なお、本基準については、平成 19 年度から初めて適用するため、今後、必要に応じて修正できるものとする。

また、審査過程で審議した重要な事項については記録して、覚書として残すものとする。

## 1. 要件

- (1) 専門分野に関する博士の学位を有すること。
- (2) 専門分野に関する学術論文を継続的に発表していること。
- (3) 教育・研究・診療に関連した外部獲得資金を相応に獲得していること。
- (4) 大学教員あるいは国公立・民間研究所の職員として一定期間以上の教育・研究経験を有すること。（大学院、学部、短期大学での科目担当経験ほか、および国公立・民間研究所における研究業務等について申請者ごとに個別に判定する。なお、特任教員や非常勤教員等としての教育・研究経験も評価の対象とする。）
- (5) 専門分野の教育・研究に関連した高度の知識、特殊な技術・技能や資格を有すること。
- (6) 専門診療分野に関連した専門医を取得するなど、高度の診療技術を有すること。
- (7) 学術研究に関連した知的財産を所有していること。
- (8) 専門分野の学会、研究会あるいは学術集会等において、重要な学術的あるいは社会的な貢献をしていること。
- (9) 教育・研究・診療において国際交流を通じて、国際的な貢献をしていること。

(出典：医学教育部教員資格審査基準)

資料 A-1-1-3-2 専任教員一覧（平成26年5月1日現在）

学部等名	学科・専攻等名	専任教員数		職名					設置基準 上必要専 任教員数	専任教員1 人当たりの 在籍学生 数	別掲(大学院のみ)			合計
		性別	教授	准教授	講師	助教	助手	合計			研究指導教員 教授	研究指導 補助教員		
													みなし専任	
医学教育部 (修士課程)	医科学専攻	男	57	38	33	41		169	12		81	53	84	165
		女	2	5	1	11		19			3	2	15	18
医学教育部 (博士課程)	医学専攻	男	57	38	33	40		168	60		77	53	87	164
		女	2	5	1	11		19			3	2	14	17

(出典：共通様式調査)

(2) 教員の教育力向上・専門性向上のための工夫

教員の教育力向上および専門性向上のために、大学院教育 FD 講演会を毎年実施している。大学院セミナーは医学教育部における教員の FD の一環として位置づけられ、各教員は年2回以上出席するように広く周知している。優秀な教育活動を実施している教員に対して教育活動表彰推薦し、教育活動の活性化を促進している。平成22～25年度には5グループ9名の教員の表彰が行われた(資料 A-1-1-3-3～A-1-1-3-5)。

資料 A-1-1-3-3 大学院FDセミナー実施一覧

FDセミナー一覧			
年度	タイトル	参加者数 (教職員)	備考
22	組織的な若手研究者に向けて	40	
23	医学生にとって魅力ある大学院プログラムとは	34	
24	熊本発 基礎研究医養成 (柴三郎プログラムキックオフ・シンポジウム)	33	
25	臨床研究者の育成と臨床研究の推進 (臨床研究支援センターキックオフ・シンポジウム)	54	参加者数には学生も含む

(出典：医学事務チーム教務担当資料)

資料 A-1-1-3-4 大学院セミナー教員参加者数

平成22年度～平成25年度 大学院セミナー 教員出席数						
	H22	H23	H24	H25	合計	
医学・生命科学セミナー	32	21	25	33	111	
名医に学ぶセミナー	23	22	27	20	92	
合計	55	43	52	53	203	

(出典：医学事務チーム教務担当資料)

資料 A-1-1-3-5 教育活動表彰推薦要領、表彰者一覧

大学院医学教育部における教育活動に関する表彰者の推薦要領について	
1.	被推薦者あるいはグループの決定 下記の要領で推薦された教員あるいはグループの中から、大学院教育委員会で1名の教員またはグループを選考し、大学院医学教育部教授会に付議する。
2.	表彰候補者の推薦方法 1) 対象者：教育活動表彰実施要領に準ずる。対象者は個人でもグループでも可とする。表彰の対象としては、大学院学生に対する卓越した研究指導（優れた学位論文・関連論文の作成指導など）、大学院教育改革（グローバル COE、リーディング大学院など）、大学院教育 G P 活動、大学院教育 F D 活動、その他の大学院教育活動において、優れた貢献をした教員あるいはグループとする。 2) 表彰区分（どちらかを選択） ①一般表彰 ②若手表彰（概ね35歳以下の者） 3) 候補者の推薦は、以下のいずれかによるものとする。 ① 大学院医学教育部を担当する各分野の長は、連続する2事業年（度）における大学院医学教育部における教育活動について、表彰の対象になるような取り組みがある場合に、別紙に示す所定の用紙に、その内容を記載し、大学院教育委員会に候補者を自薦あるいは他薦を問わず、推薦することができる。 ② 大学院教育委員会委員は、表彰の対象になるような取り組みに対して所定の用紙に、その内容を記載し、候補者を推薦することができる。 4) 申請書・推薦書の提出先 熊本大学 生命科学系事務ユニット 医学系総務・人事担当 【内線】5659 【FAX】5797 【E-mail】ski-somu@jimu.kumamoto-u.ac.jp

(出典：大学院医学教育部における教育活動に関する表彰者の推薦要領)

年度	表彰者	表彰理由
H22	原田信志教授	平成20～22年度の3年に渡って、医学教育部長に就任され、この間に大学院修士および博士課程のカリキュラムの改革、eラーニングシステムの構築、大学院FD活動の推進、留学生の受入に関わる入学制度、カリキュラムならびに広報活動の整備を統括された。また組織的な若手研究者の海外派遣事業、産官連携を活性化する若手研究者海外派遣プログラムなどの大学院教育支援プログラムの採択ならびに運営に貢献するとともに、国内外の大学等の教育・研究組織との単位互換制度や交流協定の締結による、大学院教育の全国展開と国際化を実現された。さらに大学院教育に関わる各種の評価の実施、TA、RA、KW S、KDSなどの雇用および奨学制度を整備され、各種の大学院学生へのインセンティブの付与を実現された。また、大学院教育に関する教授会等の会議の迅速化と簡素化を実現され、大学院教育の発展と推進に多大の貢献をされた。
	赤池・小椋・宋教授	大学院教育委員会において赤池教授はFD部会長として、小椋教授は入試広報部会長として、また宋教授は国際化部会長として、下記の取り組みについて大きく貢献した。赤池教授は、毎年開催している大学院FD講演会の立案と実行、ならびに平成21年度に入試説明会を大幅に改革実施することに貢献された。小椋教授は、数多い入試について膨大な問題の検討を担当し、さらに医学教育部のHP等の整備による広報活動に貢献された。宋教授は、国費留学生の優先配置や中国高水準留学生の受入態勢の整備、医学教育部のHPの英文化、さらに組織的な若手研究者の海外派遣プログラムの運営等に貢献された。
H23	馬場秀夫教授	平成19～23年度に大学改革推進事業に選定された「九州がんプロフェッショナル養成プラン」のコーディネーターとして、九州13大学と連携した大学院教育改革を推進した。平成20年度に大学院医学教育部博士課程のカリキュラムを全面的に改定した際に、がん医療に関する専門的な知識及び技能を有する医師を養成し、質の高いがん医療の均てん化を図ることを目的として、「がん博士育成プログラム」(専門医育成コース)ならびに「がん専門医プラットフォームプログラム」(インテンシブコース)を立案し設置した。また、より効果的かつ効率的な教育を実現するために、連携大学間で他大学の講義を受講できるeラーニングシステムを構築し、単位互換のための体制を整備した。このような取組は、がん専門医の養成を目的とした博士課程カリキュラムの充実にも多大なる貢献をした。
	桑 昭苑教授	平成19～23年度に採択された、グローバルCOE「細胞系譜制御研究の国際的人材育成ユニット」の拠点リーダーを務め、この中で大学院学生の教育について、以下の点で大きく貢献した。1)ジュニア・リサーチアソシエイト(Jr RA)としての大学院生の雇用による就学支援、2)完全英語化定期セミナーの開催や研究実施計画書の提出など英語によるコミュニケーション能力の涵養、3)国際学術集会の主催ならびに国際学会への大学院生の派遣による国際化の推進、4)複数の事業担当者による研究指導の実現、5)医学教育部「発生・再生医学研究者育成コース」の担当と推進。このようなグローバルCOEにおける取組は、教員の個人研究の推進のみならず、大学院生の教育レベルの向上と国際化の推進に大きく貢献した。
H24	募集なし	
H25	満屋・滝口・松下教授	大学院における教育改革、国際化推進、研究指導において、たぐいまれなリーダーシップをもって、その推進に励み、下記のような顕著な功績を挙げて来られました。候補者らは「エイズ制圧をめざした研究者養成プログラム」(平成18年度・魅力ある大学院教育イニシアティブ採択)に基づき、国内外から大学院学生を受け入れてHIV感染症/AIDSに関する組織的な大学院教育を実施し、Translational Researchを推進する研究者・エイズ専門医の育成、さらにHIV-1などの高病原性微生物を取り扱う能力を備えた研究者の育成に大きく貢献されました。また、すべての講義と実習および研究指導を英語で実施し、さらに国際シンポジウムを毎年開催して大学院生に研究発表の機会を与えるなど、国際的な環境での組織的かつ分野横断的な大学院研究教育システムを構築し率先して、その実践に動んで来られました。このような実績をベースとして、グローバルCOEプログラム(エイズ制圧を旨とした国際教育研究拠点、H20-24年度)の採択を導かれ、特色ある大学院教育プログラムの実質化と、その運営、留学生の獲得に積極的に務め、顕著な功績を築き上げて来られました。さらに特筆すべきこととして、H22年度からこれまでに12名の卒業生(うち国費留学生4名)が博士の学位を取得しております。また、27名がエイズ学教育コースに所属しており、そのうち15名が留学生(国費9名、私費6名)となっており、大学院教育の国際化、留学生教育において卓越した成果を挙げておられます。

## (3) 連携大学院の推進

多様な教員を確保するため学外機関と大学院連携講座を締結している。平成 25 年度までに 6 機関 8 分野を実施し、そのうち平成 22～25 年度に新たに締結した講座は 3 機関 4 分野である。平成 25 年度までに 16 名の客員教授および准教授が着任している。さらに平成 26 年 4 月より医薬品医療機器総合機構 (PMDA) との連携大学院を実施することが決定し、産官学連携したトランスレーショナルリサーチ推進に大きく寄与することが期待される。平成 25 年度には PMDA との連携大学院締結に向けてのキックオフシンポジウムおよび調印式を実施した (資料 A-1-1-3-6)。

## 資料 A-1-1-3-6 連携大学院データ

医学教育部における大学院連携講座一覧				
分野名	連携先機関名	開始年月	客員教授	客員准教授
臨床国際協力学	国立病院機構熊本医療センター	H18.4	1	2
生体機能評価学	国立水俣病総合研究センター	H20.4	0	2
循環器先進医療学	国立循環器病研究センター	H24.4	4	0
エイズ学IX	国立国際医療研究センター	H19.4	1	0
エイズ学X	国立国際医療研究センター	H19.4	1	0
エイズ学XI	国立感染症研究所	H24.4	1	0
エイズ学XII	国立感染症研究所	H24.7	0	1
腫瘍治療・トランスレーショナルリサーチ学	国立がん研究センター	H25.4	2	1

(出典：医学事務チーム教務担当資料)

## 4. 大学院教育改革のための外部資金獲得 (中期計画番号 K03、K07、K20)

大学院教育改革を目指して、GCOE「エイズ制圧を目指した国際教育研究拠点」、GCOE「細胞系譜制御研究の国際的人材育成ユニット」、「臨床・基礎・社会医学一体型先端教育の実践」、「九州がんプロフェッショナル養成プラン」、「九州がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」、「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」、「医学・医療の高度化の基盤を担う基礎研究医の養成」、「博士課程教育リーディングプログラム複合領域型」、「国費留学生・特別枠 (優先配置)」、「頭脳循環を活性化する若手研究者海外派遣プログラム」など数多くの外部資金を獲得し、積極的な改革を実践した。

(水準) 期待される水準を上回る

(判断理由)

大学院教育の実質化とともに専門分野の人材育成プログラムを実施しており、HIGO プログラムという新しいコースを創出・運営し、国際水準の教育者・研究者の育成を大きく推進した。また、アドミッションポリシーの修正を行い、入学選抜試験の改革により国際通用性のあるシステムを構築した。さらに、連携大学院の提携推進を通して多様な教員の確保を行うなど、教育の質の向上を行った。大学院教育改革を目指して数多くの外部資金を獲得し、積極的な改革を実践した。

## 観点 教育内容・教育方法

(観点に係る状況)

## 1. 教育課程の編成状況と工夫 (中期計画番号 K03、K07、K15、K20、K21)

医学教育部では修士課程および博士課程のそれぞれにカリキュラムポリシーを設置し、授業の実質化と研究指導体制の整備を行った。また、「専攻の人材育成像ならびに学位授与の方針」(ディプロマポリシー)を設置し、大学院修了の要件を明確化した。平成25年度より修士課程の外国人10月入学制度および平成24年度より博士課程の日本人10月入学制度を開始し多様な社会のニーズに対応した(資料A-1-2-1-1、A-1-2-1-2、P19前掲資料A-1-1-2-4)。

## 資料A-1-2-1-1 ディプロマポリシー (抜粋)

## 修士課程

::: 人材育成の目的
医学又は生命科学の知識及び思考力を備えた、専門分野における高度な研究能力を有する研究者、教育者又は高度専門職業人を育成することを目的とする。
::: 学位授与の方針
□ 1.学位授与の要件
当該課程の標準修業年限2年以上在学し、所定の単位(必修25単位、選択5単位、合計30単位以上)を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格することを課程修了の要件とする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。 修士論文審査と最終試験は、審査委員長1名、審査委員2名以上により構成される審査委員会により行われ、その報告を受けて医学教育部教授会での審議によって合否が決定される。
修士論文の審査基準
1. 研究の背景と目的、実験方法、実験結果とその解釈、文献的考察を含む論考等について十分な論述がなされていること。 2. 修士論文の作成要領にしたがって作成されていること。
最終試験は、口頭試問(公開発表)により行い、以下の基準により評価する。
1. 研究の内容について十分に理解し説明できること。 2. 研究の内容に関して提起される論点について論理的に考察できること。 3. 当該研究分野に関する専門的な知識を有すること。 4. 関連する研究分野に関する基礎的な知識を有すること。
□ 2.修得すべき知識・能力
1.高度な専門的知識・技能及び研究力
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 医学・生命科学に関する専攻分野の専門的な知識を持ち、学術論文を通して知識を更新することができる。</li> <li>■ 医学・生命科学に関する専攻分野の研究課題について、基本的な研究手法を習得し、適切な研究計画を立案し、研究結果を正しく解釈できる。</li> </ul>
2.学際的領域を理解できる深奥な教養力
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 基礎医学、臨床医学、社会医学に関する普遍的な知識を持っている。</li> <li>■ 生命倫理、医療倫理、臨床倫理、研究倫理に関する普遍的な知識を持っている。</li> <li>■ 医学・生命科学に関する領域複合的な課題を解決するための方法を立案できる。</li> </ul>
3.グローバルな視野と行動力
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ グローバルな視野から医学・生命科学に関する国際的な研究活動の推進に参画できる。</li> <li>■ 環境、保健、医療制度に関する知識とグローバルな視野を持ち、国際的なヘルスプロモーションの推進に参画できる。</li> </ul>
4.地域社会を牽引するリーダー力
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 修得した医学・生命科学の専門知識を活かして、地域の環境・健康・医薬品産業などの推進を牽引できる。</li> </ul>

## 博士課程

## ::: 人材育成の目的

医学又は生命科学の幅広い知識及び深い思考力を備えた、専門分野における国際的研究能力を有する研究者若しくは教育者又は高い研究志向及び問題解決能力を有する高度医療専門職業人を育成することを目的とする。

## ::: 学位授与の方針

## ■ 1. 学位授与の要件

当該課程の標準修業年限4年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験に合格することを課程修了の要件とする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、当該課程に3年以上在学すれば足りるものとする。

学位申請には、学位論文（Thesis）と、本人が筆頭（第1）著者となっている関連論文1編以上の提出を必要とする。所定の単位を修得し学位論文を提出した者について、学位論文の審査及び最終試験を行う。

学位論文審査と最終試験は、審査委員長1名、審査委員2名以上により構成される審査委員会により行われ、その報告を受けて医学教育部教授会での審議によって合否が決定される。

## 学位論文（Thesis）の審査基準

1. 単なる関連論文の写しや邦訳ではなく、研究の基礎となった文献の事実を含む研究の背景、研究の目的と基本的なストラテジー、詳細な実験方法、実験結果とその解釈、文献的考察を含む深い論考、研究の意義等に関する総括等について十分な論述がなされていること。
2. 学位論文の作成要領にしたがって作成されていること。

## 関連論文の認定基準

1. 医学教育部が定める「学位申請のための欧文雑誌」に登録された雑誌に掲載された欧文論文であること。
2. 学位論文（Thesis）に直接関わる内容を含み、その一部を構成すること。
3. 学位申請者が筆頭（第1）著者であること。申請者と他研究者とのequal contributionによる共著論文にあつては、論文中にそのことが明記されていれば共に第1著者とみなす。ただし、次項に定める場合を除き、他の著者が当該論文を学位論文の関連論文にしている場合は、これを学位申請のための関連論文とすることはできない。
4. 申請者と他研究者とのequal contributionによる共著論文であつて、論文が掲載された学術誌のImpact Factor(IF)を共同第1著者の数で除した数値が、5.0以上の場合、あるいは当該研究分野の上位10%にランキングされている学術誌に発表されている場合、既に他の第1著者が関連論文として学位を取得していても、学位申請のための関連論文にすることができる。
5. 関連論文における学位申請者の所属として、熊本大学が記載されていること。
6. 関連論文における共著者または謝辞に、熊本大学大学院医学教育部の研究指導者が含まれていること。
7. Short communicationの類を関連論文にする学位申請者は、投稿論文を事前に医学事務チーム教務担当へ提出すること。その後、内容について、大学院教育委員会が事前審査を行い、可否を決定する。

## 学位申請のための欧文雑誌の登録基準

1. 国外欧文雑誌については、ピアレビュー制度を採用し、編集委員が公表されていること。
2. 国内欧文雑誌については、欧文で作成された論文を投稿することが定められており、ピアレビュー制度を採用し、編集委員が公表されていること。
3. 上記の条件を満たせばオンライン形式の雑誌でも構わない。

## 最終試験は、口頭試問（公开发表）により行い、以下の基準により評価する。

1. 研究の内容について十分に理解し説明できること。
2. 研究の内容に関して提起される論点について論理的に考察できること。
3. 研究の将来的な展望について論述できること。
4. 当該研究分野に関する最先端の知識を有すること。
5. 関連する研究分野に関する基礎的な知識を有すること。

（出典：熊本大学ウェブサイト）

## 資料 A-1-2-1-2 カリキュラムポリシー

**● 熊本大学大学院医学教育部修士課程のカリキュラムポリシー**

高度な専門知識をもって医学・生命科学の分野で活躍できる研究者・教育者・専門職業人を育成するために、オムニバス形式の講義とマンツーマン教育による研究指導を中心としたカリキュラムにより、以下の知識・能力の習得を図ります。

1. 医学・生命科学に関する領域複合的な課題を解決できる学際的な専門知識
2. 国内外でヘルスプロモーションの推進に参画できる先進医療の専門知識
3. 技術革新によってもたらされる新しい医学・生命科学にも対応できる研究能力

**● 熊本大学大学院医学教育部博士課程のカリキュラムポリシー**

医学・生命科学分野で活躍する国際水準の研究者・教育者、高い研究志向を備えた臨床医など、研究マインドを持つ医療人を育成するために、オムニバス形式の講義・コースワークと、複数の指導分野の協同による研究指導を中心としたカリキュラムにより、以下の知識・能力の習得を図ります。

1. 先進の医学・生命科学に関する領域複合的な課題を解決できる高度で学際的な専門知識
2. 医学・生命科学分野の国際レベルでの先端的研究を遂行できる高い研究能力
3. 国内外で先進医療の推進と医療技術の革新をリードできる高度な医学知識と臨床技術

（出典：医学教育部ウェブサイトより）

## 2. 学生の主体的な学習を促すための取組（中期計画番号 K03、K07、K15、K20、K21）

### （1）単位取得についての説明・支援

入学時ガイダンスに履修案内・シラバスを配布しカリキュラム・履修方法の説明を行っている。ウェブサイトにも情報を公開しており社会人大学院生などガイダンスに参加が困難な学生にも周知できる体制を整えている。外国人留学生のため情報の英語化も行っている。シラバスには各教員の連絡先を記載しオフィスアワーを明示することで、講義・演習を受講する際に教員への質問を円滑に出来るようにしている。さらにシラバスには評価の基準と方法、事前学習、事後学習を記載し、学生の学習を支援している（資料 A-1-2-2-1、A-1-2-2-2）。

博士課程において所定の単位を修得し優れた研究成果を上げ、早期に学位論文を完成させた学生は在学期間短縮により修了することが出来る（資料 A-1-2-2-3）。一方で、仕事・育児・介護などで十分な研究時間を確保できない学生ため長期履修制度を整備しており、社会人大学院生の学位取得に結びついている（資料 A-1-2-2-4）。平成 24 年度より基礎研究医を養成するため「柴三郎プログラム」を新設し、医学部から大学院修了まで初期臨床研修と平行して研究をシームレスに継続できるシステムを構築した（資料 A-1-2-2-5）。

資料 A-1-2-2-1 シラバスによる履修案内 (抜粋)

熊本大学大学院医学教育部

ENGLISH

サイトマップ 熊本大学

トップページ >> 履修のご案内

大学院生命科学研究所

**大学院医学教育部**

アドミッションポリシー

カリキュラムポリシー

医学教育部長メッセージ

医学教育部の紹介

課程の紹介分野一覧

**履修のご案内**

入試のご案内

特得(トクトク)情報

学内専用情報

大学院薬学教育部

医学部

薬学部

学会・シンポジウム

アクセスマップ

関連施設リンク

- ・ 発生医学研究所
- ・ 医学部附属病院

## 履修のご案内 戻る

### 平成 26年度

- ▶ 修士課程シラバス日本語版【PDF/4.5 MB】 >>>
- ▶ 修士課程シラバス英語版【PDF/5 MB】 >>>
- ▶ 博士課程シラバス日本語版【PDF/8.2 MB】 >>>  
\* [6. eラーニングでの履修方法]について(P18)  
①熊本大学ポータルサイトへのアクセス方法に変更がありましたので掲載いたします。アクセス方法についてはこちらをご覧ください。
- ▶ 博士課程シラバス英語版【PDF/8.5 MB】 >>>

※ このシラバスは4月1日現在のものです。  
講義日程やeラーニング情報は「[授業・履修・eラーニングについて](#)」のページで最新の情報を確認してください。

### 平成 25年度

- ▶ 修士課程シラバス【PDF/1 MB】 >>>
- ▶ 博士課程シラバス日本語版【PDF/33 MB】 >>>
- ▶ 博士課程シラバス英語版【PDF/28 MB】 >>>

### 平成 24年度

- ▶ 修士課程シラバス【PDF/2 MB】 >>>
- ▶ 博士課程シラバス日本語版【PDF/28 MB】 >>>
- ▶ 博士課程シラバス英語版【PDF/28 MB】 >>>

(出典：医学教育部ウェブサイト)



資料 A-1-2-2-2 シラバス（講義科目の一例）

<b>授業科目：</b> B2 細胞機能制御学理論（選択2単位）		<b>時間割コード</b> 20030	
<b>科目主任教員：</b>	富澤 一仁（分子生理学）	TEL: 373-5050)	tomikt@kumamoto-u.ac.jp
<b>分担教員：</b>	桑 和彦（多能性幹細胞学）	TEL: 373-6805)	kkume@kumamoto-u.ac.jp
	齊藤 典子（細胞医学）	TEL: 373-6802)	norikos@kumamoto-u.ac.jp
	江崎 雅俊（分子細胞制御学）	TEL: 373-6581)	esaki@kumamoto-u.ac.jp
	中西 宏之（細胞情報薬理学）	TEL: 373-5074)	hnakanis@po.kumamoto-u.ac.jp
	中尾 光善（細胞医学）	TEL: 373-6800)	nnakao@po.kumamoto-u.ac.jp
	立石 智（損傷修復学）	TEL: 373-6802)	tate@po.kumamoto-u.ac.jp
<b>【授業の目標】</b>			
細胞機能制御学に関する講義では、以下のことを説明できるようになることを目標とする。(1) 蛋白質リン酸化など細胞内情報伝達機構とその破綻による病態生理と疾患発症のメカニズム、(2) 時計遺伝子による概日周期制御機構、(3) 細胞の運動などの種々の細胞機能における細胞骨格、細胞内小器官、細胞核ならびに細胞膜変形の制御機構、(4) エピジェネティクス機構による細胞制御機構、(5) 細胞周期、体細胞分裂と減数分裂、遺伝子の修復・組換え機構。			
<b>【授業の内容】</b>			
発生・再生、がん、老化、遺伝などの種々の生命現象を、生命の基本単位である細胞を中心に、分子レベルから細胞小器官、さらには組織、器官、個体レベルでそのメカニズムを最近の研究成果を含めて解説する。具体的には以下のことを講義する。(1) 生体の恒常性維持のために細胞がどのように機能制御しているか、リン酸化など細胞内情報伝達機構から理解する。またその破綻により生ずる病態生理、例えば糖尿病や神経変性疾患の発症機序、病態について解説する。(2) 概日周期生物時計が細胞レベルで時計遺伝子によりどのように制御されるかを解説する。(3) さまざまな生命現象に細胞の運動、接着、極性形成などの細胞機能が関わっており、これらの細胞機能において細胞骨格、細胞内小器官が必須の役割を担っている。また、細胞骨格の変化とともに細胞膜が能動的に変化して、これらの細胞機能を制御している。細胞骨格の制御機構、細胞内小器官と細胞核の機能、細胞骨格と細胞膜の協調作用などを講義する。(4) 様々な生命現象は、細胞の個性を確立・維持・消去することでなされている。すなわち、幹細胞からの分化、正常細胞のがん化、生殖細胞でのゲノム初期化など、同じゲノムをもつ細胞が質的に異なる細胞に変化するエピジェネティックな現象である。エピジェネティクスの制御機構、生命現象や疾患との関わり、新しいエピジェネティクス解析法、エピジェネティクス創薬などを解説する。(5) 細胞周期は、ゲノム DNA を安定に保つために制御されている。体細胞分裂では、複製されたゲノム DNA が均等に分配された後に細胞質が分裂する。減数分裂により、遺伝的多様性に富む配偶子が形成される。遺伝子は内的または外的要因により常に損傷されているが、さまざまな機構により修復される。			
<b>【キーワード】</b> ホルモン、サイトカイン、細胞内情報伝達、糖尿病、カドヘリン、カテニン、接着装置、アクチン、微小管、リン脂質、低分子量Gタンパク質、細胞核、エピジェネティクス、遺伝子発現、クロマチン、発生・再生、癌、チェックポイント、p53、cdk、サイクリン、遺伝的多様性、相同染色体、色素性乾皮症、除去修復			
<b>【授業の形態】</b> 質疑応答を重視した講義形式で、Power Point、OHP 等を活用する。なお遠隔地の学生や社会人学生等には、補講、集中講義、ビデオ講義あるいはe-ラーニング等により対処する。			
<b>【テキスト】</b> 特に指定はせず、講義のポイントをまとめたプリントを配布する。			
<b>【参考書】</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ " Pathophysiology of Disease: An Introduction to Clinical Medicine, 5<sup>th</sup> Edition" edited by Stephan J. McPhee and William F. Ganong, The McGraw-Hill Companies (2005).</li> <li>・ Developmental Biology Scott F Gilbert.</li> <li>・ Essential 細胞生物学 南江堂.</li> <li>・ EPIGENETICS (edited by David Allis et al.) Cold Spring Harbor Laboratory Press (2007).</li> </ul>			
<b>【オフィスアワー】</b> 講義内容や専門分野の疑問に関する質問は、上記の教員あてに電話あるいはEメールで問い合わせるか、研究室を訪問していただければ対応いたします。			
<b>【評価の基準と方法】</b> 毎講義後に出題する小テストあるいはレポートを 100 点満点で評価し、全講義の平均点を評価の基準とする。E-learning で受講した場合も同様である。			
<b>【事前学習】</b> シラバスならびに参考書等を、事前に予習しておくこと。			
<b>【事後学習】</b> 講義中の配付資料やノートをよく復習すること。質問があればオフィスアワーを利用すること。e-ラーニングが可能なものについては、そのコンテンツを復習すること。			

(出典 平成 25 年度博士課程シラバス)

資料 A-1-2-2-3 在学期間短縮制度に関する要件

【在学期間短縮制度】	
<p>所定の単位を修得し優れた研究成果を上げ学位論文を早期に完成させた学生は、希望に応じて「在学期間短縮に関わる学位審査」を受け、博士号学位を取得することができる。</p>	
<p>在学期間短縮により修了できる時期は、以下のとおりです。</p>	
4月入学者	10月入学者
1) 3学年修了時(3月)	1) 3学年修了時(9月)
2) 4学年 6月	2) 4学年 12月
3) 4学年 9月	3) 4学年 3月
4) 4学年 12月	4) 4学年 6月
<p>当該審査の関連論文に関する要件については、医学教育部が定める「学位申請のための欧文雑誌」に登録された雑誌に掲載された欧文論文であり、以下の①または②のいずれかを満たす発表論文に基づいて学位論文が作成されていること。なお、IFがボーダーラインにある論文についても、申請者による研究成果の発表や質疑に対する応答などを総合的に判断して、合格と判定できるものとする。</p>	
<p>① IFが5.0以上の学術雑誌、あるいは、各研究分野における学術雑誌のうち、そのIFが上位の10%にランクされている学術雑誌に、第1著者として論文を1編以上発表していること、あるいは発表予定(in press)であること(IFと該当学術雑誌の検索方法の詳細については<b>医学事務チーム教務担当</b>へ照会するか、<b>医学教育部HP:以下※</b>を参照のこと)。なお、共同第1著者が複数存在する論文については、IFを共同第1著者の数で除した数値をもって上記の評価の対象とする。また、複数の共同第1著者が当該論文を関連論文として用いて、異なる観点より学位論文(Thesis)を執筆することにより、学位を申請できるものとする。また短報論文(short communication等)については、論文の内容を検討したうえで認定の可否を決定する。</p>	
<p>② IFが2.5以上の学術雑誌、あるいは、各研究分野における学術雑誌のうち、そのIFが上位の40%にランクされている学術雑誌に、第1著者として論文を2つ以上発表しているか、発表予定(in press)であること。あるいは、第1著者として発表した、2報以上の論文のIFの総和が、5.0以上であること。共同第1著者による論文は1つまでは認めるが、それ以外に、1人で第1著者となっている論文を1編以上発表している必要がある。なお、共同第1著者が複数存在する論文については、IFを共同第1著者の数で除した数値をもって評価の対象とする。また、複数の共同第1著者が当該論文を関連論文として用いて、異なる観点より学位論文(Thesis)を執筆することにより、学位を申請できるものとする。2編の論文のうち短報論文(short communication等)1編までは、論文の内容を評価したうえで関連論文として認める。</p>	

(出典：博士課程シラバス)

資料 A-1-2-2-4 長期履修制度

2. 長期履修制度
<p>本教育部では、職業を有している等の事情により、標準修業年限(4年)を超えて一定の期間(最大8年まで)にわたり計画的に教育課程を履修し、修了することを願った者については、審査の上許可することがあります。この制度の適用者は「長期履修学生」といい、当該学生の授業料支払総額は、標準修業年限による修了者と同じになります。この制度の詳細については、目次の下段に示した<b>医学事務チーム教務担当</b>までお問い合わせ下さい。</p>

(出典：博士課程学生募集要項より抜粋)

長期履修学生数(新規)一覧			
年度	修士課程	博士課程	合計
22	0	5	5
23	0	4	4
24	0	3	3
25	1	4	5

(出典：医学事務チーム教務担当資料)

資料 A-1-2-2-5 柴三郎プログラムについて



(出典：柴三郎プログラムウェブサイト)

(2) eラーニングシステムの整備

平成 20 年より eラーニングシステムを開始し、日本語あるいは英語による eラーニングを順次整備している。実施率は平成 21 年度末には 37.1%であったが平成 25 年度末には 63.5%まで上昇し、306 のコンテンツを揃えている。平成 23 年には、がん博士育成プログラムの一環として全国 eラーニングクラウド大学間協定の締結を行い、専門的な講義の受講が可能となった。修士課程においても英語による eラーニングを整備し外国人留学生への対応を充実する予定である。研究倫理など研究者行動規範教育へ取り組むために eラーニングを中心に効果的な講義を準備し平成 26 年度より実施予定である (資料 A-1-2-2-6)。

資料 A-1-2-2-6 eラーニングに関する資料



(出典：医学事務チーム教務担当資料)

## 3. 学生への支援体制（中期計画番号 K03、K07、K15、K20、K21）

## (1) 研究推進のための支援体制

国際通用性のある研究者育成のため海外での発表・研究のための支援を実施した。「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」では修士課程 10 名、博士課程 41 名の海外への派遣を実施した（資料 A-1-2-3-1）。さらに「頭脳循環を活性化する若手研究者海外派遣プログラム」では 2 名の海外への派遣を実施した。希望する博士課程学生には「プロジェクト経費支援」を通じて研究費の補助を行った。若手研究者育成のためにリエゾンラボおよび COE ジュニア・リサーチアソシエイトを設置し大学院生にも積極的な研究活動を支援した。

## 資料 A-1-2-3-1 組織的な若手研究者等海外派遣プログラム採択状況

年度	修士課程	博士課程	計
22	3	4	7
23	6	23	29
24	1	14	15
計	10	41	51

プログラム採択期間：平成22年3月から平成25年3月

(出典：医学事務チーム教務担当資料)

## (2) 経済的支援体制

生活基盤を補助する経済支援を実施するため、大学院博士課程奨学金給付制度（KDS）および大学院博士課程奨学制度（KWS）を学生に周知し推薦を行った（資料 A-1-2-3-2、A-1-2-3-3）。ティーチングアシスタント（TA）は修士課程を中心に雇用し経済支援するとともに、雇用した学生を eラーニング撮影補助などの教務補佐員とし医学教育部の教育体制向上に寄与した（資料 A-1-2-3-4）。

## 資料 A-1-2-3-2 博士課程奨学金給付制度（KDS）採択者数

一般枠			私費留学生枠	
年度	採択者数	採択者のうち留学生	年度	採択者数
22	19	2	22	
23	17	1	23	3
24	19	0	23.10月	4
25	18	2	24	6
			24.10月	5
			25	5
			25.10月	2

※私費留学生枠は、平成23年度より開始。  
 ※10月入学は、私費留学生枠のみ。また、採択者数に内定者を含む。

(出典：医学事務チーム教務担当資料)

資料 A-1-2-3-3 博士課程奨学制度 (KWS) 採用者数

年度	前期採用者	後期採用者	合計	備考
22	20	22	42	
23	35	35	70	
24	46	44	90	
25	44	46	90	

※合計は延べ人数

(出典：医学事務チーム教務担当資料)

資料 A-1-2-3-4 ティーチングアシスタント (TA) 採用状況

年度	修士課程学生	博士課程学生	合計	備考
22	59	40	99	
23	35	19	54	
24	41		41	
25	45		45	

※TAは平成24年度より、修士課程学生のみを対象とした。

(出典：医学事務チーム教務担当資料)

(3) その他の支援体制

健康相談、生活相談、進路相談、各種ハラスメントの相談等のために、学生委員会やハラスメント相談員を設置し必要な相談・助言が出来る体制を整備している。また、平成 25 年度からは医学教育部のある本荘北キャンパスに健康相談室を設置し学生の健康相談にも対応している (資料 A-1-2-3-5)。

資料 A-1-2-3-5 健康相談室 (学生相談室) の設置

**医学部医学科・医学教育部 (共通)**

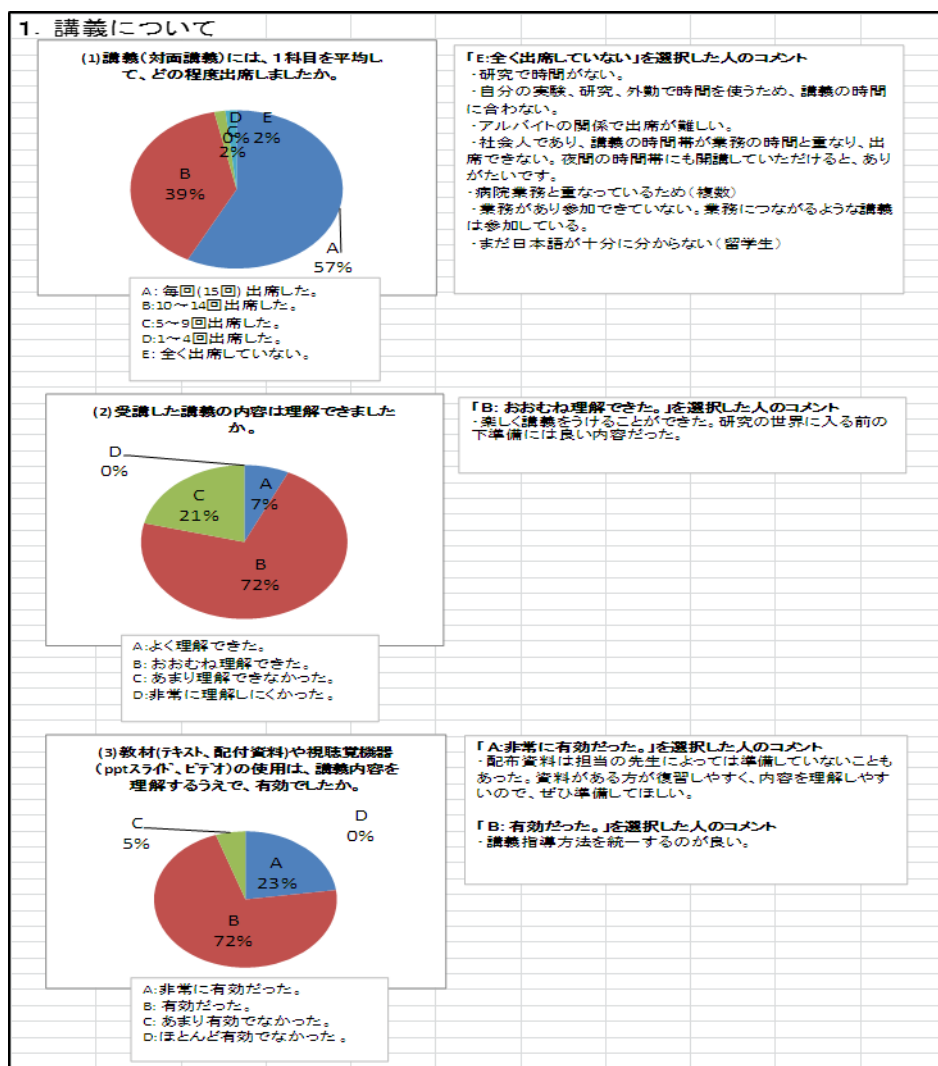
学生相談室を設置し、木・金曜日に看護師が常駐してメンタルヘルスの対応を行い、医学科学生委員会及び大学院学生委員会においても同様の対応を行っています。また、水曜日 (第4水曜日を除く) の 13時、14時、15時、16時に予約制で臨床心理士によるカウンセリングを行う「心とからだの悩みなんでも相談室@本荘キャンパス」を開室しています。

(出典：熊本大学ウェブサイト)

4. 教育プログラム質向上のための工夫（中期計画番号 K03、K07、K15、K20、K21）

教育課程の保証・質向上のため、医学教育部で独自にカリキュラム改善のためのアンケートを実施した（資料 A-1-2-4-1）。その他、授業改善アンケートを実施し、教員にフィードバックし改善を促した（資料 A-1-2-4-2）。平成 25 年度には e ラーニングについて授業参観を実施し内容の向上を行った（資料 A-1-2-4-3）。また、平成 25 年度には大学院教育委員会において全てのシラバスについてシラバスチェックを実施し科目毎に不備を抽出し各担当教員に改善を促した（資料 A-1-2-4-4）。

資料 A-1-2-4-1 カリキュラムに関するアンケート調査（抜粋）



(出典：医学事務チーム教務担当作成カリキュラムに関するアンケート調査集計表)

資料 A-1-2-4-2 授業改善のためのアンケート結果（平成24年度前期実施分）

「授業改善のためのアンケート」								
平成24年度前期								
医学教育部						回答科目数: 16科目		
						回答者数: 139人		
質問No.	質問文	回答						
Q1	授業の難易度は、どうでしたか。	1 非常に難しかった	2 少し難しかった	3 ちょうどよかった	4 少し易しかった	5 非常に易しかった	無効	平均
		6	43	85	4	1		
Q2	教員の声は、聞き取りやすかったですか。	1 非常に聞き取りやすかった	2 聞き取りやすかった	3 聞き取りにくかった	4 非常に聞き取りにくかった		無効	平均
		25	99	15				
Q3	授業の手段(教科書・プリント・板書、PowerPoint、ビデオ等)は、有効でしたか。	1 非常に有効だった	2 有効だった	3 あまり有効ではなかった	4 全く有効ではなかった		無効	平均
		17	114	8				
Q4	この授業において、教員との双方向的なやりとり(授業中の質疑応答、受講生へのレポートへの教員のコメント、質問カードの利用など)が、どの程度行われていましたか。	1 十分に行われていた	2 少し行われていた	3 あまり行われていなかった	4 全く行われていなかった		無効	平均
		52	69	18				
Q5	授業の目標は、どの程度明示されていましたか。	1 十分に明示されていた	2 少し明示されていた	3 あまり明示されていなかった	4 全く明示されていなかった		無効	平均
		62	59	18				
Q6	あなた自身は、授業の目標をどの程度達成したと思いますか。	1 十分に達成できた	2 少し達成できた	3 あまり達成できなかった	4 全く達成できなかった		無効	平均
		33	89	12	5			
Q7	大学の授業の単位は、授業時間の2倍の時間外学習を前提として、取得できることになっています。あなたは、この授業について1週あたり平均して、どの程度、授業時間外の学習(予習・復習、資料収集、文献購読、レポート作成など)をしましたか。	1 3時間以上	2 2時間以上3時間未満	3 1時間以上2時間未満	4 1時間未満	5 全くしなかった	無効	平均
		5	30	57	35	12		
Q8	全体として、この授業はどの程度有意義でしたか。	1 非常に有意義だった	2 有意義だった	3 あまり有意義ではなかった	4 全く有意義ではなかった		無効	平均
		38	88	10	3			

(出典：授業改善のためのアンケート集計データ)

## 資料 A-1-2-4-3 授業参観実施要領

## 大学院医学教育部における授業参観実施要領

## (趣旨)

第1 この要領は、大学院医学教育部（以下「本教育部」という）において行う授業参観の実施に関し必要な事項を定める。

## (授業参観の実施形態)

第2 授業参観は、講義科目（オムニバス形式）のeラーニング授業の相互視聴により行うものとする。

## (授業参観を実施する時期)

第3 授業参観は、原則として、通年で実施する。

## (授業参観を実施する授業科目の選定方法)

第4 博士課程の「理論」科目の中から、大学院教育委員会(以下「委員会」という。)が年度ごとに6科目を指定する。

## (授業参観の実施方法)

## 第5

- (1) 担当する「理論」科目の他の教員によるeラーニング授業を一つ選択し視聴する。該当するeラーニング授業がない等の事情がある場合は、担当する「理論」科目のうち対面講義により実施される授業を実施教員と相談の上で参観することで代替しても良い。
- (2) 科目主任は、特定の授業に参観者が集中しないよう予め科目内で調整を行う。
- (3) eラーニング授業を視聴した教員は、参考になった点やアドバイス等を記載した授業視聴報告書を教務担当に提出する。教務担当は当該報告書を授業実施教員に送付する。対面講義を参観した場合も同様とする。
- (4) 授業視聴報告書を受け取った授業担当教員は、報告書から参考になった点等を記載した授業公開報告書を教務担当に提出する。

## (授業参観後の意見交換)

## 第6

- (1) 「理論」科目ごとに上記報告書の内容を共有し、意見交換を行う。
- (2) 意見交換後、科目主任は、授業参観報告書をまとめ、教務担当に提出する。

## (報告書の作成)

第7 委員会は、授業参観報告書をもとに、授業参観実施報告書を作成し、授業参観の課題等について教授会に報告する。

## (雑則)

第8 この要領に定めるもののほか、授業参観の実施に関し必要な事項は、委員会の議を経て、教育部長が別に定める。

(出典：平成25年度医学教育部における授業参観実施要領)



資料 A-1-2-4-4 シラバスチェック実施要領（抜粋）

大学院医学教育部におけるシラバスチェック実施要領	
(趣旨)	
第1 この要領は、大学院医学教育部（以下「本教育部」という）において行うシラバスチェックの実施に関し必要な事項を定める。	
(実施体制)	
第2 シラバスチェックは、本教育部大学院教育委員会 FD・カリキュラム部会が主体となって、大学院教育委員会(以下「委員会」という。)が行う。	
(実施対象)	
第3 シラバスチェックの対象は、本教育部のシラバスに掲載されている講義科目及び実習科目とする。	
(シラバスチェックの項目及び観点)	
第4 シラバスチェックは、次の各号に掲げる項目について、当該各号に定める観点から行う。	
(1) 授業形態 どのような授業形態(講義、演習、実験・実習など)をとるのか明示されているか。	
(2) 授業の目標 学習の到達目標について、具体的に、分かり易く記載されているか。	
(3) 授業内容	
イ) 授業で取り上げる項目や重要な概念が、分かり易く記載されているか。	
ロ) 各回の授業の内容や、その相互の関連が示されているか。	
(4) キーワード キーワードが適切に記載されているか。	
(5) 参考書	
イ) 必要に応じて、適切な参考書が明示されているか。	
ロ) 参考書の著者、出版社、出版年などの書誌情報は示されているか。	
(6) 評価基準と方法	
イ) 評価基準が記載されているか。	
ロ) 評価の方法(質疑応答、小テスト、レポートなど)及び採点の方法が記載されているか。	
(7) 履修上の注意 オフィスアワーについて、教員ごとに問い合わせ先などが記載されているか。	
(8) 事前学習 授業に臨むにあたって、予習など事前に必要なことが記載されているか。	
(9) 事後学習 授業後の復習など、事後に必要な事が記載されているか。	
(評価値・集計及び分析)	
第5 第4各号の各項目に対する評価値は、記載内容が当該各号に定める観点への合致の度合いに応じ、次のとおりとする。	
評語	評価の基準
A	観点到合致している
B	観点到概ね合致しているが改善を要する
C	観点到合致していない
—	評価の項目・観点到該当しない
観点到ごとに各評語の度数分布を分析し、B評価及びC評価の割合が高い観点を抽出する。	

(出典：医学教育部におけるシラバスチェック実施要領)

(水準) 期待される水準を上回る

(判断理由)

ディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの明確化を行い、学生への周知を行った。特に授業、シラバス、ウェブサイトでの情報は英語化を行い、外国人留学生の利便性の向上を行った。10月入学制度を拡充し外国人留学生のみならず多彩な社会のニーズに則した教育課程を創出した。基礎研究医を養成するための「柴三郎プログラム」を構築した。eラーニングを大幅に増強し、社会人学生などが在宅でも効果的に講義を受講できるようになり、さらに他機関のeラーニングを活用することでより専門性の高い講義を受講することを可能にした。国際通用性のある研究者育成のため、学生の海外派遣を支援するプログラムを実施した。また、教育内容および方法を向上するためシラバスチェックなど様々な取り組みを実施した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

1. 履修・修了状況 (中期計画番号 K03、K07、K20)

(1) 履修および修了のための規定

履修および修了にかかわる単位取得要件についてはディプロマポリシー (P26~P27 前掲資料 A-1-2-1-1) で明確化しており、学生便覧、履修案内・シラバスに明示している。入学時のガイダンス、ウェブサイト (P29 前掲資料 A-1-2-2-1) など広く学生に周知するとともに、適宜指導教員に周知・確認を実施した。また、成績異議申し立ての制度を整備しており、学生の異議申し立てがある場合に救済を行っている (資料 A-2-1-1-1)。

資料 A-2-1-1-1 成績評価の異議申し立てについて

(厳格で適正な成績評価の基本的な考え方について (熊本大学教務委員会) より抜粋)

7. 成績評価の異議申し立て  
 成績評価に関する質問・疑問に対する教員の説明では解決が得られなかった場合は、予め決められた一定期間内において、成績評価に関する異議申し立てをすることができる。異議申し立てを行なう場合には、所定の期間内に、関係部局等の定める手続きに拠り、「成績評価に関する異議申立書」(所定の様式による)を、事務担当係へ提出するものとする。

(出典：熊本大学ウェブサイト)

(2) 修了状況

修士課程では入学者数に対する修業年限 (2年) 以内の修了者数の割合は 85~94%と高い修了率であった。博士課程の入学者数に対する修業年限 (4年) 以内の修了者数の割合は概ね 60%前後である。社会人大学院生が多いことが修業年限内に修了できない原因の一つと考えられる。ただし、外国人留学生が多く含まれる 10月入学学生において修了率は 80%と高い (資料 A-2-1-1-2)。

資料 A-2-1-1-2 標準修業年限内の修了率及び標準修業年限 1.5年内修了率

修士課程								
入学年度	4月入学							
	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度			
入学者数	24	39	33	23	24			
修業年限(2年)以内修了者数	21	33	31	20	21			
修業年限1.5(3年)以内修了者数	21	33	32	21	21			
標準修業年限内修了率	88%	85%	94%	87%	88%			
標準修業年限1.5以内修了率	88%	85%	97%	91%	88%			
博士課程								
入学年度	4月入学					10月入学		
	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	20年度	21年度	22年度
入学者数	96	74	66	57	75	8	6	9
修業年限(4年)以内修了者数	59	45	44	33	42	7	5	7
修業年限1.5(6年)以内修了者数	66	49	47	36	43	7	5	7
標準修業年限内修了率	61%	61%	67%	58%	56%	88%	83%	78%
標準修業年限1.5以内修了率	69%	66%	71%	63%	57%	88%	83%	78%

(出典：医学事務チーム教務担当資料)

(3) 学位授与状況

厳格な方法で学位審査が行われた。平成 22～25 年度の学位授与数は、修士で 108 名、博士では課程博士で 186 名、論文博士で 40 名の合計 226 名である。このうち、博士課程における在学期間短縮による早期修了者は 7 名である。また、外国人留学生の学位授与数は博士課程で 24 名である。多くの国際的研究能力を有する研究者もしくは高度医療専門職業人の輩出に貢献した（資料 A-2-1-1-3～A-2-1-1-5）。

資料 A-2-1-1-3 学位授与数

学位授与状況						
年度	課程	学位名称	修士	博士		
				課程博士	論文博士	博士合計
22	修士	修士(医科学)	33	-	-	-
	博士	博士(医学)	-	47	11	58
		博士(生命科学)	-	2	0	2
23	修士	修士(医科学)	31	-	-	-
	博士	博士(医学)	-	46	12	58
		博士(生命科学)	-	0	0	0
24	修士	修士(医科学)	21	-	-	-
	博士	博士(医学)	-	43	6	49
		博士(生命科学)	-	3	0	3
25	修士	修士(医科学)	21	-	-	-
		修士(健康生命科学)	2	-	-	-
	博士	博士(医学)	-	45	10	55
		博士(生命科学)	-	0	1	1

(出典：医学事務チーム教務担当資料)

資料 A-2-1-1-4 在学期間短縮による修了者数

早期修了者(在学期間短縮)数					
医学教育部博士課程					
年度	在学期間				合計
	3年	3年3ヶ月	3年6ヶ月	3年9ヶ月	
22	1	0	0	0	1
23	0	0	0	0	0
24	1	0	1	1	3
25	1	1	1	0	3
合計	3	1	2	1	7

(出典：医学事務チーム教務担当資料)

資料 A-2-1-1-5 外国人留学生への学位授与一覧

○留学生学位取得状況(H22年度からH25年度)				
博士課程				
年度/区分	国費	私費	計	備考
22年度	2	0	2	
23年度	1	2	3	
24年度	8	3	11	
25年度	7	1	8	
計	18	6	24	
				遡及修了含む

## 2. その他の学習成果（中期計画番号 K03、K07、K20）

医学教育部では学生の学会・会議への発表および論文発表を推進している。特に博士課程においては学会発表を演習の単位に設定し学生の積極的な発表を奨励している。平成22～25年度に国際学会へ発表した学生は修士課程で延べ60名、博士課程で延べ483名である。学術雑誌の論文発表は修士課程で57編（内査読有り43編）、博士課程では1,111編（内査読有り949編）であり非常に多くの国際学会発表および論文発表が行われた。博士課程学生においては国際学会賞を受賞したものは22名であり、国内を含めると受賞者数は65名であった。新聞記事に掲載された学生も複数おり、学術領域のみならず社会に広く認知される研究を実施した（資料A-2-1-2-1～A-2-1-2-3）。

資料A-2-1-2-1 論文掲載、国際学会（会議）発表状況データ  
論文掲載データ

課程区分	専攻等	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
修士課程	医科学専攻	10編 (0編)	23編 (21編)	11編 (10編)	13編 (12編)
博士課程	医学専攻	262編 (200編)	307編 (254編)	273編 (246編)	269編 (249編)
修士・博士課程	合計	272編 (210編)	330編 (275編)	284編 (256編)	282編 (261編)

( )内の数字は、査読制度をもつ学術雑誌への発表論文数を示す。

## 国際学会（会議）発表データ

課程区分	専攻等	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
修士課程	医科学専攻	31名	18名	4名	7名
博士課程	医学専攻	150名	127名	103名	103名
修士・博士課程	合計	181名	145名	107名	109名

(出典：大学院入試説明会資料)

## 資料A-2-1-2-2 学生の受賞状況データ

受賞のジャンル	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	合計
国際学会賞	8名	5名	3名	6名	22名
国内学会賞	1名	6名	6名	9名	22名
日本学術振興会・特別研究員	5名	1名	2名	1名	9名
民間財団学術奨励賞	1名	4名	3名	4名	12名
合計	15名	16名	14名	20名	65名

(出典：大学院入試説明会資料)

資料 A-2-1-2-3 学生に関する記事

分野	腎臓発生分野	掲載日	2013年 8月 28日
タイトル	男女の違いを作る新たな仕組みを解明		
<p>Homeoproteins Six1 and Six4 regulate male sex determination and mouse gonadal development                  Yuka Fujimoto, * Satomi S. Tanaka, Yasuka L. Yamaguchi, Hiroki Kobayashi, Shunsuke Kuroki, Makoto Tachibana, Mai Shinomura, Yoshiakira Kanai, Ken-ichirou Morohashi, Kiyoshi Kawakami *Ryuichi Nishinakamura( * corresponding authors ).  <i>Developmental Cell</i>, 26, 416-430, 2013                  ( <a href="http://dx.doi.org/10.1016/j.devcel.2013.06.018">http://dx.doi.org/10.1016/j.devcel.2013.06.018</a> )</p>			
<p>腎臓発生分野(西中村隆一教授)の藤本由佳(博士課程学生)・田中 聡助教らの研究グループは、哺乳類の雌雄の性を決定する新たな分子機構の一端を明らかにしました。</p> <p>哺乳動物の性は、性染色体 XとYの組合せ(雄はXY、雌はXX)により、受精した卵の段階から遺伝学的に決定されています。しかし、雌と雄の性の差が初めて生じるのは、妊娠中期頃の胎仔の体の中の生殖腺原基という組織です。この生殖腺原基が、雄では精巣、雌では卵巣となることにより、体全体が雄または雌へと形作られていきます。では、生殖腺原基が精巣になるか卵巣になるかどのように決まるのでしょうか？これは、雄(XY)にあるが、雌(XX)にはないY染色体上の性決定遺伝子 <i>Sy</i> が生殖腺原基で発現することにより決まります。しかし、この雌雄の違いを生み出す"もと"となる組織である生殖腺原基を作り出す仕組みや、雄になる最初の仕組みである性決定遺伝子 <i>Sy</i> を働かせる機構については、十分に明らかになっていませんでした。今回藤本らは、本来は雄(XY)なのに、雌へと性転換してしまう遺伝子改変マウスの研究により、この雌雄の違いを生み出す仕組みを明らかにしました。</p> <p>遺伝子発現を調節する転写因子である Six1とSix4の両方を欠損させたマウス胚では、雌雄ともに、小さな生殖腺しか作られませんでした。これは、Six1/Six4が、生殖腺原基のもととなる細胞を作り出すのに重要な遺伝子 <i>Ash2L1</i> (別名: <i>Nr5a1/Sf1</i>) の発現をコントロールしているためでした(図)。さらにこの変異マウスでは、遺伝学的には雄(XY)にもかかわらず、生殖腺原基は精巣でなく卵巣へと性転換していました。そこで、この変異マウス胚で性決定遺伝子 <i>Sy</i> の発現を調べたところ、予想通りに大きく減少していました。これは、Six1/Six4が、生殖腺原基での <i>Sy</i> の発現をコントロールしている遺伝子 <i>Fox2</i> (別名: <i>Zfp2</i>) の発現を、さらにその上流でコントロールしているためでした(図)。これらのことから、Six1/Six4が、2つの独立した経路によって、生殖腺原基を作り出すこと(生殖腺の大きさの決定)と、雄になる最初の仕組み(性の決定)をコントロールしていることが明らかとなりました(図)。性分化の研究分野では、1990年代の性決定遺伝子 <i>Sy</i> の発見以降、その遺伝子を働かせる機構の解明が続けられてきました。今回、Six1/Six4が、<i>Sy</i> の発現する"場(生殖腺)"の形成とさらにその発現誘導に関わることが明らかとなり、この機構解明に大きな進展をもたらしました。</p> <p><i>Six1/Six4</i> 遺伝子は、生殖腺の発育のみならず、目や腎臓の形成にも必要で、その変異はこれらの形成不全を引き起こし、ヒトの様々な遺伝病の原因遺伝子としても知られています。本研究で得られた新たな知見は、これらの疾患の治療法の確立にも大きく貢献することが期待されます。また、生殖腺は男女の性の違いを生み出す"もと"となる組織であると共に、次世代を生み出す"もと"である生殖細胞(精子と卵子)を育てる組織でもあります。本研究で得られた生殖腺形成・分化に関する知見は、次世代へと生命を紡ぐ仕組みを解き明かすことにも繋がります。</p> <p>本研究成果は、<i>Developmental Cell</i> 誌、2013年8月26日号に掲載されました。</p>			

(出典：発生医学研究所ウェブサイト)

### 世界で初めてヒトiPS細胞から3次元腎臓組織作成に成功～腎臓再生医療への扉を開く～

最終変更 2013年12月13日 16時25分 [履歴](#)

熊本大学発生医学研究所の研究グループは、胎内における腎臓の形成過程を明らかにし、この知見に基づいて試験管内でマウスES細胞<sup>\*1</sup>及びヒトiPS細胞<sup>\*2</sup>から3次元の腎臓組織を誘導することに成功しました。

本成果は、腎臓が母胎内で形作られる仕組みを明らかにするとともに、世界で初めて試験管内での3次元腎臓組織の構築を実現したもので、腎臓の再生医療に向けた大きな一歩です。またこの方法を元に、腎臓の病気を試験管内で再現できる可能性があり、病因の解明と創薬開発につながる事が期待されます。

この研究は、熊本大学発生医学研究所腎臓発生分野の太口敦博さん(大学院医学教育部博士課程4年次)、西中村隆一教授らが行ったもので、科学技術振興機構CREST「人工多能性幹細胞(iPS細胞)作成・制御等の医療基盤技術」、科学研究費補助金、熊本大学グローバルCOE「細胞系譜制御研究の国際的人材育成ユニット」の支援を受けました。

本研究成果は、科学雑誌「Cell Stem Cell」オンライン版に12月12日12:00正午(アメリカ東部時間)に掲載されます。

\*1 ES細胞：受精卵から作られた万能細胞  
 \*2 iPS細胞：皮膚から作られた万能細胞

詳細：[プレスリリース本文](#) (PDF 1.4MB)

(出典：熊本大学ウェブサイト)

### 3. 学業の成果の達成度・満足度（中期計画番号 K03、K07、K20）

学生の学業成果達成度や満足度を調査するために、授業改善アンケート（P36 前掲資料 A-1-2-4-2）、カリキュラム改善のためのアンケート（P35 前掲資料 A-1-2-4-1）、外国人留学生アンケート（資料 A-2-1-3-1）を実施し、アンケート結果を元に順次問題点の改善に着手している。

#### 資料 A-2-1-3-1 留学生アンケート調査集計表（平成 24 年度実施）

優先配置に伴う申請書作成のための留学生アンケート調査結果（集計表）	4) 修了後の職場の性格について（希望も含む） <u>複数回答あり</u>
調査対象留学生：エイズコース、発生再生コース、代謝循環コース所属の留学生 計30名	① 国公立機関 27名 ② 民間企業 1名 ③ その他 1名（私立大学） 未定 1名
2. 業績について（集計結果）	4. カリキュラムについて
(1) 研究成果	(1) 講義には、1科目を平均して、どの程度出席しましたか。
1) 論文発表数	1) 毎回（15回） 15名 2) 10～14回 13名 3) 5～9回 1名 未記入 1名
筆頭著者 11件	(2) 受講した講義の内容は理解できましたか。
うちレフェリー付 2件	1) よく理解できた 21名 2) おおむね理解できた 8名 未記入 1名
共著者 29件	(3) 教員との双方向的なやりとりが、どの程度図られていましたか。
うちレフェリー付 1件	1) 非常に図られていた 14名 2) 図られていた 9名 3) あまり図られていなかった 6名 未記入 1名
2) 学会・会議等発表回数	(4) 全体として、講義はどの程度有意義でしたか。
筆頭演者 47件	1) 非常に有意義だった 14名 2) 有意義だった 13名 3) あまり有意義ではなかった 2名 未記入 1名
共同演者 24件	5. 日本人学生との交流について
知的財産 0件	(1) 日本人学生との交流は、うまく行っていると思いますか。
その他（国際交流や社会貢献など） 3件	1) 非常にうまく行っている 14名 2) うまく行っている 12名 3) あまりうまく行っていない 1名 4) 全くうまく行っていない 2名 未記入 1名
3. 大学院修了後の予定について	
1) 在住する（予定の）国について	
① 母国 17名	
② 日本 7名	
③ その他 4名（アメリカ、カナダ）	
未記入 1名	
未定 1名	
2) 修了後の職位が確保されているか	
① 確保されている 10名（Assistant Professor、Lecturer、Research fellow or Research assistant、Medical Doctor）	
② 未定である 19名	
未記入 1名	
3) 修了後の職種について（希望も含む） <u>複数回答あり</u>	
① 病院・医療機関 3名	
② 本学で引き続き研究者 9名	
③ 本学以外で研究者（ポスドク） 13名	
④ 教員・教育者 11名	
⑤ 民間企業での技術開発 1名	
⑥ その他（国際的な研究組織） 1名	
未定 2名	

（出典：医学事務チーム教務担当資料）

（水準）期待される水準にある

（判断理由）

修士課程における修業年限内の修了率は高く適切な指導がなされたと判断する。一方で、博士課程では修業年限内の修了率はやや低下するがこれは社会人大学院生が含まれていたためと考えられる。外国人留学生の修了率は高く概ね適切な指導がなされたと判断する。学位授与者は5年間で修士129名、博士296名であり、全て厳格な審査が行われた。多くの学会発表や論文発表を通じて優れた研究を公表した。

観点 進路・就職の状況

(観点に係る状況)

修了者の卒業後の進路状況を定期的に把握している。修士課程修了者の約 44%が博士課程へと進学しており、修士課程から博士課程への一貫した教育が実施されている。一方で、修士課程修了者の約 52%は就職を希望しているが、実際に就職できた学生の割合はそのうち約 82%であり、今後、修士課程学生の就職活動を支援する体制を整備する必要がある。博士課程においては、就職希望者の就職率は約 98%と極めて高い数字であり、医学教育部で育成した人材が社会に還元されている。外国人留学生の修了後の進路は母国に帰国して活動を継続する者、あるいは日本で更なる研究を推進する者など様々であり、多様な人材を輩出している。外国人留学生が帰国した後のサポート体制は充分とは言えず、今後、医学教育部修了者が帰国後に利用できる卒業生ネットワーク作りなどの支援体制が必要となる(資料 A-2-2-1-1)。(中期計画番号 K03、K07、K20)

資料 A-2-2-1-1 医学教育部の進学率、就職率及び就職希望者の就職率

修士課程				
修了年度	22年度	23年度	24年度	25年度
修了者数	33	31	21	23
進学者数	18	12	9	9
就職者数	11	16	8	11
就職希望者数	14	18	10	14
その他の数	2	1	2	0
進学率	55%	39%	43%	39%
就職率	33%	52%	38%	48%
就職希望者の就職率	79%	89%	80%	79%
博士課程				
修了年度	22年度	23年度	24年度	25年度
修了者数	49	46	46	47
進学者数				
就職者数	45	37	33	45
就職希望者数	45	38	35	45
その他の数	4	8	11	2
進学率				
就職率	92%	80%	72%	96%
就職希望者の就職率	100%	97%	94%	100%

※その他の数には、未就職者や未進学者等を含む

(出典：医学事務チーム教務担当資料)

(水準) 期待される水準にある

(判断理由)

修士課程の約 44%は博士課程へ進学しており、一貫した教育を実施している。修士課程終了後の就職率は希望者の 82%と高いが、さらなる就職支援を実施する必要がある。一方で、博士課程では極めて高い就職率であり人材の社会への還元を実施している。外国人留学生の卒業後の支援を今後推進する必要がある。

#### 4. 質の向上度の分析及び判定

##### (1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

重要な質の変化あり。

重要な質の変化があったと判断できることとして、以下のことがあげられる。

- ・平成 20 年度に大学院教育の実質化及び新カリキュラムへの移行を行い（P10 前掲資料 A-1-1-1-3）、このカリキュラムで学んだ学生を研究者及び高度医療専門職業人として多数輩出した（P40 前掲資料 A-2-1-1-3）。
- ・平成 25 年度にアドミッションポリシーの修正（P18 前掲資料 A-1-1-2-2）を行い、求める人材をより明確にした。
- ・平成 24 年度より博士課程への 10 月入学制度を日本人に拡充するなど社会のニーズに則した入学選抜方法の改革を実施した（P19 前掲資料 A-1-1-2-4）。
- ・カリキュラムポリシーおよびディプロマポリシーの明確化を行い、人材育成像をより具体化した。（P26 前掲資料 A-1-2-1-1、P28 前掲資料 A-1-2-1-2）
- ・授業科目の e ラーニングコンテンツの促進など多様な学生の単位取得の支援体制を充実させた。（P32 前掲資料 A-1-2-2-6）
- ・連携大学院の提携の推進を通して多様な教員の確保を行った（P25 前掲資料 A-1-1-3-6）。
- ・国際社会のリーダーとしてグローバルに活躍できる行政・産業界と連携した人材を育成するため、平成 24 年度に HIGO プログラムを創出・運営し、新たな大学院教育を行った。
- ・基礎研究医を養成するため「柴三郎プログラム」を通じて、医学部から大学院修了まで初期臨床研修と平行して研究をシームレスに継続できるシステムを平成 24 年度に構築した（P32 前掲資料 A-1-2-2-5）。

その他、国費留学生・特別枠の獲得による国費および私費留学生の積極的な受け入れや授業・シラバス・ウェブサイト情報の英語化を実施しており、国際化の一層の対応を行った。また、大学院教育改革を目指して数多くの外部資金を獲得し、積極的な改革を実践した。さらに、学生の積極的な海外への派遣を支援するプログラムを実施した。

（判定結果）大きく改善、向上している。

##### (2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

学生の積極的な学会発表および論文発表を奨励し、多くの学位授与者を社会に還元した。修士課程および博士課程の在学生の就職状況調査や在学中の就職活動のサポートが不十分であり、今後改善する必要がある。また、積極的な外国人留学生の受け入れを実施しているが、その修了者サポートは十分とは言えず、今後、修了者が帰国後の卒業者ネットワーク作りなどサポート体制の確立が必要となる。

（判定結果）改善、向上している



### Ⅲ 社会貢献の領域に関する自己評価書

## 1. 社会貢献の目的と特徴

医学教育部の社会貢献面での目的は、医学教育部のアドミッションポリシーにあるように、我が国及び諸外国の医学・医療に貢献できる人材を育成すること、在職中の社会人への医学・生命科学研究の機会を提供することなどからなる。また、外国人留学生には、母国あるいは国際的に活躍できる人材を育成することと、熊本大学あるいは日本人研究者との将来にわたる交流の持続と発展を確立することにある。その特徴としては、臨床医学、基礎医学、社会医学、発生再生医学、エイズ学など、様々な医学・生命科学研究分野での教育を通して、国際的に高水準な研究を大学院生に実践させる機会を提供できる事にある。その結果、医師・歯科医師免許を有した大学院生に関しては、医学教育部での研究を通して、研究マインドを有した医師・歯科医師、医学研究者、医学教育者など医療・医学分野で活躍する人材を社会に送り出し、また、医師・歯科医師でない大学院生についても、医学・生命科学分野での研究者、教育者、企業人として社会で活躍する有意な人材を育成するために、教育している。外国人留学生も同様で有り、また、日本人指導者や同僚との人間的な交流も期待されている。さらに、平成 24 年度から開始された HIGO プログラムは、生命科学における専門性、国際性を持ちつつ、地域社会でのニーズに応じた牽引役となる人材を育成する特徴を持つ。

### [想定する関係者とその期待]

想定する関係者は、若手医師、歯科医師、医学部・歯学部以外の出身者、社会人、外国人留学生などからなる。若手医師・歯科医師からの医学教育部に期待されることは、国際的に通用する研究にたずさわる機会が提供され、優れた研究成果を上げること、将来の医療人としての資質の向上、研究者や教育者としての基盤となる学問的財産を構築することにある。また医学部・歯学部以外の出身者にも、同様な事項を期待されるが、医学・生命科学のエキスパートとして社会に貢献できるような教育を受ける機会の提供が期待される。

社会人の多くは、医療・医学関係の仕事に従事しながらの大学院生生活を過ごすことになり、優れた研究を限られた時間で効率よく研究室で遂行する機会が与えられる事、大学院修了後に、より広い視野に立った医療人、教育者、研究者となれる資質の涵養を期待している。外国人留学生には、優れた研究に参加する機会の提供、研究成果の達成の指導と成果とが求められていて、大学院修了後に、日本国内、国外(母国、あるいは母国以外)で活躍できる能力が育成されること、研究指導者や研究室の同僚との持続した交流を期待している。

## 2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

### 【優れた点】

医学教育部においては、カリキュラムポリシーに基づき、各指導分野での教育、オムニバス形式の講義、コースワークを構築し、国際水準の研究者・教育者・研究マインドを持つ医療人などを社会に送り出してきた（平成 21 年度から 25 年度における修士課程修了率は 85-94%；博士課程修了率は 56-88%；就職希望者の修士課程就職率は 79-89%；就職希望者の博士課程就職率は 94-100%）。また、平成 20 年度には「医学・医療・生命科学を志す社会人の再チャレンジ支援」事業などを利用し、教育システムの整備を行い、e ラーニングによる授業の推進、フレキシブルな長期履修コースの開設などにより、社会人や出産・育児に携わる大学院生の単位・学位取得を推進している。外国人留学生には、日本語教育や英語での講義などを増やしている。また、HIGO プログラムの運用により、新たな人材育成を開始した。

### 【改善を要する点】

社会貢献の客観的な評価制度を確立し、また、これらの公開を行う。

## 3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 大学の目的に照らして、社会貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

観点 社会貢献活動の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が適切に公表・周知されているか。

（観点到に係る状況）

医学教育部の社会貢献の主たる目的については、生命科学研究部ウェブサイトにも明記するとともに、医学教育部ウェブサイトのアドミッションポリシーに示されている（資料 C-1-1-1-1、C-1-1-1-2）。その計画については、カリキュラムポリシーに示されている通りであり、基本プログラムである各分野での研究指導体制からなる「実践プログラム」とともに、分野横断的な「理論」および「セミナー」各種、また専門分野の人材育成を目指した「発生・再生医学研究者養成コース」、「エイズ制圧を目指した研究者養成コース」「がん博士育成プログラム」「代謝・循環情報医学エキスパート育成プログラム」などを提供している（資料 C-1-1-1-3）。なお、HIGO プログラムについては、医学教育部の講義・演習を共用するとともに、プログラムの目的を果たすための企業や行政のセミナー、インターンシップ、語学関連講座、社会文化科学研究科の講義・演習なども企画され実行されている（資料 C-1-1-1-4、C-1-1-1-5）。

資料 C-1-1-1-1 生命科学研究部の基本目標（社会的貢献）

● 熊本大学大学院生命科学研究部の基本目標	
<b>研究と教育</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医学・薬学及び保健学における創造的な研究活動によって、生命現象の真理を探究し、それらの成果を医療の実践、疾病の予知・予防に導入します。未知の医学、医療、薬学領域に常に挑戦し、医療・医薬科学の進展に貢献します。</li> <li>2. 自主性を重視する教育により、医療・医薬科学での研究成果を次世代に伝え、医科学研究者、薬科学研究者、生命倫理研究者、並びに指導的医療人を育成します。</li> </ol>
<b>社会的貢献</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究活動によって得られた知的財産を社会に還元し、人類の健康と福祉の発展に寄与します。</li> <li>2. 医療・医薬科学領域での国内外における指導的人材の育成を図り、これらの人材を通じ社会の発展に寄与します。</li> </ol>

（出典：生命科学研究部ウェブサイト）

## 熊本大学大学院医学教育部のアドミッションポリシー（現行）

## 修士課程（医科学専攻）

1. 医学・生命科学に興味をもち、最先端の医学・生命科学領域に対応できる研究者、教育者あるいは高度専門職業人になる能力と意欲をもった人
2. 修士課程における研究をさらに発展させるべく、博士課程に進学する意欲をもつ人
3. 博士課程に進学して、エイズ学、発生・再生医学、代謝・循環情報医学などの分野の高度専門職業人になる意欲を強くもつ人
4. 博士課程に進学して、地域・アジアで活躍するグローバルな健康生命科学パイオニアになる意欲を強くもつ人

## 博士課程（医学専攻）

1. 教育・研究を通して、将来の我が国および諸外国の医学・生命科学に貢献する能力と熱意を持つ人間性豊かな人
2. 研究を通して国内外の人々との交流を実践し、医学・生命科学の分野において世界をリードする研究と教育の展開を志す人
3. 在職中の社会人として、医学・生命科学の研究に取り組む熱意と能力を持った人
4. 医学以外の多彩な学問領域において高い基礎学力を身につけ、医学・生命科学の教育、研究あるいは社会還元を志す人
5. エイズ学、発生・再生医学、代謝・循環情報医学などの分野の高度専門職業人を強く志す人
6. がん研究とがん医療の臨床習練をともに行い、がん診療に関係する専門医あるいは認定医の資格取得を志す人
7. 地域・アジアで活躍するグローバルな健康生命科学パイオニアになる意欲を強くもつ人

（出典：平成26年度医学教育部学生募集要項より）

## 医学教育部（博士課程）

## 専門分野の人材育成プログラム

- ① エイズ制圧を目指した研究者養成コース
- ② 発生・再生医学研究者養成コース
- ③ がん博士育成プログラム
- ④ 代謝・循環情報医学エキスパート育成プログラム
- ⑤ グローバルな健康生命科学パイオニア養成(HIGO)
- ⑥ 柴三郎プログラム（医学科学生と初期研修医向け）

（26.3.1現在）

（出典：大学院入試説明会資料）

## HIGOカリキュラム

4年制学部卒業生

**(医)修士課程、(薬)博士前期課程入学**  
**「HIGOプログラム基礎コース」選抜試験合格**

講義科目(基礎、専門)(医学、薬学、社会文化科学)  
 セミナー(行政、企業)  
 語学研修(中国語、英語、日本語)  
 インターンシップ(行政、企業、海外)  
 研究室ローテーション(特別実習)  
 最先端研究プロジェクト(研究指導)  
 進学試験(正規)

**社会文化科学に関する研究レポート審査**

**修士論文審査 [修士(健康生命科学)]**

**(医)博士課程、(薬)博士後期課程進学**  
**「HIGOプログラム専門コース」進学**

セミナー(行政、企業)  
 語学研修(中国語、英語、日本語)  
 インターンシップ(行政、企業、海外)  
 研究プレゼンテーション

最先端研究セミナー  
 最先端研究プロジェクト(研究指導)

キャリアビジョン開発コース  
 (異文化コミュニケーション学習コース)  
 (技術マネジメント学習コース)  
 (公共政策学習コース)

**社会文化科学に関する研究レポート審査**

**博士論文審査 [博士(健康生命科学)]**



6年制学部卒業生

**((医)(薬)博士課程(4年)入学**  
**「HIGOプログラム4年コース」選抜試験**

講義科目(基礎、専門)(医学、薬学、社会文化科学)  
 セミナー(行政、企業)  
 語学研修(中国語、英語、日本語)  
 インターンシップ(行政、企業、海外)  
 研究プレゼンテーション  
 研究室ローテーション(特別実習)

**中間インタビュー**

最先端研究セミナー  
 最先端研究プロジェクト(研究指導)

キャリアビジョン開発コース  
 (異文化コミュニケーション学習コース)  
 (技術マネジメント学習コース)  
 (公共政策学習コース)

**社会文化科学に関する研究レポート審査**

**博士論文審査 [博士(健康生命科学)]**

(出典：H I G Oプログラムウェブサイト)

資料 C-1-1-1-5 HIGO 企業セミナー・行政セミナー実施一覧

企業セミナー					
年度	期日	時間	所属・職等	タイトル 進捗状況	HIGOの趣旨に合うキーワード
24年度	25年3月8日(金)	10:20-11:50	熊本日日新聞社 編集委員兼論説委員	なぜいま水鏡が地球環境問題なのか? -水銀問題にこだわって取材する理由	「グローバル」「環境問題」
25年度	7月4日(木)	13:00-14:30	第一三共 癌研3G	Planned Happenstance - Academia or Industry?	「リーダー養成」「出口教育」
	9月26日(木)	13:15-14:45	協和発酵キリン(株)CSR推進部 リスク管理グループマネージャー	企業研究者のキャリアパスとCSR	「出口教育」「社会貢献」
	10月11日(金)	13:15-14:45	タカラバイオ 営業部長	バイオテクノロジーという技術を売る	「グローバル」「最先端研究」「リーダー養成」
	10月18日(金)	13:20-14:50	アッヴィ合同会社 人事部長	1.「バイオ医薬品企業アッヴィのグローバル経営戦略と組織・人事面での課題」 2.「グローバルリゼーションとキャリア構築」(学生への事前希望調査の結果)	「グローバル」「経営」「人材像」「リーダー養成」
	10月23日(水)	15:00-16:30	株式会社A-commerce 代表取締役	中国・東南アジアビジネスを通じて～エリアごとの現状把握とアプローチ方法～	「グローバル」「起業」「経営」
	11月1日(金)	13:15-14:45	メルセロノ クリニカル クオリティ マネジメント マネージャー	グローバルキャリアパスとして治験モニター職(CRA)を選ぶ	「グローバル」「出口教育」「人材像」
	11月6日(水)	10:20-11:50	中京大学 総合政策学部 教授	イスラム圏の食品市場開拓のハードルになるハラール制度について	「グローバル」「経営」
	11月7日(木) 11月8日(金)	16:00-17:00 10:00-11:30	持田製薬株式会社 取締役 執行委員	11/7 個別化医療の潮流における医薬品研究開発について 11/8 HIGO7のラムの学生達を対象に英語でのdiscussion(交流)	「出口教育」「最先端研究」「人材像」
	11月14日(木)	15:00-16:30	日本銀行 熊本支店長	日本銀行と最近の日本経済について	「経営」「社会文化科学(経済、政策)」
	11月22日(金)	10:15-11:45	日本元氣塾塾長/ 一橋大学イノベーション研究センター教授	Innovation in Japan	「グローバル」「イノベーション」
	11月28日(木)	15:00-16:30	アステラス製薬(株)製剤研究所所長	製薬企業において製剤研究者が患者のためにできること	「最先端研究」「健康生命科学」
	11月29日(金)	13:15-14:45	株)同仁化学研究所	酸化ストレス研究のための試薬開発	「最先端研究」「グローバル」「健康生命科学」
	12月5日(木)	14:30-16:00	産業総合研究所	活力のある経済社会をつくるには 一知の財産は競争力の源泉である	「イノベーション」「社会文化科学(経済、政策)」「産学連携」「グローバル」
	12月6日(金)	13:15-16:30	第一三共/先端薬学教授	自然免疫を利用した医薬品研究開発	「最先端研究(ワクチン)」「健康生命科学」
	12月6日(金)	13:15-16:30	第一三共/先端薬学教授	第一部: 国内外におけるワクチンの現状およびその果たしてきた功績 第二部: 企業が求める研究者の視点	「最先端研究(ワクチン)」「健康生命科学」「リーダー養成」「グローバル」
	12月12日(木)	15:00-16:30	久光製薬製剤研究所所長	貼付剤の開発	「最先端研究」「健康生命科学」
	12月13日(金)	13:15-14:45	株)ネオモルガン研究所 創業者・最高顧問	進化研究におけるパラダイムシフト: -進化を加速する-	「リーダー養成」「最先端研究」「出口教育」
	12月19日(木)	13:15-14:45	前・大塚製薬本社開発部長	1. 40年間のビジネス経験～ブランドグライダー論を中心に～ 2. 「食と健康」に係わる法律・制度・産業～最近の話題を中心に～	「出口教育」「健康生命科学」
26年度	26年5月22日(木)4限	15:00-16:30	熊本日日新聞論説委員	水俣条約とジャーナリズム	グローバル、マスコミ、出口教育
	5月30日(金)5限	16:45-18:15	アッヴィ合同会社人事部長	アッヴィのグローバル経営 戦略と組織・人事面での課題およびグローバルリゼーションとキャリア構築	グローバル・グローバル・リーダー養成
	6月13日(金)4限	15:00-16:30	JN Biosciences LLC創業者	シリコンバレーのバイオベンチャーで働く	グローバルリーダー養成、起業

行政セミナー			
年度	期日	所属・職等	タイトル
24年度	25年3月21日(木)	日本社会事業大学 理事長	「“認知症”の現状と課題」
		熊本県健康福祉部 医監	「熊本県の行政医師の立場から」
25年度	5月30日(木)	熊本市長	「熊本市の現在(いま)と未来(あした)」
	6月27日(木)	公益法人 くまもと地下水財団事務局長	「世界が認めた熊本地域の持続的な地下水保全」 (14:30-15:15)
		熊本市環境局 環境政策課 主査	「微小粒子状物質(PM2.5)について」 (15:15-16:00)
		健康福祉子ども局 健康づくり推進課長補佐	「健康まちづくり、熊本市におけるCKD対策(仮)」 (16:10-17:40)
	6月28日(金)	健康福祉子ども局 健康福祉政策課 課長	「我が国の公的医療保険、そして熊本市のコクホ」 (14:30-15:15)
		健康福祉子ども局 障がい保健福祉課長	「熊本市における障がい保健福祉施策について」 (15:15-16:00)
		健康福祉子ども局 次長	「くまもと医療都市2012ランドデザイン～安心を支え、未来を拓く「医療拠点都市」～」 (16:10-16:55)
		健康福祉子ども局 医療政策課長	「安全と安心のための保健衛生」 (16:55-17:40)
	10月16日(水)	オーストラリア政府医療労働政策顧問	「Recent Healthcare Workforce Development in UK and European Countries (仮)」 (14:00～15:30)
	11月15日(金)	厚生労働省 東京検疫所 食品監視課	輸入食品の安全性の確保について (13:15～14:45)
26年3月20日(木)	オーストラリア大使館 首席公使	オーストラリアと近隣地域: インド太平洋における課題と機会	
26年度	7月31日(木)	国境なき医師団(MSF) 東アジアプログラムマネージャー	Humanitarian Action under Fire 1. 東南アジア、アフリカの新興国や紛争地域でのMSF国際医療支援活動について 2. 資源制約下、危機的状況で求められるリーダーシップや異文化適応力など 3. MSFが求める人材像について

(出典：医学事務チーム教務担当資料)


(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

医学教育部の人材育成という基本的な社会貢献目標について、ウェブサイトなどに明瞭に公開されていて、また、そのことはシラバスに反映されている。また、新たに始まった、HIGO プログラムについては、運営委員会などにより、計画が詳細に練られ、その計画もウェブサイトに的確に紹介されている(資料 C-1-1-1-6)。


**熊本大学 グローカルな健康生命科学パイオニア養成プログラムHIGO**  
**HIGO (Health life science : Interdisciplinary and Glocal Oriented)**

---

 **養成したい人物像**

九州・アジアの社会的ニーズを理解し、地域と世界を結びつけて、諸課題の解決に挑戦できるグローバル（グローバル+ローカル）な健康生命科学パイオニアとしてのリーダー

---

 **プログラムの特色**

- ① 健康生命科学を担う次世代リーダーの育成**  
 医学と薬学の2つの大学院に跨る教育プログラムによって、最先端の健康生命科学を幅広く修得する
- ② 九州・アジアのグローバル社会で活躍する人材育成**  
 日本とアジア諸国の歴史・文化・言語などを理解し、国内外の健康増進のためのニーズを捉える能力を向上させる
- ③ 大学・行政・産業界が連携した大学院教育プログラム**  
 地域の大学・行政・産業界のトップメンバーの教育プログラム参画(熊本知識者円卓会議『熊本版ダボス会議』などへの参加)
- ④ アジア戦略を活用した海外インターンシップの展開**  
 熊本大学と熊本県/市の共同による海外オフィス、アジア諸国の医療行政・健康産業のニーズを知る実践的な研修を行う
- ⑤ 社会文化科学に精通した文理融合型人材の育成**  
 日本とアジア諸国の社会制度・価値観・方向性の相異を理解し、異文化コミュニケーション力を養成する
- ⑥ HIGOプログラムによる大学改革とグローバル社会貢献**  
 学長および全学的な支援のもと、これからの大学改革モデル、さらにはグローバル社会への貢献の原動力にする

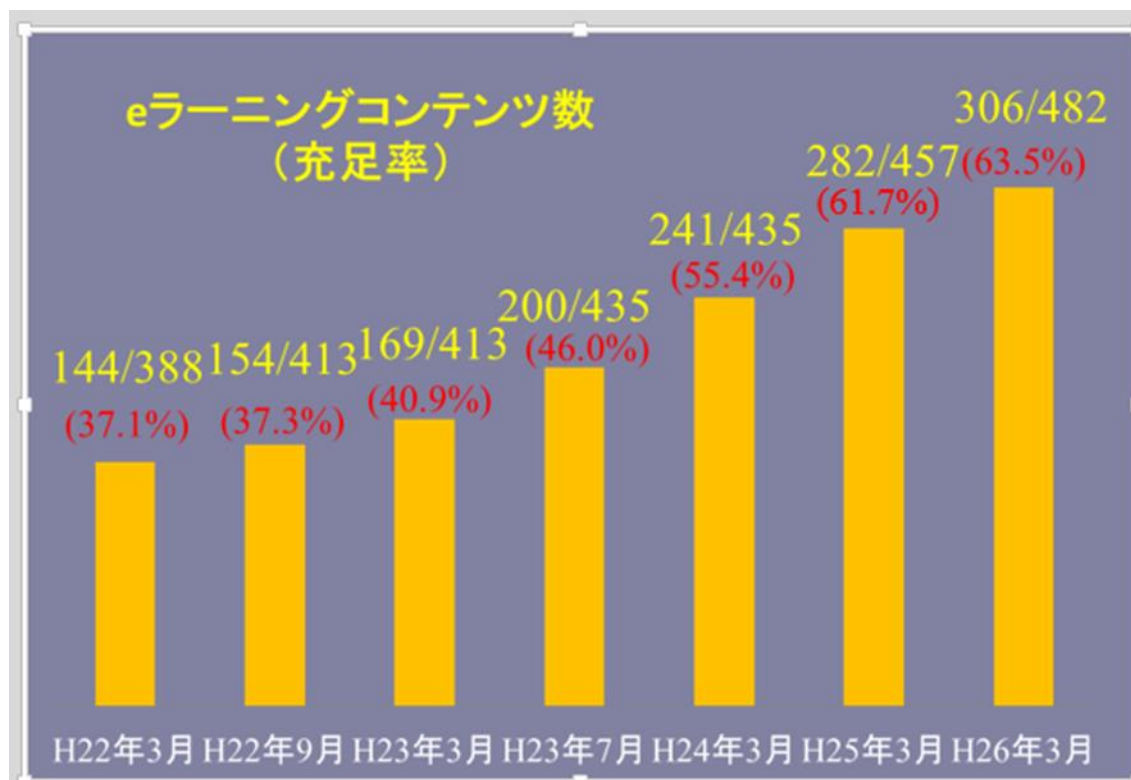
(出典：H I G Oプログラムウェブサイト)

**観点** 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

カリキュラムに示すとおり、基本プログラム及び専門分野の人材育成プログラムも、堅実に運営されている。また、eラーニング対応型の授業の頻度も増えて、63%に達している(資料 C-1-2-1-1)。HIGOプログラムについても、プログラムの目的にあった講義・演習、インターンシップなどが適切に実施されている(P50 前掲資料 C-1-1-1-4、P51 前掲資料 C-1-1-1-5)。また、よりよい履修の促進のために、履修説明会を年2回開いている。





(出典：医学事務チーム教務担当資料)

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

医学教育部の人材育成という基本的な社会貢献目標について、堅実に責務を果たしている。今後は、大学院に所属しない若い医師や歯科医師などへのリカレント教育を含めた社会貢献を担う必要があると思われる。また、新たに始まった、HIGO プログラムについては新たな人材育成の試みで有り、今後に成果が期待される。

観点 活動の実績及び活動への参加者等の満足度等から判断して活動の成果が上がっているか。

(観点に係る状況)

授業についての満足度については、修士課程では授業後改善アンケートを採っているが、博士課程では、授業や就職についてなどアンケートなどの調査は十分に行われていなく、社会貢献についての満足度の把握はできていない。一方、留学生へのアンケート調査結果からは、授業が有意義と答えた学生が 27 名/30 名、日本人との交流が上手くいったと答えた学生が 26 名/30 名いた。また、博士課程修了者の進路状況も 39 名中、研究/教育職など 33 名、不明/未定 6 名であり、留学生からのアンケート結果から、社会からの要請に十分応えていると思われる (資料 C-1-3-1-1)。

資料 C-1-3-1-1 留学生アンケート結果（平成 24 年度実施）

<p>優先配置に伴う申請書作成のための留学生アンケート調査結果（集計表）</p> <p>調査対象留学生：エイズコース、発生再生コース、代謝循環コース所属の留学生計 30 名</p> <p>2. 業績について（集計結果）</p> <p>(1) 研究成果</p> <p>1) 論文発表数</p> <p>筆頭著者 11 件 うちレフェリー付 2 件 共著者 29 件 うちレフェリー付 1 件</p> <p>2) 学会・会議等発表回数</p> <p>筆頭演者 47 件 共同演者 24 件 知的財産 0 件 その他（国際交流や社会貢献など） 3 件</p> <p>3. 大学院修了後の予定について</p> <p>1) 在住する（予定の）国について</p> <p>① 母国 17 名 ② 日本 7 名 ③ その他 4 名（アメリカ、カナダ） 未記入 1 名 未定 1 名</p> <p>2) 修了後の職位が確保されているか</p> <p>① 確保されている 10 名（Assistant Professor, Lecturer, Research fellow or Research assistant, Medical Doctor） ② 未定である 19 名 未記入 1 名</p> <p>3) 修了後の職種について（希望も含む）<u>複数回答あり</u></p> <p>① 病院・医療機関 3 名 ② 本学で引き続き研究者 9 名 ③ 本学以外で研究者（ポスドク） 13 名 ④ 教員・教育者 11 名 ⑤ 民間企業での技術開発 1 名</p>	<p>① その他（国際的な研究組織） 1 名 未定 2 名</p> <p>4) 修了後の職場の性格について（希望も含む）<u>複数回答あり</u></p> <p>① 国公立機関 27 名 ② 民間企業 1 名 ③ その他 1 名（私立大学） 未定 1 名</p> <p>4. カリキュラムについて</p> <p>(1) 講義には、1 科目を平均して、どの程度出席しましたか。</p> <p>1) 毎回（15 回） 15 名 2) 10～14 回 13 名 3) 5～9 回 1 名 未記入 1 名</p> <p>(2) 受講した講義の内容は理解できましたか。</p> <p>1) よく理解できた 21 名 2) おおむね理解できた 8 名 未記入 1 名</p> <p>(3) 教員との双方向的なやりとりが、どの程度図られていましたか。</p> <p>1) 非常に図られていた 14 名 2) 図られていた 9 名 3) あまり図られていなかった 6 名 未記入 1 名</p> <p>(4) 全体として、講義はどの程度有意義でしたか。</p> <p>1) 非常に有意義だった 14 名 2) 有意義だった 13 名 3) あまり有意義ではなかった 2 名 未記入 1 名</p> <p>5. 日本人学生との交流について</p> <p>(1) 日本人学生との交流は、うまく行っていると思いますか。</p> <p>1) 非常にうまく行っている 14 名 2) うまく行っている 12 名 3) あまりうまく行っていない 1 名 4) 全くうまく行っていない 2 名 未記入 1 名</p>
--	---

（出典：医学事務チーム教務担当資料）

資料 C-1-3-1-2 留学生の進路状況（博士課程）

留学生の進路状況(博士課程)												
	進学(①)	就職(②)	(内訳) 研究者	(内訳) 民間企業	(内訳) ポスドク	(内訳) 大学教員	(内訳) 病院	(内訳) 技術職員	(内訳) その他	その他(③) (研究員※)	不明・未定 (④)	合計 ((①+②+③+④))
H21	0	9	3	1	1	3	1	0	0	2	1	12
H22	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
H23	0	3	2	0	0	0	0	1	0	0	0	3
H24	0	6	3	0	0	0	0	0	3	2	3	11
H25	0	9	4	0	0	3	1	0	1	0	2	11
※医学教育部研究員(無給)			H25は単位修得退学者3名も含む									

（出典：医学事務チーム教務担当資料）

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）

客観的な判断材料は十分には有していないが、研究成果をあげられる人材育成という点では、大学院生の研究成果や学位取得率から、一定の水準の医学生命科学系の大学院修了者を社会へと送り出していると言える。このことは、留学生からのアンケート結果からも

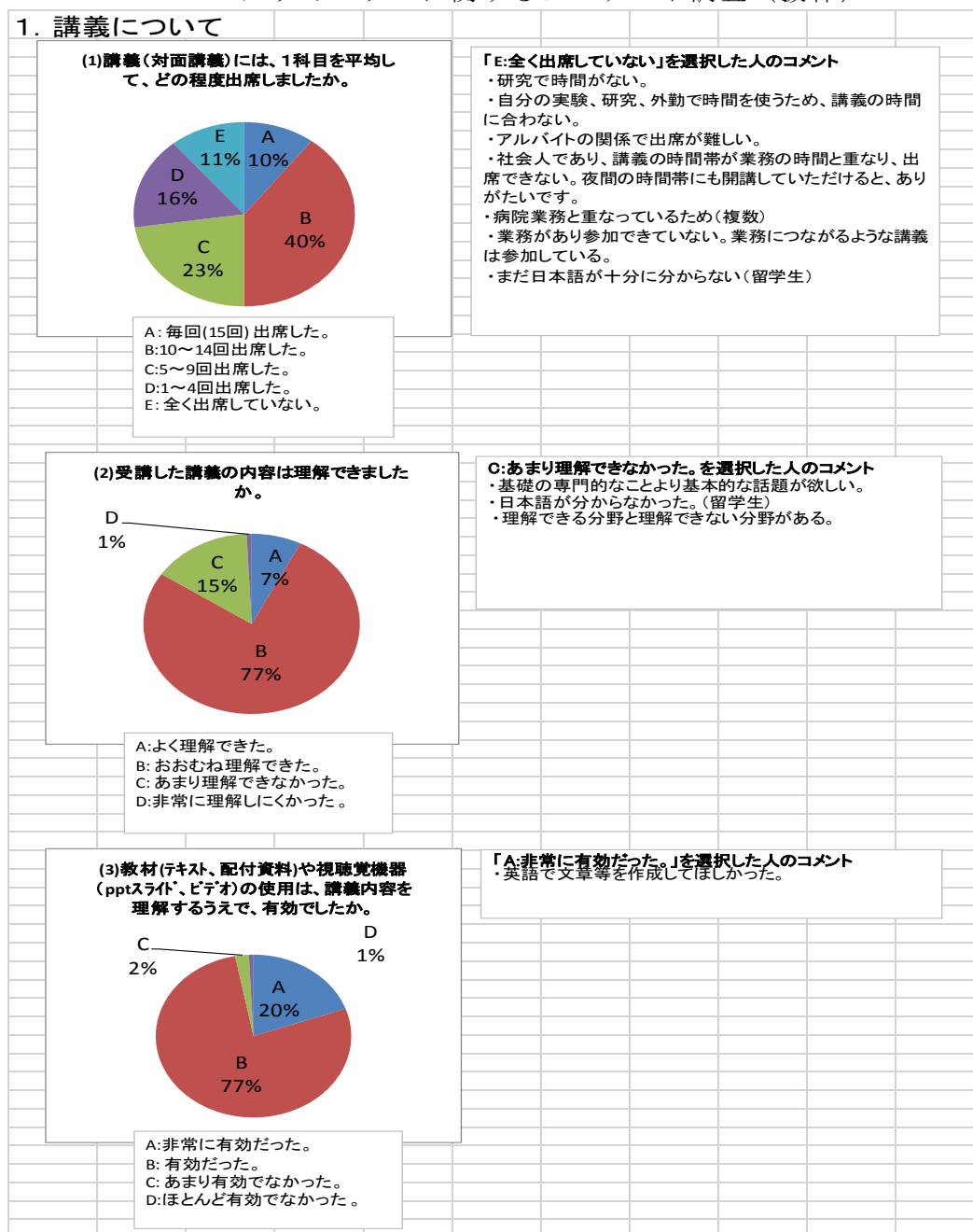
支持されると考えられる。今後は、大学院に所属していない医学生命科学分野で働く、あるいは興味を持った人達への啓発活動などを充実していく努力が必要と考えられる。

観点 改善のための取組が行われているか。

(観点に係る状況)

平成 22 年度にカリキュラムへのアンケート調査を実施した (資料 C-1-4-1-1)。また、FD の一環として、大学院生の学外講師による大学院セミナーへの大学院教員の参加を義務づけた。また、十分な自己点検、評価、検証はしていないが、25 年度より、複数の教員による同僚の講義への授業参観を行い、授業内容などに対する、教員同士のディスカッションを通しての、授業改善を始めたので、今後、この観点での改善が進むことと思われる (資料 C-1-4-1-2)。また、学生委員会の企画で、就職説明・指導を始めた。

資料 C-1-4-1-1 カリキュラムに関するアンケート調査 (抜粋)



(出典：医学事務チーム教務担当資料)

## 資料 C-1-4-1-2 大学院講義科目授業参観実施報告書

平成 25 年度 大学院医学教育部 授業参観実施報告書。

1. 授業参観の実施時期。  
平成 25 年 12 月 2 日～平成 26 年 1 月 31 日。

2. 授業参観の実施方法。  
大学院教育委員会が博士課程の「理論」科目（複数教員によるオムニバス形式）から 6 科目を指定した。そのうち 4 科目について、以下の方法により授業参観が実施された。指定された科目の各々の担当教員は、他の担当教員による e-learning 授業を一つ選択して視聴し、授業視聴報告書を提出した。報告を受け取った授業担当教員は授業公開報告書を提出した。その後、科目ごとにメール会議等による意見交換を行い、科目主任が授業参観報告書に取り纏めた。

3. 授業科目ごとの意見交換の内容。

(1) 細胞機能制御学理論。

- ・ 全講義とも、大学院講義として相応しい講義内容であった。
- ・ e-learning のコンテンツで、日本語版と英語版を別々に作成しアップすることは、日本人ならびに留学生にとって理解しやすいとの意見があった。
- ・ 対面講義と違い学生の顔が見えないので、Web テストだけでは学生がどれくらい講義を理解しているか判断することが難しい。レポートを課すことは、学生の習得度を把握する上で有効であるとの意見があった。
- ・ 今後の課題として、e-learning の場合、教員がどうしても講義内容の update を滞りがちになる。2～3 年毎に update をするように喚起することが必要である。
- ・ 同科目の授業参観は、3 年に 1 回程度でいいのではないか。

(2) 発生再生医学理論。

疲れた取り組み。

- ・ 学生に問いかけたり、選択問題形式で話を進めたりすることによって、双方向の授業を行うこと。
- ・ 知識の有無だけでなく、研究者の立場になって考えさせる質問。

課題。

- ・ スクリーンを指差してしまうことによって、ビデオ上でどこを指しているかわからないことがある。
- ・ 専門外や non-MD の学生のために、略語の丁寧な説明が必要。
- ・ 学生に質問した際に、その答えが録音されていないので、流れがわからないことがある。双方向性を高めるほどこれが問題になるので、対策が必要。教員が学生の回答を繰り返すのも一法だが、必ずしも守られないので、学生の発言も録音できる体制がほしい。
- ・ 学生の英語能力にばらつきがあるので、日本語／英語併記、重要な点は両方の言語での説明が必要だろう。特に大多数が留学生で、日本人が少数の場合。

感想。

- ・ ある程度は有意義だが、教員への負担が大きい。少なくとも様式 2（授業公開報告書）は不要ではないか？
- ・ 自分たちの授業だけでなく、web 上に多数存在する無料、有料のコンテンツ（海外有名大学含む）も取り込んで構成した方がよいのではないか？
- ・ このコースはほぼ完全に e-learning になり、MOOC など大学に入学しなくても学習できるシステムも急速に広がっている。その場合、大学の対面授業の存在意義は何か？世間では e-learning で予習して対面授業で発展させる「反転授業」が勃興しているが、この流れにどう対応していくのか？

（出典：平成 25 年度医学教育部授業参観報告書）

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）

カリキュラムへのアンケート調査をカリキュラム作成に生かすことが出来、また、大学院セミナーへの教員の参加、また、自己点検の取り組みは、今後の各教員の講義へと反映されることが期待される。また就職説明会も、これから、効果が現れることが期待される。

分析項目Ⅱ 大学の目的に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

観点 大学の地域貢献活動の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が適切に公表・周知されているか。

（観点に係る状況）

熊本医学・生物科学シンポジウムを公開講座として、様々な最新の医学生物科学のトピックスを市民へと公開している（資料 C-2-1-1-1）。柴三郎プログラムを通して、地域の高校生を対象として研究室での研究参加を募って、柴三郎 Jr. の発掘として、地域の高校生へその内容を公開している（資料 C-2-1-1-2）。平成 25 年度においては、8 月に実施した本

学オープンキャンパスにおいて、柴三郎 Jr. の発掘説明会を実施し、30名の高校生が参加した。また、高大連携プログラムに参加の高校に対しても同様の説明会を実施した。これらの説明会を通じて、13名の高校生が放課後や休日に本学を訪れ、研究を継続的に実践した。一方、HIGOプログラムについては、地域社会のニーズにあわせたカリキュラムの作成が行われ、特に、企業・行政セミナーは、地域社会のニーズや課題に敏感に対応する資質を涵養するセミナーで有り、これに行政機関や企業へのインターンシップの実施により、習得した知識を実践能力へ結びつける機会が有り、その内容は公開されている（資料 C-2-1-1-3）。

資料 C-2-1-1-1 医学・生物科学シンポジウム担当及びテーマ一覧  
(1999年度以降)

医学・生物科学シンポジウム担当教授及びテーマ一覧	
1999年度	堀内 教授 加齢と疾病
2000年度	小野 教授/山泉 教授 紫外線と疾患、特に悪性腫瘍について
2001年度	遠藤 教授 遺伝子治療の最前線
2002年度	小川(道)教授 侵襲と生体反応
2003年度	前田 教授/森 教授 レドックス応答と生体ストレス
2003年度	上田 教授/西村 教授 I部 農薬の生体影響と安全管理対策 II部 医科学における分子病態先端研究
2006年度	阪口 教授 免疫制御とその破綻による疾患
2007年度	荒木 教授/竹屋 教授 生活習慣病とバイオリジカル
2008年度	尾池 教授/小川(久)教授 血管医学研究・臨床の最前線
2009年度	富澤 教授/山縣教授 糖尿病基礎・臨床研究の新たな潮流
2010年度	赤池 教授 酸化ストレス研究のフロンティア
2011年度	安東 教授 血漿蛋白質の機能と病原性
2012年度	玉巻 教授 神経疾患の治療を目指した基礎研究の進展
2013年度	遠藤 教授 母乳の科学
2014年度	糸 教授/西中村 教授 幹細胞制御と臓器再建
2015年度予定	池田 教授 認知症治療の最前線
2016年度予定	片瀨 教授 卵巣の科学

(出典：医学事務チーム教務担当資料)

資料 C-2-1-1-2 柴三郎 Jr. の発掘

**柴三郎 Jr. の発掘**

このプログラムは、高校生の医学・生命科学への関心を高め、研究への参加を促すことを目的としています。高校時代から医学研究を体験し、大学で単位を取得しながら、e-learningで受講可能な授業や、様々な研究支援（学会発表等）を受けながら、基礎研究や先取履修生による卒業論文・研究前編に取り組むことができます。その後、すべての熊本大病院で卒業論文・研究前編プログラムの履修が可能で、さらに参加病院で研究も可能です。卒業後、大学院を同時に修了することも可能です。

**キャリアパス**

- 海外留学(支援)
- フェニックスプログラム
- 教員
- 臨床研究医
- 医薬品医療機器総合機構、厚労省など行政

熊本県内の高校生に対しては医学・生命科学を直接指導します。例えば、近隣の高校の生物部などに所属している高校生に対して、「発生・再生医学研究」、「癌などの病気の原因遺伝子探索研究」や「遺伝子改変マウスの作製や病気のモデル動物作製」などの最先端医学研究を放課後や休日などに大学の研究室で直接指導し、研究を行っていただきます。また遠隔地の高校生につきましては、夏休みなどを利用して研究室に訪問いただき、医学研究に触れていただきます。基礎医学研究に早期に触れることにより、研究マインドを芽生えさせ、将来、基礎医学研究者を目指す人材を発掘し育成いたします。研究に必要な費用はすべて熊本大学が負担します。また研究がまとまると、国内外の学会等で発表していただきます。交通費、宿泊費などにつきまして、援助いたします。

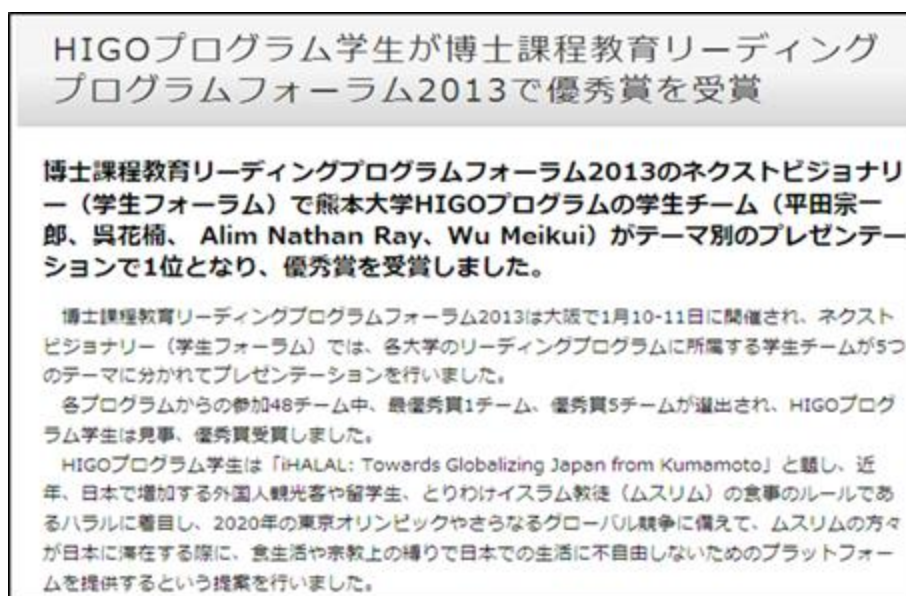
(出典：柴三郎プログラムウェブサイト)

資料C-2-1-1-3 HIGOプログラムによるインターンシップ一覧

企業インターンシップ			
年度	期間	企業名	備考
25年度	8月27日(火)～30日(金)	新日本科学(鹿児島市)	コース生5名、準コース生2名参加(留学生2名)
	9月2日(月)～6日(金)	化学及び血清療法研究所	コース生5名、準コース生2名参加(留学生1名)
	9月9日(月)～13日(金)	熊本日日新聞	コース生2名、準コース生1名参加
	(26年度候補)		
26年度 (予定)	9月8日(月)～12日(金)	新日本科学(鹿児島市)	
	9月8日(月)～12日(金)	化学及び血清療法研究所	
	9月8日(月)～12日(金)	熊本日日新聞	
	11月4日(火)～11月7日(金)	エーザイ	
	11月(2日間)	大塚製薬	
行政インターンシップ			
年度	期間	場所等	備考
25年度	8月22日(木)～26日(月)	天草市、熊本県健康福祉部、熊本市健康福祉子ども局	コース生9名、準コース生3名参加(留学生3名) (8/23～26は崇城大学生も参加)
26年度	8月22日(金)～24日(日)	天草市	住民へのフィードバック(10月中旬予定)

(出典：医学事務チーム教務担当資料)

資料C-2-1-1-4 HIGOプログラム学生における記事



(出典：熊本大学ウェブサイト)

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

熊本医学・生物科学シンポジウムは、本年度で30回におよび、定着した事業として市民に公開されていることが評価できる。また、柴三郎プログラムの活動に参加した高校生が熊本大学医学部に進学するなど、柴三郎 Jr. の発掘の成果が上がり始めている。

また、HIGOプログラムは、ユニークな地域社会とアジア・アフリカを結びつけた健康科学についての教育事業で有り、熊本大学から発表された、リーディングフォーラムでの日本のムスリム市場を結ぶ「iHALA」は、Japan and/or Global, Now and Future 部門で優勝し、本プログラムの今後のますますの成果が期待された。(前掲資料C-2-1-1-4)。

観点 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

平成 22 年度から 25 年度に、熊本医学・生物科学シンポジウムを予定通り年 1 回開催している (P58 前掲資料 C-2-1-1-1)。平成 24 年度より柴三郎 Jr. の発掘プログラムを公開し、25 年度より高校生が医学教育部の研究に参加している。また、HIGO プログラムについての活動は、行政及び産業界と連携し、理論的かつ実践的な教育プログラムが適切に実行されていて、特に HIGO プログラムの特有な科目である、企業・行政セミナー、行政機関・企業・海外へのインターンシップ、研究室ローテーション実習、社会文化科学研究科の講義・演習などが、適切に実施されている (P50 前掲資料 C-1-1-1-4、P51 前掲資料 C-1-1-1-5、P59 前掲資料 C-2-1-1-3)。

企業・行政セミナーは、産業界及び行政から多数の講師を招聘し、講師の経験等に基づいた実践的な講義を行っている。インターンシップは、天草地域の行政機関・医療機関との連携、医療関連企業やメディア等多種多様な企業との連携、海外の企業・大学等と連携し、生きた情報に触れることにより、グローバル社会における課題設定・解決能力の向上を図っている。

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

予定通りに実行されている。特に、HIGO プログラムでは、平成 25 年度において、企業セミナー 18 回、行政セミナー 6 回、先端医学セミナー 66 回、海外インターンシップ 2 回、行政インターンシップ 1 回、企業インターンシップ 3 回行った。このプログラムでは、広く社会に開放して、実務者レベルの地域の行政、企業関係者に参加してもらうことで実践的な教育も行った。また、学生の「熊本版ダボス会議」への参加など、地域への参加の実践が確実に行われていることがわかる。

観点 活動の実績及び活動への参加者等の満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。

(観点に係る状況)

熊本医学・生物科学シンポジウムについては、一定の市民からの参加者があり、国際的な研究者を招聘したシンポジウムは、有意義に開催された。柴三郎 Jr. の発掘に関しては、オープンキャンパス時に開催する説明会には約 30 名の高校生が参加している (資料 C-2-3-1-1)。現在、4 分野で高校生を受け入れていて、13 名の高校生が研究室で研究にたずさわっている。また、参加者が熊本大学に進学するなど、活動の成果が上がっていることから、研究に興味を持った医学部生の育成に効果があると考えられる。また、HIGO プログラムに関しては、海外・行政・企業セミナー参加者からの感想文からは、このプログラムの成果があがっていることがわかる。

医学部医学科オープンキャンパスが無事終了しました

2013-08-08

平成25年8月7日（水）熊本大学本荘地区にて、医学部医学科オープンキャンパスが開催されました。参加学生は、およそ450名。その中から、約30名ほどが「柴三郎プログラム主催のオープンラボに参加したい！」ということで、研究室見学に参加してくれました。



まずは医学科3年の永芳 友さんより、大学での研究生活についてお話して頂きまして、引き続きラボの見学や顕微鏡観察などを体験して頂きました。



皆さん意欲的で、さっそく高校生Jr.の発掘プログラムに参加したい！との声が届いており、とても楽しみです。

（出典：柴三郎プログラムウェブサイト）

（水準）期待される水準を上回る。

（判断理由）

熊本医学・生物科学シンポジウムは堅実に行われ、柴三郎プログラムの高校生への働きかけは、順調な高校生からの参加が見られ、活動の成果が上がっている。また、HIGOプログラムについても、平成25年12月に開催された第3回熊本知識円卓会議(熊本版タボス会議)では、3名の学生が発表を行い（資料C-2-3-1-2）、また、平成26年1月に開催された博士課程教育リーディングフォーラム2013で発表された「日本のムスリム市場を結ぶiHALA」は、Japan and/or Global, Now and Future 部門での優勝は、本プログラムの成果の表れと思われる。（P59 前掲資料C-2-1-1-4）。



第3回熊本知識者円卓会議（熊本版ダボス会議）でHIGO生が発表を行いました。

2014.01.16

日時： 12月26日（木）10:00-12:00

場所： ホテル日航熊本 5F天草の間

テーマ： 「日本、そして熊本は世界に対して何をなすべきか？」

ディスカッサント：

甲斐隆博氏（株式会社肥後銀行取締役頭取）

蒲島郁夫氏（熊本県知事）

幸山政史氏（熊本市長）

田川憲生氏（ホテル日航熊本社長）

谷口功氏（大学コンソーシアム熊本会長・熊本大学長）



羅 欽：医学教育部大学院生命科学研究所(HIGOプログラム基礎コース) 修士課程2年

日本から世界へ、質の高い医療と看護サービスの普及

グローバルな規模での高齢化に伴い、高齢者に対する医療や看護サービスへの関心が高くなっている。日本は先進的な医療・看護のレベルを有しており、熊本県においても医療機関はその数も多く、質も高いものであることは注目に値する。その他の医療機関と世界的に協働し、情報共有を図って行く事は、世界の医療水準の向上に大きく資するものとなるであろう。各国の間に存在する医療格差に関して、こうした医療格差を縮小して行く上で、日本の医療資源の活用は有効なものであり、同時に、それは高い水準の医療に向けた統一的発展を達成するであろう。例えば、政府は外国人患者に対するより優れた医療、電子医療システムを作り上げることを可能にする等の具体的な政策を推進することができる。加えて、看護システム、看護施設、看護師をはじめとする日本の良質な看護サービスは他国が学ぶに値する価値を有している。看護レベルの向上に向けて、日本は他の国々を対象に、その先進性や人間中心主義的な施設を売り込む事ができ、また外国人学習者向けに看護学校を設立する、あるいは優れた看護関連書籍の外国語への翻訳などによって、質の高い看護師の養成を促す事ができる。そして同時に、日本や熊本は世界中の看護サービスの改善に役立つであろう看護師向けの世界標準の認証を発行

（出典：H I G Oプログラムウェブサイト）

観点 改善のための取組が行われているか。

（観点到に係る状況）

熊本医学・生物科学シンポジウムは30回開催され、医学教育部の活動として定着しているが、改善策については検討されていない。柴三郎 Jr. の発掘については外部評価委員会での評価を受けている。HIGOプログラムについては、基礎コース2年次に社会文化科学のレポート発表会を開催し、また、4年コースについては、教員によるインタビューを実施し、学生の成果の状況を把握し、改善のための情報収集をしている。また、外部評価委員による改善の取り組みもされている。

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

熊本医学・生物科学シンポジウムについては、その評価や改善のための取り組みはなされてこなかったが、柴三郎プログラムと HIGO プログラムについては、外部評価委員会が設置され、改善の取り組みがあり、評価できる。

#### 4. 質の向上度の分析及び判定

(1) 分析項目Ⅰ 大学の目的に照らして、社会貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

医学教育部での社会貢献の目的は、国際的に高水準な研究を大学院生に実践させる機会を提供し、その結果、医師・歯科医師免許証を有した大学院生に関しては、研究マインドを有した医師・歯科医師、医学研究者、医学教育者など医療・医学分野で活躍する人材を社会に送り出すこと、また、医師・歯科医師でない大学院生については、医学・生命科学分野での研究者、教育者、企業人として有為な人材を社会に送りだし、また、我が国及び諸外国の医学・医療に貢献できる人材を育成することに、ある。さらに、在職中の社会人への医学・生命科学研究の機会の提供することも、重要な社会貢献である。医学教育部は、堅実に着実に社会貢献を果たしてきたといえる。

(判定結果)改善、向上している。

(2) 分析項目Ⅱ 大学の目的に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

重要な質の変化あり。

柴三郎プロジェクト (<http://www.shibasaburo-kumamoto.jp>) を通しての高校生の最新医学研究にふれあう機会の提供は、地元高校生に新鮮な知的好奇心を呼び覚まし、また、新たな研究医の発掘への一歩として重要なところみである。また、HIGO プログラム (<http://higoprogram.org>) は、生命科学における専門性、国際性を持ちつつ、地域社会でのニーズに応じた牽引役となる人材を育成する特徴を持つプログラムである。

以上のような新しい活動とともに、医学教育部では、熊本医学・生物科学シンポジウムを通して市民に医学生物科学の最新の話題を提供することで、地域貢献への堅実な成果をあげた。

(判定結果)大きく改善、向上している。

#### IV 国際化の領域に関する自己評価書

## 1. 国際化の目的と特徴

医学教育部における国際化の目的は、国際的に優れた研究に大学院生が従事すること、国際的に活躍できる人材を育成すること、外国人留学生の受け入れと育成・帰国後の交流持続することからなる。この目的を果たすために、医学教育部では、分野横断的な教育の実質化や英語化されたカリキュラムの確立を推進してきた。また、平成19年度から23年度の「細胞系譜制御研究の国際的人材育成ユニット」と平成20年度から24年度の「エイズ制圧を目指した国際教育研究拠点」からなる二つのグローバルCOEによる国際的な研究教育環境を有する拠点事業が構築され、大学院生の優れた研究および国際化への強力な推進役を果たした。また、平成22年度から25年度の「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」、平成23年度から25年度の「脳循環を活性化する若手研究者海外派遣プログラム」の採択を受け、多数の大学院生を海外に派遣した。また、平成20年度からは「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」の支援もあり、5年間で30名の国費留学生が来日し、彼らの存在は、大学院授業科目の英語化を促進するとともに、日本人大学院生の英語を使つてのディスカッションの機会を増やすなど、日本人大学院生への国際化の基礎作りにも貢献した。また、中国からの政府派遣大学院生プログラム（中国国家建設高水平大学公派研究生項目）からの留学生も受け入れた。さらに、平成24年度からのHIGOプログラムは、専門性、国際性、地域性を加味した、日本人と外国人からなる多面的な人材育成プランで、新たな国際化のあり方を試みている。

### [想定する関係者とその期待]

日本人大学院生は、国際的に優れた研究の実践する機会や国際的な研究の場で研究者として活躍できる資質を形成する教育が提供され、外国人留学生との交流を通じて国際人としての意識を持てるようになれる事を期待している。一方、外国人留学生は、国際的に優れた研究に従事する機会、日本人との交流を通じ日本との友好関係を持続的に構築することなどを期待している。HIGOプログラムの大学院生にあつては、アジア・アフリカ地区、九州地方といった地域のニーズに応じた国際性に富んだ健康生命科学の専門家になれることを期待している。

## 2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

### 【優れた点】

医学教育部における国際化の優れた点は、分野横断的な教育の実質化や英語化されたカリキュラムの確立とともに、多様なプログラムを有して来たことと、「細胞系譜制御研究」と「エイズ制圧」の二つのグローバル COE による国際的な研究教育拠点事業を構築することができ、「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」や「脳循環を活性化する若手研究者海外派遣プログラム」による大学院生を海外に派遣の援助を可能にしたことが挙げられる。また、中国国家建設高レベル大学公派研究生項目からの留学生とともに「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」を獲得した結果、多数の国費留学生の参加は、医学教育部の国際化の原動力となっている。一方で、私費留学生対象の奨学金援助の KDS も行っている。さらに、HIGO プログラムも加わり、研究環境、多数の外国人留学生の受け入れと日本人大学院生の外国人との交流の機会の増加、などにより、国際化が強化され続けている。更に、「研究大学強化促進事業」に採択されたことは、医学教育部における国際的な研究の促進の大きなメリットといえる。

### 【改善を要する点】

英語化授業のさらなる推進、日本人大学院生の英語でのディスカッション能力を高める実効性のあるカリキュラムの構築、「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」の獲得、私費留学生への奨学金援助の拡大、学位取得後帰国した外国人留学生と医学教育部との人材ネットワークの構築、など、国際化を巡るさらなる強化が求められている。

## 3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 目的に照らして、国際化に向けた活動が適切に行われ、成果を上げていること。

観点 国際化の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が広く公表されているか。

(観点到る状況)

医学教育部では、外国人留学生にむけた英語でのウェブサイトの構築、英語でのシラバスの徹底、外国人留学生に向けた英語での丁寧な履修説明、博士及び修士課程の 10 月入学の開始、入学試験のインターネットによる入学試験の実施など、国外からの留学生の受け入れ体制を整えてきた(資料 D-1-1-1-1~D-1-1-1-4)。また、「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」への応募、中国国家建設高レベル大学公派研究生項目による留学生の受け入れ、浙江大学、山東大学、アイルランガ大学など協定校との学術集会を通しての交流などにより、外国人留学生の受け入れに努めてきた(資料 D-1-1-1-5)。一方、日本人大学院生にも、大学院セミナーの英語化を始め、英語化授業の増加に努めてきた。また、HIGO プログラムは、新たな国際化プログラムで有り、今後の成果が期待される。これらは、いずれも、医学教育部のウェブサイトに公開されている。

(中期計画番号 K51、K52、K56)

資料 D-1-1-1-1 医学教育部英語版ウェブサイト

**Graduate School of Medical Sciences**  
Kumamoto University

JAPANESE

Faculty of Life Sciences

**Graduate School of Medical Sciences**

General Information

Departments & Researches

Education Program

Admissions

Students Support

Access & Campus Map

Regional Information

School of Medicine

Graduate School of Pharmaceutical Sciences / School of Pharmacy

Institution Link

- Institute of Molecular Embryology and Genetics
- University Hospital
- Institute of Resource Development and Analysis
- Center for AIDS Research
- Library

The Graduate School of Medical Sciences believes that it contributes to the human race globally through its research in the fields of medical sciences and biology. It aims to carry out high level medical and biological research centered on the medical sciences and medical treatment as well as to nurture international schools in these fields.

Advanced Education Program for Integrated Clinical, Basic and Social Medicine

Global COE Program Cell Fate Regulation Research and Education Unit

Global COE Program Global Education and Research Center Aiming at the control of AIDS

中国政府国家公派 研究生項目

Program for Leading Graduate Schools HIGO Program

Copyright (C) Graduate School of Medical Sciences Kumamoto University

(出典：医学教育部ウェブサイト)

資料 D-1-1-1-2 英語版シラバス (表紙)

**Academic Year 2014**

**The Graduate School of Medical Sciences  
Kumamoto University  
(Doctoral Course)**

**Syllabus**

**The Graduate School of Medical Sciences  
Kumamoto University**

URL: <http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp/en/medgrad/index.html>

For inquiry, please contact:  
Student Affairs Section, Graduate School of Medical Sciences,  
Kumamoto University  
1-1-1 Honjo, Chuou-ku, Kumamoto-shi, Kumamoto 860-8556  
TEL: 096-373-5025, FAX: 096-373-5030  
E-mail: [iyg-igaku@jimu.kumamoto-u.ac.jp](mailto:iyg-igaku@jimu.kumamoto-u.ac.jp)

(出典：2014 年度医学教育部博士課程英語版シラバス)

資料 D-1-1-1-3 入試のご案内 (抜粋)

熊本大学大学院生命科学部

お問い合せ | サイトマップ | English

---

**入試のご案内** 大学院

[トップページ](#)    [戻る](#)  
[学部の入試のご案内はこちら >>](#)

**お知らせ**

**英語試験実施方法の変更について**  
 本教育学部博士課程(医科学専攻)及び博士課程(医学専攻)では、平成26年度入試より、従来の独自試験から、TOEFL-ITP試験に実装しております(ただし、博士課程第3期入試を除く)。詳しくは、以下のファイルをご覧ください。  
 ・[英語試験の変更について\(PDF 38KB\)](#)

**平成27年度入試募集要項一部変更について**  
 本教育学部では、博士課程(推薦入試)、博士課程(第1期募集)および博士課程(第1期募集)の出願者でHIGOOプログラムの希望者に対して、これまで入学後にHIGOOプログラム選抜試験を実施しておりましたが、平成27年度より、入試と併せて選抜試験を実施することとなりました。詳しくは、以下の募集要項の選抜区分にあります「**一部変更情報**」をご覧ください。

**※Web合格速報は、当日リンクします。**

医学教育科	出願期間	試験日	合格者発表	入学手続開始
博士課程[推薦入試] <a href="#">【PDF 420KB】</a> 一部変更情報 <a href="#">【PDF 3KB】</a>	26年6月11日 ～6月17日	26年7月5日	7月25日 <a href="#">Web合格発表!</a>	27年3月
博士課程[第1期] (外国人留学生平成26年10月入学を含む) <a href="#">【PDF 450KB】</a> 一部変更情報 <a href="#">【PDF 3KB】</a>	26年7月17日 ～7月23日	26年8月12日	8月22日 <a href="#">Web合格発表!</a>	27年3月
博士課程[第1期] (一般・社会人・外国人留学生) <a href="#">【PDF 387KB】</a> 一部変更情報 <a href="#">【PDF 10KB】</a>	26年7月17日 ～7月23日	26年8月12日	8月22日 <a href="#">Web合格発表!</a>	27年3月
博士課程 [平成26年10月入学] (一般・社会人・外国人留学生) <a href="#">【PDF 334KB】</a>	26年7月17日 ～7月23日	26年8月12日	8月22日 <a href="#">Web合格発表!</a>	26年9月

資料 D-1-1-1-4 大学院入試選抜方法

**4 選抜方法**  
 入学者の選抜は、学力検査、成績証明書及び志望理由書などの内容を総合して行います。

(1) 試験日時及び場所

試験日	試験科目等	時間	試験会場
平成26年8月12日(火)	英語 (TOEFL-ITP※) (辞書持込み不可)	9:00~11:20	熊本大学 医学部
	口述試験	13:00~	

※TOEFL-ITP テストは、Educational Testing Service(ETS)が提供する団体向けテストプログラムです。

**【注意事項】**

1. 学力検査は、英語 (TOEFL-ITP) 及び志望理由と入学後の研究 (口述試験) について行います。
2. 英語試験に際しては、辞書等の持ち込みは認めません。
3. 海外在住の志願者の口述試験は、インターネット面接または試験会場での受験とします。なお、これに志願する者は、事前に医学教育部所属の指導教員と十分に相談の上申し込むこと。

(出典：医学教育部博士課程学生募集要項)

資料 D-1-1-1-5 アイルランガ大学との学術セミナー案内

**アイルランガ大学との学術交流特別セミナー**  
 ~Clinical Topics in Indonesia: International Seminar with Airlangga University~

Date: October 24<sup>th</sup>, 2013 (Thu)      日時:平成25年10月24日(木)  
 Time: 17:30~18:50      17:30~18:50  
 Venue: Okukubo Memorial Hall, Faculty of Life Sciences, Kumamoto University      会場:英園記念ホール  
 (熊本大学大学院生命科学研究所  
 臨床医学教育研究センター1F)

**Program**

Schedule	Title	Presenter	Affiliation
17:30~ 17:40	Opening Address 開会の挨拶	Prof. Motohiro TAKEYA 竹屋 元裕	Dean, Faculty of Life Sciences, Kumamoto University 熊本大学大学院生命科学研究所長
17:40~ 18:10	Diabetes Mellitus: Epidemiology in Indonesia	Prof. Agung Pranoto	Dean, Department of Internal Medicine, Faculty of Medicine, Universitas Airlangga アイルランガ大学医学部長、内科学教授
18:10~ 18:40	Antimicrobial Resistance in Indonesia: Emerging and Containment	Prof. Kuntaman	Vice Dean III, Department of Clinical Microbiology, Faculty of Medicine, Universitas Airlangga アイルランガ大学医学部長、臨床微生物学教授
18:40~ 18:50	Closing Address 閉会の挨拶	Prof. Yasuharu NISHIMURA 西村 孝治	Vice Dean, Graduate School of Medical Sciences, Kumamoto University 熊本大学大学院医学教育研究部副学部長

Organized by: Faculty of Life Sciences, Kumamoto University  
 主催：熊本大学大学院生命科学研究所

Contact number / e-mail: 096-373-5657 / [skt@kmc@sun.kumamoto-u.ac.jp](mailto:skt@kmc@sun.kumamoto-u.ac.jp)  
 連絡先：生命科学専攻ユニット研究支援担当 tel: 096-373-5657

(出典：医学教育部教授会資料)



(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

英語化授業の推進、外国人留学生への募集など、確実に国際化の基盤は整いつつあり、これらは医学教育部のウェブサイトに公開されている。

観点 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

国際的な教育・研究環境の構築としては、英語でのウェブサイトとシラバスの英語化を順調に構築してきたこと、「細胞系譜制御研究」と「エイズ制圧」の二つのグローバル COE による国際的な研究教育拠点事業があげられる。大学院生の研究環境については、医学系生命科学研究部各分野、生命資源研究・支援センター、発生医学研究所、エイズ学研究センター、医学部総合研究センターなどを利用することで、国際的な研究を遂行することができる。さらに大学院先導機構による国際先端医学研究施設は、平成 26 年より開所し、医学・生命科学研究の新たな国際的な研究拠点としての活動が期待される。

外国人の受け入れについては、英語でのウェブサイトによる入試案内(資料 D-1-2-1-1)、博士および修士課程の 10 月入学の開設、国費留学生の受け入れ、私費留学生への KDS による援助(資料 D-1-2-1-2)、交流協定校などとのシンポジウムの実施などを行ってきた

(資料 D-1-2-1-3)。学生交流協定による短期留学生受け入れも行ってきた(資料 D-1-2-1-4)。一方、日本人大学院生の海外派遣については、グローバル COE による国際的な研究教育拠点事業、中期目標達成経費(資料 D-1-2-1-5)、「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」(資料 D-1-2-1-6)や「脳循環を活性化する若手研究者海外派遣プログラム」(平成 24 年度に 2 名派遣)などにより多数の大学院生を派遣することができた。(中期計画番号 K51、K52、K53)

資料 D-1-2-1-1 英語による入試案内(抜粋)

	Application period	Test day	Announcements of test results	Admission procedure term	Note
<b>Master's course (Recommendations)</b>	Jun. 11 - Jun. 17, 2014	Jul. 5, 2014	Jul. 28, 2014 Web announcements test results	in mid-March, 2015	The applicants must have good communication skills in Japanese by the time of enrollment in Master Course. All lectures of Master Course are given in only Japanese.
<b>Master's course (1st term)</b> Guideline(Foreign student entrance examination for admission in October, 2014)	Jul. 17 - Jul. 23, 2014	Aug. 13, 2014	Aug. 29, 2014 Web announcements test results	in mid-March, 2015	1. Application form.doc 2. Photo Identity Slip.doc 3. Written Statement of Reasons for Application.doc 4. Research Topic of Your Choice.doc 5. Sheet to Affix the Certificate of Payment of Examination Fee.xls

(出典：医学教育部英語版ウェブサイト)

資料D-1-2-1-2 博士課程奨学金給付制度（KDS）採択状況

博士課程奨学金給付制度(KDS)採択状況 平成22年度～平成25年度				
一般枠			私費留学生枠	
年度	採択者数	採択者のうち留学生	年度	採択者数
22	19	2	22	
23	17	1	23	3
24	19	0	23.10月	4
25	18	2	24	6
			24.10月	5
			25	5
			25.10月	2

※私費留学生枠は、平成23年度より開始。  
 ※10月入学は、私費留学生枠のみ。また、採択者数に内定者を含む。

(出典 医学事務チーム教務担当資料)

資料D-1-2-1-3 交流協定校などとのシンポジウム実施状況

交流協定校とのシンポジウム開催状況		
開催期日	会場	シンポジウム名称
22. 12. 13	浙江大学医学部	第6回日中交流国際生命科学シンポジウム
23. 11. 23	熊本大学山崎記念館	第7回日中交流国際生命科学シンポジウム
24. 11. 9	熊本大学医学部第1講義室	第8回日中交流国際生命科学シンポジウム
25. 10. 24	熊本大学奥達記念ホール	アイルランガ大学との学術交流特別セミナー
25. 11. 25	スラバヤ工科大学及びアイルランガ大学	熊本大学スラバヤ・フォーラム
25. 12. 16	山東大学医学部	第9回日中交流国際生命科学シンポジウム

(出典 医学事務チーム教務担当資料)

資料D-1-2-1-4 大学間交流協定による短期留学生受け入れ状況

大学間交流協定による短期留学生受け入れ状況			
年度	修士	博士	計
22	0	0	0
23	1	1	2
24	0	0	0
25	0	1	1
計	1	2	3

(出典：医学事務チーム教務担当資料)

資料 D-1-2-1-5 中期目標達成経費による大学院生海外派遣旅費支援状況  
(支援対象：博士課程学生のみ)

年度	学生数	主な派遣国
23	7	米国、オーストラリア、韓国
24	8	米国、タイ、イタリア、インドネシア
25	9	中国、台湾、米国、スペイン、ブラジル
計	24	

(出典：医学事務チーム教務担当資料)

資料 D-1-2-1-6 組織的な若手研究者等海外派遣プログラム採択学生数

年度	修士	博士	計
21	0	1	1
22	3	4	7
23	6	23	29
24	1	14	15
計	10	42	52

プログラム採択期間：平成22年3月から平成25年3月

(出典 医学事務チーム教務担当資料)

(水準) 期待される水準を上回る。

(判断理由)

医学教育部は、2つのグローバル COE による国際的な研究教育拠点事業、「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」などにより、国際的な教育・研究機関として基盤を固めることができた。同時に、英語でのウェブサイトの構築やシラバスの英語化などを推進することができた。

日本人大学院生も、英語化授業、海外派遣事業など、外国人留学生との共同研究などを介して、英語コミュニケーション能力の向上が見られた。

**観点 活動の実績及び学生・研究者の満足度から判断して活動の成果があがっているか。**  
(観点に係る状況)

平成 22 年度から 25 年度の大学院修士課程の外国人入学者は 8 名で、博士課程の外国人入学者は、49 名（私費留学生 26 名、国費留学生 23 名）からなる。また、同期間の修士号取得者は 7 名、博士号取得者は 24 名である。一方、同時期の大学院修士課程の外国人留学生の進路は、博士課程進学者 5 名、就職 1 名である。また、博士課程の留学生の進路は、研究教育者 14 名、病院 1 名、技師 1 名、その他 4 名、不明・未定 5 名であり、外国人留学生の医学教育部での学位取得率・就職率から、医学教育部の活動はある程度満足が行くものと判断される（資料 D-1-3-1-1～D-1-3-1-3）。

一方、日本人大学院生には、医学教育部の学生が在籍する施設は、「研究大学強化促進事業」にふさわしい研究機器を充実化し、国際レベルの研究を遂行できる環境を提供している。英語化した授業への出席率もある程度の水準を維持していて、英語化された医学・生命科学セミナーにも 15 回以上の聴講が義務づけられている。（中期計画番号 K51、K52）

資料D-1-3-1-1 外国人留学生の入学者数（国費・私費別）

年度	博士			修士			非正規生	
	国費	私費	計	国費	私費	計	国費	私費
H22	7	8	15	0	1	1	1	0
H23	7	7	14	0	1	1	1	3
H24	7	4	11	0	3	3	0	0
H25	2	7	9	0	3	3	0	0
合計	23	26	49	0	8	8	2	3

（出典：医学事務チーム教務担当資料）

資料D-1-3-1-2 外国人留学生への学位授与一覧

○留学生学位取得状況(H22年度からH25年度)				
博士課程				
年度/区分	国費	私費	計	備考
22年度	2	0	2	
23年度	1	2	3	
24年度	8	3	11	
25年度	7	1	8	
計	18	6	24	
遡及修了含む				

（出典：医学事務チーム教務担当資料）

資料D-1-3-1-3 留学生の進路状況

留学生の進路状況(修士課程)										
	進学(①)	(内訳) 本学博士課程	(内訳) 他大学博士課程	就職(②)	(内訳) 研究者	(内訳) 民間企業	(内訳) 大学教員	その他(③)	不明・未定(④)	合計(①+②+③+④)
H22	2	2	0	0	0	0	0	0	0	2
H23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
H24	1	0	1	0	0	0	0	0	1	2
H25	2	2	0	1	1	0	0	0	0	3

留学生の進路状況(博士課程)												
	進学(①)	就職(②)	(内訳) 研究者	(内訳) 民間企業	(内訳) ポスドク	(内訳) 大学教員	(内訳) 病院	(内訳) 技術職員	(内訳) その他	その他(③) (研究員※)	不明・未定(④)	合計(①+②+③+④)
H22	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
H23	0	3	2	0	0	0	0	1	0	0	0	3
H24	0	6	3	0	0	0	0	0	3	2	3	11
H25	0	9	4	0	0	3	1	0	1	0	2	11
※医学教育部研究員(無給)			H25は単位修得退学者3名も含む									

（出典：医学事務チーム教務担当資料）

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）

外国人留学生の、学位取得状況および進学率とも良好な状況にあると思われる。日本人大学院生の英語コミュニケーション能力をあげるための英語化授業なども増加している。

観点 改善のための取り組みが行われているか。

（観点到に係る状況）

改善のための取り組みとして、海外からの入学希望者への10月入学を可能にし、また、入学時期による履修科目の不便さがないようにカリキュラムを改善し、外国人の受け入れ体制を強化した。また、「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」(資料D-1-3-1-4)への応募、浙江大学、山東大学、アイルランガ大学など協定校とのシンポジウムを

積極的にを行い、国外の学生の獲得のための活動を強化した。また、外国人留学生の日本語教育を本部のある黒髪地区だけでなく、医学教育部のある本荘地区でも開講し始めた。日本人の大学院生に対しては、グローバル COE による国際的な研究教育拠点事業の一環として英語コミュニケーション能力の開発に努めた。また、英語化授業の促進、研究機器の整備、短期留学への援助枠の増加を目指した。(中期計画番号 K51、K52、K56)

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

留学生の増加、留学生の学習環境の改善、日本人大大学院生の国際化とも、取り組みがなされている。

#### 資料 D-1-3-1-4 国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム公募要領 (抜粋)

平成25年度「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」公募要領	
<b>1 事業の目的</b>	<p>本事業は「大学の国際化」を支援する文部科学省の取組の一つです。本事業が目指す「大学の国際化」とは、具体的に、グローバル化する高等教育の世界において、我が国の大学が、「相手国・地域のニーズ、留学生のニーズ等を的確に把握し、積極的に優秀な留学生の獲得に取り組み、当該大学の特色ある教育研究サービス等を提供するとともに、学生の募集・採用からフォローアップまでのケアを行う」という一貫した方針及びそれを可能とする仕組みを有するに至ることです。</p> <p>文部科学省が、各大学に大学推薦による国費外国人留学生を優先的に配置する(大学に一定の特別枠を用意し、大学がその枠内で採用する外国人留学生に対して、文部科学省が奨学金等を負担する、すなわち国費外国人留学生として採用することによって、各大学におけるこれらの方針と仕組みの構築およびその拡大の支援を図り、我が国の留学生の受入れの拡大と高等教育における国際競争力の強化を目指します。)(※大学推薦による国費外国人留学生の概要については、末尾の参考資料を参照)</p> <p>なお、本事業は、採択したプログラムに対して、大学に直接的あるいは間接的に経費支援を行うものではありません。</p>
<b>2 事業の概要</b>	
<b>(1) 募集の対象</b>	<p>我が国の国公立大学の大学院において実施する優秀な留学生にとって魅力ある特色あるプログラムを対象とします(要件については、下記(4)をご参照下さい)。</p> <p>募集するプログラムは、大学院の専攻単位での取組(教員個人の取組は不可)とし、連合大学院など複数の大学が連携して行うプログラムも募集の対象とします。</p> <p>また、平成26年10月開始(秋入学)のプログラムを原則としますが、本事業の趣旨に照らして特段の事由があれば、平成27年4月開始のプログラム(春入学)の申請も認めることとします。</p>

(出典：文部科学省ウェブサイト)

#### 4. 質の向上度の分析及び判定

分析項目 I 目的に照らして、国際化に向けた活動が適切に行われ、成果を上げていること。

重要な質の変化あり

医学教育部における国際化の活動の重要な要素である国際レベルの大学院生の成果は、「研究大学強化促進事業」に採択されたにふさわしい研究設備環境から、国際的な研究内容の発表が継続的に出されていることから、成果を上げていると判断できる。また、英語化されたカリキュラム、英語化された eラーニングの増加、「細胞系譜制御研究」と「エイズ制圧」の二つのグローバル COE による国際的な研究教育拠点事業の展開などとともに、平成 22 年度以降「組織的な若手研究者等海外派遣プログラム」(P72 前掲資料 D-1-2-1-6)や「中期目標達成経費による大学院生海外旅費支援」(P72 前掲資料 D-1-2-1-5)、「脳循環を活性化する若手研究者海外派遣プログラム」による多数の大学院生の海外派遣の実績を示した。

一方で、中国国家建設高水平大学公派研究生項目からの留学生とともに「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」を獲得した結果、多数の外国人留学生の参加、さらに、平成 24 年度から HIGO プログラムも加わり、研究環境の改善、多数の外国人留学生の受け入れと日本人大大学院生の外国人との交流の機会の増加などにより、国際化が強化・深化し続けている。

(判定結果)大きく改善、向上している。

V 男女共同参画の領域に関する自己評価書

## 1. 男女共同参画の領域の目的と特徴

熊本大学の掲げる「男女が互いにその人権を尊重し責任も分かち合い、性別にかかわらずその個性と能力を十分に発揮することが出来る男女参画社会」を実現するために、研究活動と出産、育児および介護等といったライフイベントを両立することが出来る研究者の育成・支援が、特に女性研究者において課題となっている。この社会状況において、平成22年に「男女共同参画推進委員会」を設置し、医学系における男女共同参画の推進を図り、具体的取り組みを行っている。

男女共同参画社会の形成促進を積極的に行い、国立大学法人熊本大学男女共同参画推進基本計画における(1)教育・研究及びそれを取り巻く就労・就学環境の整備、(2)男女が共に参画して社会を形成していくための原動力となり、社会でも活躍できる人材の育成、(3)男女共同参画社会の形成のための教育・研究の充実を目標としている。この目標を基に、本研究部における男女共同参画の推進を図っており、男女共同参画の意識定着、男女機会均等を目的とし、重要課題として取り組んでいる。医学教育部においては、出産、育児あるいは介護などのライフイベントと両立して、大学院での受講、研究および修了が円滑に行えるように、長期履修制度およびeラーニングを実施し、支援しているところに特徴がある。

### [想定する関係者とその期待]

医学教育部に所属する学生及び配偶者、その家族にとっては、大学及び医学教育部の具体的な取組から、男女共同参画社会の実現のための形成促進、施策の推進を図ることにより、就学と家庭の両立し学位取得することが期待されている。

## 2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

### 【優れた点】

男女共同参画の推進に関する委員会規則を制定しており、本規則は、医学系の現状を踏まえた上で、その推進を図ることができ、優れている点として評価できる。また、医学教育部に所属する学生が、出産、育児あるいは介護などのライフイベントと両立して、大学院での受講、研究および修了が円滑に行えるように、長期履修制度および e ラーニングを実施し、支援しているところに特徴がある。

### 【改善を要する点】

男女共同参画の推進のため、ある程度目標達成のための実施をしているが、委員会による計画の目標達成へ向けた、さらに具体的な施策が必要であり、計画的な推進が必要である。男性教職員への意識定着も今後の課題となる。

## 3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 大学の目的に照らして、男女共同参画が適切に行われ、成果を上げていること。

観点 男女共同参画の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が広く公表されているか。

(観点到に係る状況)

国立大学法人熊本大学 男女共同参画推進基本計画を基に、(1)女性研究者の積極的な採用、(2)育児・介護休暇の支援、(3)セミナーの開催、(4)女性の参画の拡大等推進計画を定めている。また、男女共同参画の推進に関する委員会において、具体的な方針を定める。医学系における進捗状況を熊本大学ホームページ男女共同参画において、広く公表している(資料 E-1-1-1-1~E-1-1-1-3)。さらに、学部説明会や高校訪問等においても周知している。(中期計画番号 K73)





(出典 熊本大学HPより抜粋)



(出典 熊本大学HPより抜粋)

資料 E-1-1-1-3 男女共同参画推進進捗状況一覽

(平成25年4月1日現在) 各部署等における男女共同参画推進進捗状況一覽

部署等名	推進計画	進捗状況等
大学院生命科学研究部 (医学系)	<p>1. 11月までに男女共同参画推進委員会を設置する。既存の「医学部男女共同参画委員会部局委員」が「医学部男女共同参画推進委員会」を兼ねて、生命科学系事務部長を加える。</p> <p>2. 各部署における男女共同参画推進の具体的な計画 (可能な限り数値目標を設定する。)を策定する。</p> <p>(1) 男女共同参画推進セミナーを年1回程度実施し、参加者の男女比率について、男性教職員5割以上を目指し意識改革を行う。</p> <p>(2) 育児休暇支援 現在育児休暇中及び育児休暇取得経験者から、休暇を申し出た際の①困ったこと、②気兼ね、③良かったこと、④配偶者の協力、⑤大学への要望等の実態を調査・把握し、支援方法を検討する。</p> <p>(3) 女性教員の採用を15%以上とする (昨年度実績14.8%)</p> <p>(4) 介護休暇支援 介護休暇の実態を調査し、介護休暇取得経験者から休暇を申し出た際の①困ったこと、②気兼ね、③良かったこと、④配偶者の協力、⑤大学への要望等支援方法の実態を調査・検討し、支援方法を検討する。</p> <p>3. 大学への要望 (1) 男女共同参画推進に対する、苦情申し立て窓口・担当者等を設置・整備し、教職員に通知するとともに、問題点等に対し迅速な対応、解決を行う。 (2) 女性教員を採用した場合、その部局の教育研究費の予算配分割合を増やす。 (3) 学長指名の副学長、学長特別補佐、理事に女性を登用する。</p>	<p>医学部における男女共同参画推進の対応 (平成20年1月31日付け回答) に基づき、具体的な計画を策定し進める予定でしたが、セミナー開催の講師謝金等の予算の措置が不可能であること等により進捗できませんでした。</p> <p>今後、男女共同参画を推進するためには、大学からの予算措置をお願いいたします。</p> <p>1 『熊本大学大学院生命科学研究部における男女共同参画の推進に関する委員会規則』を制定し、平成22年4月1日から施行した。本規則は、従来の生命科学研究部全体の男女共同参画推進委員会を、各系 (医学系、薬学系、保健学系) ごとに分け、各系の現状を踏まえ、その推進を図ることができるように配慮した。また、委員長については、生命科学研究部長が全て担当し、研究部全体の統括にある。なお、ユニット長を委員に加えることは、引き続き検討するが、推進委員会の開催にあたっては、常時、ユニット長が出席することとしている。</p> <p>2</p> <p>(1) これまでのセミナーの開催実績はないが、全学のセミナー参加については、毎回呼びかけを行ってきた。</p> <p>(2) 今年度内に実行予定である。→平成24年度に実行し、今後の支援策について検討した。</p> <p>●下記事項について、男女共同参画推進委員会と協議する 【育児・介護休業取得者に対して】 ①教職員の復職時期に合わせて、情報提供の提供を行う。 ②メンターの配置 (休業取得前後の時期を定める) 【一般教員に対して】 ③職員全体が賛同 (育児・介護休業、短時間勤務等) に関する理解を進めるよう、情報提供を行う。 ④男性教員が育児休業を取得しやすい環境整備 ⑤ 昨年度は、目標数値に達しなかったところまで改善している。 (4) 同上→平成24年度に実行したが、有効回答が得られなかった。</p>

(出典：生命科学系事務保有データを基に作成)

(水準) 期待される水準にある  
(判断理由)

男女共同参画を推進する充実した計画が立てられており、また大学ホームページ上から進捗状況もわかっている。男女共同参画の取組も含めて学部説明会、高校訪問等で周知している。このことから、広く公表されており、関係者から期待される水準にあると判断する。

観点 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

(観点到に係る状況)

セミナー開催に伴う意識改革の推進を行い、熊本大学主催のシンポジウムにも積極的な参加を呼びかけている。男性職員にも意識改革を深めており、また、女性研究者の採用も概ね目標を達成している。就労・就学と家庭生活との支援については掲示での広報、育児・介護休暇支援に関しては、実態を調査・検討し、今後の支援策について検討した (P78 前掲資料 E-1-1-3)。

平成 25 年 5 月に生命科学研究部 (医学系) に在籍する女性教員は教授 1 名、准教授 2 名、助教 13 名で合計 16 名である (資料 E-1-2-1-1)。

医学教育部に所属する学生のうち、平成 26 年 3 月現在では女性は 30.6% (修士課程・博士課程合計) 在籍している。在学中に出産・育児あるいは介護を行う学生がスムーズに修了できるために、長期履修制度や eラーニングを整備、支援している。

平成 24 年度より基礎医学研究者育成のための柴三郎プログラムが開始されているが、その中に「女性柴三郎コース」を用意しており、将来出産・育児を経ても途切れることのない研究指導および勉学の継続が出来るシステム構築を目指している。

平成 25 年度には熊本県内で働く女性研究者を紹介するロールモデル集が作成されたが、その中に生命科学研究部 (医学系) より 4 名が参画し、女性研究者の将来のキャリアパスを想起するモデルとなった。 (中期計画番号 K73)

資料 E-1-2-1-1 生命科学研究部在籍者数 (女性教員)

H25.5.1 現在

部局	教授	准教授	講師	助教	合計
医学系	1	2	0	13	16
薬学系	3	0	0	1	4
保健学系	8	5	3	14	30
合計	12	7	3	28	50

(出典：生命科学系事務保有データを基に作成)

(水準) 期待される水準にある  
(判断理由)

計画に基づいた活動が行われ、女性研究者の積極的な採用が図られているが、引き続き他の目標達成に向けて積極的な活動を行う必要がある。しかし、概ね目標を達成しており、関係者から期待される水準にあると判断する。

#### 4. 質の向上度の分析及び判定

(1) 分析項目目的に照らして、男女共同参画が適切に行われ、成果を上げていること。

(水準) 質を維持している。

(判断理由)「国立大学法人熊本大学男女共同参画推進基本計画(平成19年)」が制定された当初は、まだ積極的な取り組みが実施されておらず、平成22年に「男女共同参画推進委員会」を設置した後、医学系における具体的な計画、取り組み、広報活動による成果を確実に充実させている。出産、育児あるいは介護などのライフイベントと両立して、大学院での受講、研究および修了が円滑に行えるように、長期履修制度およびeラーニングを実施し支援している点が優れている。これらのことから、質を維持していると判断する。

VI 管理運営に関する自己評価書

## 1. 管理運営の目的と特徴

医学教育部は、医学系生命科学研究部、発生医学研究所、エイズ学研究センター、生命資源研究・支援センター、附属病院、保健管理センターなどの教員による、医学研究者・教育者並びに高度医療人を育成する大学院教育組織である。医学教育部における管理運営の主な目的は、大学院教員の資格審査、大学院生への試験の実施と大学院生のリクルート、履修方法の説明、留学生への生活オリエンテーション、留学生への日本語指導、シラバスの充実、TA、RAなどの学業援助、各種奨学金案内、履修の確認、学位研究の指導、国内・国外研修などの調整、教員間の授業評価などによるFD、就職指導、パワーハラスメント・アカデミックハラスメント防止、学位審査などについて、適切に運営することを目的としている。これには、医学事務チーム教務担当の支援の元、大学院教育委員会と大学院学生委員会が実務を担当し、医学教育部教授会がその責任を負っている。医学教育部教授会は、医学教育部の大学院生などに関わる事項の管理運営の全てについて審議し、決定する組織である。留学生については、国際化推進センターや国際戦略ユニットの支援を受けている。新たなプログラムとして、柴三郎プログラムと HIGO プログラムがあり、後者は薬学教育部、社会文化科学研究科、政策創造研究教育センターと合同で運営している。

### [想定する関係者とその期待]

大学院生は、良好な研究・教育環境の提供、国際的なレベルの優れた成果が上げられる研究の指導、高度医療人育成の指導を期待している。所属する教員は、良好な研究・教育環境の持続的な確立、および、資質の高い大学院生のリクルートを期待している。また、修了生、学生の就職先、共同研究関係者、地域社会からも、高度医療人育成が期待されている。

## 2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

### 【優れた点】

医学教育部は、医学・生命科学の優れた大学院教育をすることが組織の目的であり、その達成のための意思決定システムは、教育委員会と学生委員会および医学教育部教授会からなる管理体制からなり、各種規則は明確に制定されている。よりよい教育環境をもとめ、問題点や意見・要望が生じた場合、必要に応じて、柔軟に対応できる管理体制で有る。

### 【改善を要する点】

外部評価を含め、組織評価の体制の確立をしなければならない。

## 3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目Ⅰ 管理運営体制及び事務組織が適切に整備され機能していること

観点 管理運営のための組織及び事務組織が、適切な規模と機能を持っているか。また、危機管理等に係る体制が整備されているか。

(観点に係る状況)

医学教育部の管理運営に関する事項を審議する組織として、教育委員会と学生委員会がある。これら委員会は、熊本大学大学院医学教育部教授会規則に則り、医学教育部教授会で選出された教授、准教授講師会および助教会から選出された委員で構成される。教育委員会は、大学院教員の資格審査、非常勤講師審査、教員のFD、入学試験の実施、シラバス作成、新生オリエンテーション、留学生への日本語指導、TA、RAなどの学業援助、国内・国外研修などの承認、履修確認、学位審査、などに関わる。学生委員会は、学生生活における諸問題、奨学金、パワーハラスメント・アカデミックハラスメント防止、就職活動援助などを担当する。これら委員会は、医学教育部教授会の審議事項等への素案の提出や意見調整を担当している(資料 Z-1-1-1-1~Z-1-1-1-3)。

医学教育部の決定機関は医学教育部教授会である。熊本大学大学院医学教育部教授会規則に基づき、教員の資格審査、学位審査などの審議と承認が行われ、管理運営に関する事項が報告される。

事務組織としては、医学事務チーム教務担当(計12名)が事務支援を行っている。これらの事務組織の編制と職制は、国立大学法人熊本大学事務組織規則に則っている(資料 Z-1-1-1-4)。

危機管理体制については、本学が定める「熊本大学危機管理規則」等に従い本教育部においても、緊急時の連絡網を整備している。また、火災時における消防組織の編成による緊急時の対応を整備している。(資料 Z-1-1-5~Z-1-1-6)

そのほか、ヘルシンキ宣言等の趣旨に沿った倫理的配慮を図るための「熊本大学大学院生命科学研究部等生命倫理に関する規則」(資料 Z-1-1-1-7)の法令遵守徹底を図り運用している。

また、衛生管理者・産業医が毎月行う職場巡視の結果を事業場に設置された安全衛生委員会で審議し、必要に応じ当該部署に改善指導を行うなどして、安全管理の改善を図っている。(中期計画番号 K91、K92)

資料 Z-1-1-1-1 医学教育部教授会規則（抜粋）

<p>(趣旨)</p> <p>第 1 条 この規則は、熊本大学教授会等規則(平成 16 年 4 月 1 日制定)第 14 条の規定に基づき、熊本大学大学院医学教育部教授会(以下「教授会」という。)に関し必要な事項を定める。</p> <p>(組織)</p> <p>第 2 条 教授会は、次に掲げる者であつて、医学教育部の教育を担当するもの(兼担を除く。)をもって組織する。</p> <p>(1) 生命科学研究部の専任の教授</p> <p>(2) 医学部附属病院の専任の教授</p> <p>(3) 保健センターの専任の教授</p> <p>(4) 発生医学研究所の専任の教授</p> <p>(5) エイズ学研究センターの専任の教授</p> <p>(6) 生命資源研究・支援センターの専任の教授</p> <p>(7) 生命科学研究部の併任教授</p> <p>(8) 第 1 号から第 6 号までに掲げる組織の専任の准教授及び講師のうちから選出された者 6 人以内</p> <p>(9) 医学教育部の連携講座及びエイズ学研究センターの客員教授(以下「客員教授」という。)</p> <p>(10) 第 1 号から第 6 号までに掲げる組織の研究分野、部等(以下「研究分野等」という。)で教授が配置されていないものの専任の准教授又は講師 当該研究分野等ごとに各 1 人</p> <p>2 前項第 1 号から第 6 号までに掲げる組織の研究分野等(生命科学研究部においては、併任教授が配置されている研究分野を除く。)において、専任の教授に欠員が生じた場合は、当該研究分野等の専任の准教授又は講師各 1 人を構成員とする。</p> <p>3 第 1 項第 8 号の構成員は、同項第 10 号及び前項の構成員を兼ねることができる。</p> <p>4 第 1 項第 8 号及び第 10 号の構成員の任期は、1 年とし、再任を妨げない。</p> <p>5 第 2 項の構成員の任期は、当該欠員が補充されるまでの間とする。</p> <p>(審議事項)</p> <p>第 3 条 教授会は、次に掲げる事項について審議する。</p> <p>(1) 教育課程の編成に関する事項</p> <p>(2) 学生の入学、修了その他その在籍に関する事項及び学位の授与に関する事項</p> <p>(3) 教育部長候補適任者及び附属図書館医学系分館長候補者の選考に関する事項</p> <p>(4) その他教育に関する重要事項</p> <p>2 客員教授は、前項第 2 号に定める学位の授与に関する事項についてのみ、審議に加わる。</p> <p>(会議)</p> <p>第 4 条 教授会は、定例教授会又は臨時教授会とする。</p> <p>2 教授会に、議長を置き、教育部長をもって充てる。</p> <p>3 教育部長に事故があるときは、教育部長があらかじめ指名する教授がその職務を代行す</p>
--

(出典：医学教育部教授会規則（抜粋）)

資料 Z - 1 - 1 - 1 - 2 大学院教育委員会規則

熊本大学大学院医学教育部大学院教育委員会規則	
(設置)	
第1条	熊本大学大学院医学教育部規則(平成16年4月1日制定)第11条第2項の規定に基づき、医学教育部に熊本大学大学院医学教育部大学院教育委員会(以下「委員会」という。)を置く。
(組織)	
第2条	委員会は、医学教育部の教育を担当する次に掲げる者をもって組織する。
(1)	医学教育部副教育部長
(2)	生命科学研究部の専任の基礎医学系教授のうちから4人
(3)	生命科学研究部の専任の臨床医学系教授及び医学部附属病院の専任の教授のうちから4人
(4)	生命資源研究・支援センター、エイズ学研究センター及び発生医学研究所の専任の教授並びにエイズ学研究センターの専任の教授又は准教授のうちから3人
(5)	第2号から第4号までに掲げる組織の専任の准教授及び講師のうちから2人
(6)	第2号から第4号までに掲げる組織の専任の助教のうちから2人
(7)	その他委員長が必要と認めた者 若干人
2	前項2号から第6号までの委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、引き続き4年を超えて在任することはできない。
3	第1項2号から第6号までの委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前項の規定にかかわらず、前任者の残任期間とする。
4	第1項2号から第6号までの委員は、熊本大学医学部医学科教育・教務委員会委員と重複しないものとする。
(審議事項)	
第3条	委員会は、次に掲げる事項を審議する。
(1)	教育課程の編成に関する事項
(2)	学生の入学、修了その他在籍に関する事項
(3)	学位の授与に関する事項
(4)	その他教育及び研究指導に関する重要事項 (委員長及び副委員長)
第4条	委員会に、委員長を置き、第2条第1項第1号の委員をもって充てる。
2	委員会に、副委員長を若干名置き、第2条第1項第2号から第4号までの委員から、委員の互選により選出する。
3	委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
4	副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代行する。
(議事)	
第5条	委員会は、委員の過半数の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。
2	委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
(開催)	
第6条	委員会は、原則として月1回定例委員会を開催する。ただし、議長が必要と認めたときは、臨時に開催することができる。
(意見の聴取)	
第7条	委員長は、必要があるときは、委員以外の者を委員会に出席させ、意見を聴くことができる。
(小委員会)	
第8条	委員会に、大学院入試に関する事項を調査審議するため、入試小委員会を置くことができる。
2	入試小委員会に関し必要な事項は、別に定める。
(事務)	
第9条	委員会の事務は、生命科学系事務部において処理する。
(雑件)	
第10条	この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。
附 則	
この規則は、平成22年4月1日から施行する。	
この規則は、平成23年2月23日から施行する。	

(出典：大学院教育委員会規則)



資料 Z-1-1-1-3 大学院医学教育部学生委員会細則（抜粋）

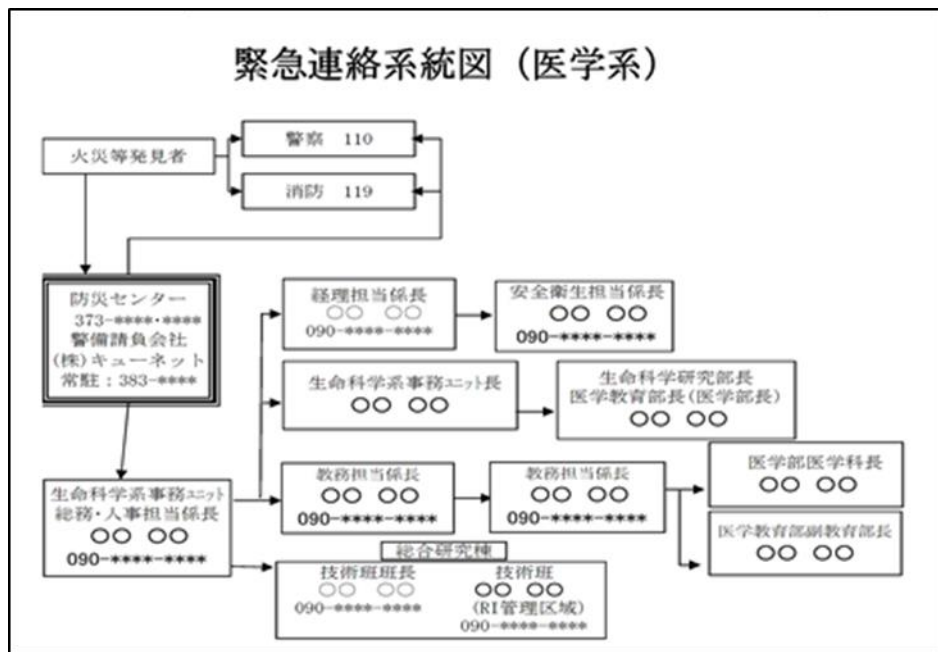
熊本大学大学院医学教育部学生委員会細則	
（設置）	
第1条	熊本大学医学教育部規則第11条の規定に基づき、本教育部に熊本大学医学教育部学生委員会（以下「委員会」という。）を置く。
（任務）	
第2条	委員会は、医学教育部学生の厚生補導に関する問題について審議する。
（組織）	
第3条	委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
（1）	医学教育部の教授で医学教育部の教育を担当する基礎系・臨床系及びセンター系のうちから教授会で選出された者 2人。
（2）	助教授及び講師のうちから選出された者 2人。
（任期）	
第4条	前条の委員の任期は2年とし、引き続いての再任は行わない。
2	前項の規定にかかわらず、前条の委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
（委員長及び副委員長）	
第5条	委員会に委員長と副委員長を置き、第3条第1項の委員から、委員の互選により選出する。
2	委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
3	副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代行する。
（議事）	
第6条	委員会は、委員の過半数の出席がなければ議事を開き、議決することができない。
2	委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
（開催）	
第7条	委員会は、必要に応じて開催する。
（意見の聴取）	
第8条	委員長は、必要がある場合は委員以外の者を委員会に出席させ、意見を聴くことができる。

（出典：大学院学生委員会細則）

資料 Z-1-1-1-4 生命科学系事務ユニット組織図（抜粋）



（出典：生命科学研究部概要）



(出典 生命科学系事務保有データから抜粋)

資料 Z-1-1-1-6 自衛消防組織編成表

自衛消防組織の編成と任務 (生命科学系研究部(医学系)本部隊)											
(平成26年2月1日現在)											
<table border="1"> <tr><td>本部隊長</td></tr> <tr><td>医学部長</td></tr> <tr><td>副本部隊長 (施設管理室)</td></tr> <tr><td>ユニット長</td></tr> </table>	本部隊長	医学部長	副本部隊長 (施設管理室)	ユニット長	<p>※自衛消防隊編成員は、各分野より代理含め3名選出しておくこと</p> <p>※自衛消防隊編成員は、各班長の指示に従い、自身の分野の教職員とともに速やかに行動すること</p> <p>※各班は、基礎医学研究棟、医学総合研究棟および医学教育図書館の教職員にて編成</p>						
本部隊長											
医学部長											
副本部隊長 (施設管理室)											
ユニット長											
<table border="1"> <tr><td>指揮・通報連絡班</td></tr> <tr><td>班長【スタッフ(経務、人事担当)】</td></tr> <tr><td>細胞病理学教職員(隊長所属分野)</td></tr> <tr><td>神経化学教職員</td></tr> <tr><td>脳脳構造学教職員</td></tr> <tr><td>脳管理学教職員</td></tr> <tr><td>中在R教職員</td></tr> <tr><td>総務、人事担当</td></tr> </table>	指揮・通報連絡班	班長【スタッフ(経務、人事担当)】	細胞病理学教職員(隊長所属分野)	神経化学教職員	脳脳構造学教職員	脳管理学教職員	中在R教職員	総務、人事担当	<ul style="list-style-type: none"> <li>消防本部の設置</li> <li>消防団、各分団、ガス会社、電力会社等との連絡</li> <li>記録の作成</li> <li>災害意識の対応条件</li> <li>その他、他班に負さないこと</li> </ul>		
指揮・通報連絡班											
班長【スタッフ(経務、人事担当)】											
細胞病理学教職員(隊長所属分野)											
神経化学教職員											
脳脳構造学教職員											
脳管理学教職員											
中在R教職員											
総務、人事担当											
<table border="1"> <tr><td>初期消火班</td></tr> <tr><td>班長【スタッフ(安全衛生担当)】</td></tr> <tr><td>臨床防衛学教職員</td></tr> <tr><td>微生物学教職員</td></tr> <tr><td>細胞情報医学教職員</td></tr> <tr><td>生体情報医学教職員</td></tr> <tr><td>分子細胞化学教職員</td></tr> <tr><td>病態生化学教職員</td></tr> <tr><td>ES&amp;ES細胞学教職員</td></tr> <tr><td>事務支援</td></tr> </table>	初期消火班	班長【スタッフ(安全衛生担当)】	臨床防衛学教職員	微生物学教職員	細胞情報医学教職員	生体情報医学教職員	分子細胞化学教職員	病態生化学教職員	ES&ES細胞学教職員	事務支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>階層へ急行し、消火器・バケツ等を利用した初期消火作業</li> <li>消火用水の確保</li> <li>隣接する建物の取り除き又は遮断等一切の消防作業</li> <li>ガスによる火災誘発の防止</li> <li>電気関係の応急処置 (時間的余裕が無い場合は避難を優先すること)</li> </ul>
初期消火班											
班長【スタッフ(安全衛生担当)】											
臨床防衛学教職員											
微生物学教職員											
細胞情報医学教職員											
生体情報医学教職員											
分子細胞化学教職員											
病態生化学教職員											
ES&ES細胞学教職員											
事務支援											
<table border="1"> <tr><td>搬出教護班</td></tr> <tr><td>班長【スタッフ(研究支援担当)】</td></tr> <tr><td>知覚生理学教職員</td></tr> <tr><td>分子生理学教職員</td></tr> <tr><td>公衆衛生・健康科学教職員</td></tr> <tr><td>環境保健医学教職員</td></tr> <tr><td>法医学教職員</td></tr> <tr><td>看護学教職員</td></tr> <tr><td>呼吸器外科学教職員</td></tr> <tr><td>研究支援</td></tr> </table>	搬出教護班	班長【スタッフ(研究支援担当)】	知覚生理学教職員	分子生理学教職員	公衆衛生・健康科学教職員	環境保健医学教職員	法医学教職員	看護学教職員	呼吸器外科学教職員	研究支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>搬出、救助、搬出</li> <li>負傷者の応急処置その他応急処置</li> </ul>
搬出教護班											
班長【スタッフ(研究支援担当)】											
知覚生理学教職員											
分子生理学教職員											
公衆衛生・健康科学教職員											
環境保健医学教職員											
法医学教職員											
看護学教職員											
呼吸器外科学教職員											
研究支援											
<table border="1"> <tr><td>避難誘導班</td></tr> <tr><td>班長【スタッフ(経理担当)】</td></tr> <tr><td>形態構造学教職員</td></tr> <tr><td>生体情報学教職員</td></tr> <tr><td>呼吸器内科学教職員</td></tr> <tr><td>生命倫理学教職員</td></tr> <tr><td>放射線医学教職員</td></tr> <tr><td>経理担当</td></tr> </table>	避難誘導班	班長【スタッフ(経理担当)】	形態構造学教職員	生体情報学教職員	呼吸器内科学教職員	生命倫理学教職員	放射線医学教職員	経理担当	<ul style="list-style-type: none"> <li>各建物の1階出入口(非常口含む)にて避難場所への誘導</li> <li>搬出、救助及び搬出の介助</li> <li>負傷者の応急手当その他応急処置</li> <li>訓練計画作成</li> </ul>		
避難誘導班											
班長【スタッフ(経理担当)】											
形態構造学教職員											
生体情報学教職員											
呼吸器内科学教職員											
生命倫理学教職員											
放射線医学教職員											
経理担当											
<table border="1"> <tr><td>搬出班</td></tr> <tr><td>班長【スタッフ(教務担当)】</td></tr> <tr><td>分子病理学教職員</td></tr> <tr><td>免疫細胞学教職員</td></tr> <tr><td>分子遺伝学教職員</td></tr> <tr><td>免疫学教職員</td></tr> <tr><td>細胞病理学教職員</td></tr> <tr><td>乳癌・内分泌科学教職員</td></tr> <tr><td>教務担当</td></tr> <tr><td>臨床医学教職員教育研究</td></tr> </table>	搬出班	班長【スタッフ(教務担当)】	分子病理学教職員	免疫細胞学教職員	分子遺伝学教職員	免疫学教職員	細胞病理学教職員	乳癌・内分泌科学教職員	教務担当	臨床医学教職員教育研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>消火用器具及び燃料、搬送用器具等の資材整備</li> <li>重要物品の搬出及び保管</li> <li>非常の場合の炊き出し及び供与</li> </ul>
搬出班											
班長【スタッフ(教務担当)】											
分子病理学教職員											
免疫細胞学教職員											
分子遺伝学教職員											
免疫学教職員											
細胞病理学教職員											
乳癌・内分泌科学教職員											
教務担当											
臨床医学教職員教育研究											

(出典 生命科学系事務保有データから抜粋)

<p>○熊本大学大学院生命科学研究部等生命倫理に関する規則 (平成20年6月20日規則第219号) 改 平成21年3月24日規則第47号 平成21年12月9日規則第234号 正 平成22年9月22日規則第293号 平成22年11月17日規則第354号</p>
<p>(趣旨) 第1条 この規則は、大学院生命科学研究部、大学院医学教育部、大学院保健学教育部、大学院薬学教育部、医学部、薬学部、医学部附属病院、発生医学研究所、生命資源研究・支援センター及びエイズ学研究センター(以下「生命科学研究部等」という。)において行われる人間を直接対象とした医学、薬学の研究及び医療行為(以下「研究等」という。)について、ヘルシンキ宣言等の趣旨に沿った倫理的配慮を図るため必要な事項を定める。</p>
<p>(責任者) 第2条 生命科学研究部等の研究等を適正に遂行するために次に掲げる責任者を置く。 (1) 大学院生命科学研究部長(以下「研究部長」という。) (2) 各研究責任者の所属する部局の長(ヒトES細胞を使用する研究に限る。)</p> <p>2 前項各号の責任者は、生命科学研究部等で実施される研究等に関する統括的な責任を有し、研究責任者及び研究担当者が適正に研究を実施するよう監督しなければならない。</p>
<p>(委員会) 第3条 生命科学研究部等に次に掲げる委員会を置く。 (1) 疫学・一般研究倫理委員会 (2) ヒトES細胞研究倫理委員会 (3) ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理委員会 (4) 臨床研究・医療技術倫理委員会</p> <p>2 委員会は、責任者の諮問に基づき、研究等の実施の適否及びその他専門的事項について、倫理的観点とともに科学的観点も含めて審査しなければならない。</p> <p>3 それぞれの委員会に関し必要な事項は、研究部長が別に定める。</p>
<p>(連絡会議) 第4条 各委員会の円滑な運営を図るため、研究部長の下に連絡会議を置き、次に掲げる委員をもって組織する。 (1) 大学院生命科学研究部生命倫理学分野の教授(以下「生命倫理学分野の教授」という。) (2) 前条第1項各号の委員会の委員長</p> <p>2 連絡会議に議長を置き、前項第1号の委員をもって充てる。 3 議長は、連絡会議を主宰する。 4 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。 5 連絡会議の運営に関し必要な事項は、議長が別に定める。</p>

(出典：熊本大学規則集)

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

大学院医学教育を本務とした組織の管理運営について、教育委員会と学生委員会および医学教育部教授会が、事務支援を受けて、適切に機能していると判断される。

事務組織による支援体制及び、危機管理体制についても適切に整備されている。

観点 構成員(教職員及び学生)、その他学外関係者の管理運営に関する意見やニーズが把握され、適切な形で管理運営に反映されているか。

(観点に係る状況)

教職員においては、毎月1回開催される医学教育部教授会や大学院教育委員会等において、構成員からの意見・要望などは、メールや文章や口頭など様々な経路で出され、検討の上、適切なかたちで管理運営に反映させている。ただ、システムティックに建設的な意見を積極的に集めるシステムはできていない。

改善に繋がる実績の主な事例として、教員側からの要望に対しては、1) 大学院教育の実質化に伴う問題の、講義時間帯の改善やeラーニングの充実などによる解決、2) 生命倫理学、研究者の行動規範およびTranslational Researchに関する教育の充実、3) 厚労省管轄の研究センターとの連携大学院締結の推進などを実施した。学生からの要望につい

では、適宜アンケート調査などを実施して、1) 実質化された大学院講義に関する諸問題点の把握と改善、2) HIGO および柴三郎プログラムの開設に伴う、学生への情報提供と履修希望者の実態ならびに要望の把握と改善、3) イスラム教徒である留学生に対する宗教上の習慣の理解と、これを支援する待遇改善策(たとえば礼拝場所の設置など)の実現を行った。

なお、柴三郎プログラムと HIGO プログラムでは、学外関係者からの意見を求めている。(中期計画番号 K87)

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

意見やニーズの要望があれば、適切な形で、管理運営に反映する事ができる体制が構築されている。

観点 管理運営のための組織及び事務組織が十分に任務を果たすことができるよう、研修等、管理運営に関わる職員の資質の向上のための取り組みが組織的に行われているか。

(観点に係る状況)

管理運営に関わる職員の研修は、平成 22 年度 88 名、平成 23 年度 117、平成 24 年度 137 名、平成 25 年度 133 名が参加しており、科研費獲得研修、ハラスメント対応研修等、資質向上への取り組みを積極的に行っている(資料 Z-1-3-1-1)。(中期計画番号 K75)

資料 Z-1-3-1-1 (事務職員研修状況一覧)

(研修)

年度	参加人数	備考
平成22年度	88	・九州地区国立大学法人係長研修 ・業務遂行能力向上研修
平成23年度	117	・熊本大学共通スキル育成研修 ・メンタルヘルスインケア研修会
平成24年度	137	・九州地区国立大学法人等テーマ別研修 ・職群固有スキル研修
平成25年度	133	・科研費獲得研修 ・ハラスメント対応研修 ほか

(出典：生命科学研究部事務データを基に作成)

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

参加人数は年々増加しており、取組は組織的に行われている。これらは、職員の資質の向上につながっていると思われ、期待される水準にあると判断する。また、医学教育部で独自の事案があれば、必要に応じて対応できる。

分析項目Ⅱ 活動の総合的な状況に関する自己点検・評価が実施されているとともに継続的に改善するための体制が整備され、機能していること。

観点 活動の総合的な状況について、根拠となる資料・データ等に基づいて、自己点検・評価が行われているか。

(観点に係る状況)

医学教育部では、組織の活動の活性化を目的として、根拠となる資料・データに基づき、活動の自己点検・評価を行う全学的な「組織評価」を定期的(第1回：平成19年度、第2回：平成26年度予定)に実施しており、実施後の自己評価書は、熊本大学のウェブサイ

トに掲載している。

(<http://www.kumamoto-u.ac.jp/daigakujouhou/kihonjoho/hyouka/hyouka>)

また、全学的に実施される法人評価及び認証評価のための自己点検評価も定期的を実施している。(中期計画番号 82)

医学教育部固有の自己点検・評価は行っていない。

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

医学教育部は、全学的な自己点検・評価である組織評価を実施し、評価結果については本学ウェブサイトにて公表している。

医学教育部固有の自己点検・評価は行っていないが、教授会は常に自己点検の場で有り、構成委員からの意見を受け、対応を検討している。

観点 活動の状況について、外部者（当該大学の教職員以外の者）による評価が行われているか。

(観点に係る状況)

医学教育部では、全学的に実施される法人評価、認証評価の自己評価を実施し、法人評価は国立大学法人評価委員会（毎年度及び第1期：平成21年度、第2期：平成28年度予定）に、認証評価（第1回：平成21年度、第2回平成27年度予定）は認証評価機関に定期的に評価を受けている。また、平成26年度に実施する組織評価では、経営協議会で検証を行うこととなっている。

医学教育部そのものは、外部評価は実施していない。柴三郎プログラムとHIGOプログラムでは外部委員からの評価が行われている。

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

医学教育部では、全学的に実施される法人評価、認証評価の自己評価を実施し、法人評価は国立大学法人評価委員会に、認証評価は認証評価機関（第1回は大学評価・学位授与機構）に定期的に評価を受けている。また、平成26年度に実施する組織評価では、経営協議会で検証を行うこととなっている。

柴三郎プログラムとHIGOプログラムでは外部委員からの評価が行われているが、医学教育部でも同様な組織が必要と思われる。

観点 評価結果がフィードバックされ、改善のための取り組みが行われているか。

(観点に係る状況)

全学的に実施する自己点検・評価である組織評価において、第1回評価実施後、自己評価書において主に改善を要する事項として評価した項目を中心に、学長から医学教育部長へ改善勧告が出された。これを受け、医学教育部では課題の把握に努めるとともに、その後複数年にわたるフォローアップにより改善の取組みを行った。なお、医学教育部独自の自己点検・評価・外部評価は実施していないので、フィードバックはできない。

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

自己点検・評価実施に際しては、その評価結果に基づき、改善に向けた取組みを行っている。組織評価においては複数年にわたるフォローアップを行った。主なものとして、「教育目的及びその内容の周知と浸透について改善が必要」との点について、本学ホームページへ掲載を行い、周知を図ったこと、(資料 Z-2-2-1-1)

「学生からの意見聴取について、早急に取り組む必要がある。」との点について、学生か

ら授業に関するアンケートを実施し、講義の e-learning 化及び英語化への促進を図ったこと、があげられる。(資料 Z-2-2-1-2)

資料 Z-2-2-1-1 医学教育部の教育目的

医学教育部	
<p>医科学専攻（修士課程）は、医学又は生命科学の知識及び思考力を備えた、専門分野における高度な研究能力を有する研究者、教育者又は高度専門職業人を育成することを目的とします。</p> <p>医学専攻（博士課程）は、医学又は生命科学の幅広い知識及び深い思考力を備えた、専門分野における国際的研究能力を有する研究者若しくは教育者又は高い研究志向及び問題解決能力を有する高度医療専門職業人を育成することを目的とします。</p>	
専攻名	目的
修士課程 医科学専攻	医科学専攻（修士課程）は、医学又は生命科学の知識及び思考力を備えた、専門分野における高度な研究能力を有する研究者、教育者又は高度専門職業人を育成することを目的とします。
博士課程 医学専攻	医学専攻（博士課程）は、医学又は生命科学の幅広い知識及び深い思考力を備えた、専門分野における国際的研究能力を有する研究者若しくは教育者又は高い研究志向及び問題解決能力を有する高度医療専門職業人を育成することを目的とします。

(出典：熊本大学ウェブサイト)

資料 Z-2-2-1-2 学生へのアンケート結果集計（コメントのみ抜粋）  
（平成 22 年度実施 博士課程学生対象アンケート）

カリキュラムに関する意見	その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>ある講義で昨年度の e ラーニングを見ていて、昨年度の課題と本年度の課題の区別がつきにくく、教員に問い合わせをしましたが、一方で e ラーニングのタイトル欄に本年度の課題をかかげてある講義もありました。後者のように課題の有無を明示してあると分かりやすく助かります。</li> <li>e ラーニングを見れる環境にない。(留学生)</li> <li>講義に出られないことがあるので、e ラーニング化をお願いします。</li> <li>英語/日本語については、それなりの選択試験を受けてきている人が対象であり、誰しもある程度のレベルでは理解できるはずで、(専門用語の日本語訳さえ分かれば十分) 言語に関わらず、プレゼンテーションの内容が分かりやすいかどうかの方が重要と感じる。(いわゆる native の講義と異なり、「聞き取れない」というシチュエーションは起こりにくい)</li> <li>社会人学生たどうしても受講できない日があるが、e ラーニングを設定していない講義があるのは困る。</li> <li>e ラーニングがあると思って対面講義を受けなかったのに、e ラーニングがなく、欠席になる場合が多いように思った。E ラーニングがあるのかないのかはっきりと示してほしい。(準備中とせずに)</li> <li>受講していない科目の e ラーニングも視聴できるようにしてほしい。</li> <li>e ラーニングは時間を節約するにはよいシステムだと思う。</li> <li>学部学生のように講義を行う意義がない。各部門、分野によって必要な知識は異なるはずで講義に出るより専門書を読む方がためになるのでは。そもそも時間的に無理。</li> <li>e ラーニングのやり方が全く分からない。説明不足。</li> <li>大学院の講義で、医療情報・倫理学理論が必須であることが疑問。医師以外の学生にはあまり関係がないことを講義されることは時間の無駄ではないか。</li> <li>e ラーニング、対面講義は時間に余裕のある人だけ希望すればよいと思う。いろいろ仕事で忙しすぎてほとんど出席できないし e ラーニングする余裕もない。</li> <li>e ラーニングシステムがうまく動かないことが多いので改善してほしい。</li> <li>e ラーニングのスケジュールが事前に明確だと助かります。</li> <li>e ラーニングは有意義ですが、生の講義を受けたいです。社会人にも機会を与えてくださるよう時間割等の配慮をお願いいたします。その際、日本語での講義もあわせて配慮いただけますよう、お願いいたします。</li> <li>e ラーニングは画期的な試みだと思います。是非継続していただきたい。</li> <li>文科省の方針なので仕方ないが、講義が入ることで本分である実験、研究の計画が狂ってしまうのはよくないと思うので、e ラーニングですべて単位がとれるようになればと思います。</li> <li>すべての e ラーニングの聴講ができない。一連の講義すべてに興味があるわけでもない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ので、一つの講義を拝聴するのにわざわざすべてを選択するのは抵抗があります。</li> <li>e ラーニングで授業の中に演者の示したポインターが反映されていないので、わかりにくいところがある。</li> <li>A1 の必修は、ぜひ e ラーニングで受講可能となるように継続をお願いします。</li> <li>1名か 2名の留学生のために英語で講義をするのは意味がない。残りの多数の日本人の理解が助けられている現実を見るべきではないか？教員の先生たちも苦勞されているのをみると、誰のためにもなっていないのが現状である。</li> <li>英語化を望む。(留学生)</li> <li>社会人学生や臨床系の教室に在籍している学生は日中の講義への参加は不可能なので、全部 e ラーニングになることを望みます。</li> <li>全科目 e ラーニングにしてほしい。</li> </ul> <p><b>その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分を必要とするところならどこでもよい。</li> <li>国際化に関するアンケートなら、設問も英語で書いたらどうですか？正直、当教室には留学生が多く、骨折りでした。次から日本語のみのアンケートに協力したくないです。</li> <li>日本語で表記してどうする？(留学生)</li> <li>海外留学のための勉強をしたい。</li> <li>TOEFL などの講義を増設してほしい。</li> <li>WebCT での講義は英語だったのに出席用の記録が日本語だったので、答えられなかった。すべての講義、セミナーは英語をお願いします。15 のレポート提出はきついで、10 に減らしてほしい。(留学生)</li> <li>研究に専念しないと結果が出ない。</li> <li>強制参加の講義は、1 年次の最初数週間のみにしてもらいたかった。(実験の手法など)</li> <li>GTC 主催のセミナーの方が有意義だと感じます。</li> <li>束縛されすぎる。勉強する時間がない。個人的には基礎系の院のみあればよいのに教鞭の意向で臨床の教室にいらなければならないのはつらい。</li> <li>懇切、丁寧にしていただいているので特に要望はありません。</li> <li>数年前で講義は無いに等しいのに必須が増えて、研究の負担になっている。不平等感が否めない。</li> <li>研究をたくさんするので、講義は最小限が、中止しても良いと思う。</li> <li>留学生、英語に関するアンケートを日本語でするのがおかし。(留学生)</li> <li>大学院生の多くが外来勤務を義務化されているのにそれを無視して授業出席が必須な講義があるのは機嫌だと思ふ。必修科目(特に医療情報)は e ラーニングにしてほしい。</li> <li>英語化の問題は、e ラーニングでバイリンガル化できればよいのでは。</li> </ul>

(出典：熊本大学ウェブサイト)

分析項目Ⅲ 教育研究活動等についての情報が、適切に公表されることにより、説明責任が果たされていること。(教育情報の公表)

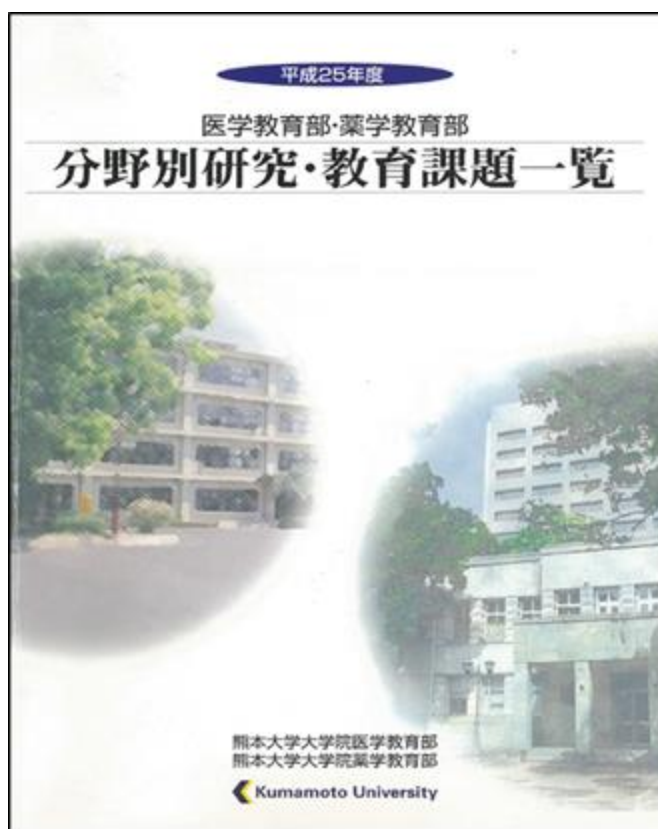
観点 目的(学士課程であれば学部、学科または課程ごと、大学院であれば研究科または専攻等ごとを含む。)が適切に公表されるとともに、構成員(教職員及び学生)に周知されているか。

(観点に係る状況)

医学教育部の教育活動に関わることは、医学教育部ウェブサイト

(<http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp>)に掲載され、構成員および学外者に公開されている。また、HIGOプログラム(<http://higoprogram.org>)および柴三郎プログラム(<http://www.shibasaburo-kumamoto.jp>)についても公開されている。また、毎年、研究活動の詳細を「分野別研究・教育課題一覧」として冊子で発行し、教員および学生に配布している(資料Z-1-3-1-1)。(中期計画番号K84)

資料Z-1-3-1-1 (医学教育部・薬学教育部分分野別研究・教育課題一覧)



(出典：平成25年度医学教育部・薬学教育部分分野別研究・教育課題一覧(表紙))

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

構成員、学外者ともに医学教育部の教育研究活動についてウェブサイトからアクセスでき、教育活動の詳細も「分野別研究・教育課題一覧」で公開している。

観点 入学者受入方針、教育課程の編成・実施方針及び学位授与方針が適切に公表・周知されているか。

(観点に係る状況)



医学教育部のウェブサイト (<http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp>) には、入学者受け入れ方針、教育課程の編成・実施方針及び学位授与方針が適切に公表・周知されている。

また、大学院入試説明会や新入生履修ガイダンスの際にも説明し、周知している。  
(中期計画番号 K84)

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

構成員、学外者ともに医学教育部の教育研究活動についてウェブサイトからアクセスできる。

観点 教育研究活動等についての情報(学校教育法施行規則第 172 条に規定される事項を含む。)が公表されているか。
---

(観点に係る状況)

医学教育部のウェブサイト (<http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp>) には、教育研究活動状況を広く内外に公表している。また、薬学教育部と共同で、毎年、研究活動の詳細を「分野別研究・教育課題一覧」にとりまとめ、冊子として発行している(前掲資料 Z-1-3-1-1 参照)。(中期計画番号 K84)

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

教育研究活動状況を広く内外に公表しているので、標準的な水準にあると判断されるが、就職状況、進路選択や健康などに関する支援の掲載は十分とは言えない。

分析項目Ⅳ 教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。(施設・設備)

観点 教育研究活動を展開する上で必要な施設・設備が整備され、有効に活用されているか。また、施設・設備における耐震化、バリアフリー化、安全・防犯面について、それぞれ配慮がなされているか。

(観点に係る状況)

本荘(医学部)地区では、北地区(医学部医学科及び附属病院)が82,463 m<sup>2</sup>、中地区(主に研究センター)25,088 m<sup>2</sup>、南地区(医学部保健学科)25,761 m<sup>2</sup>の校地面積を有している。南地区に体育館1,446 m<sup>2</sup>、テニスコート3面、バレーコート1面があり、これらは医学部医学科と保健学科で共有している。体育館は多くのクラブ活動で利用されており、そのため特に放課後のクラブ活動での使用ではスペース的にも十分とは言えない。医学部医学科が使用している医学教育図書棟の講義室及び実習室は、北地区にあり、主に学部学生が使用しているが、一部大学院学生も共有している(資料Z-4-1-1-1)。医学部保健学科が使用している講義室及び実習室は、南地区にあり、学部学生と大学院学生が使用している。医学部医学科及び保健学科の講義室・実習室等の利用率は平成22年度34~63%、平成23年度31~65%、平成24年度30~62%、平成25年度33~58%である(資料Z-4-1-1-2)。平成20年に医学教育図書棟が北地区に建設され、講義室と実習室の利便性の向上が図られた。研究部医系教員の研究室は北地区にあり、臨床研究棟で1,482 m<sup>2</sup>と7,934 m<sup>2</sup>、基礎研究棟で10,933 m<sup>2</sup>の広さを持ち、利用率は100%に近い。臨床研究棟は、耐震基準を満たしておらず、平成28年度(予定)北地区に建設予定である。総合研究棟は9,830 m<sup>2</sup>であり、総合研究スペース、RI施設、法医解剖、病理解剖、解剖実習室等があり、教員及び学生に広く利用されている。また、山崎記念館864 m<sup>2</sup>も北地区にあり講演等に使用される。バリアフリーの対策は、研究棟、講義棟、病院でなされている。

北地区、南地区、大江地区ともに火災等の異常にもなう警備会社へ通報され、また敷地内における警備員の巡回も行っており、安全面、防犯面において配慮がなされている(資料Z-4-1-1-3)。(中期計画番号K86、K87)

資料Z-4-1-1-1 (熊本大学ウェブサイト「キャンパス情報」)



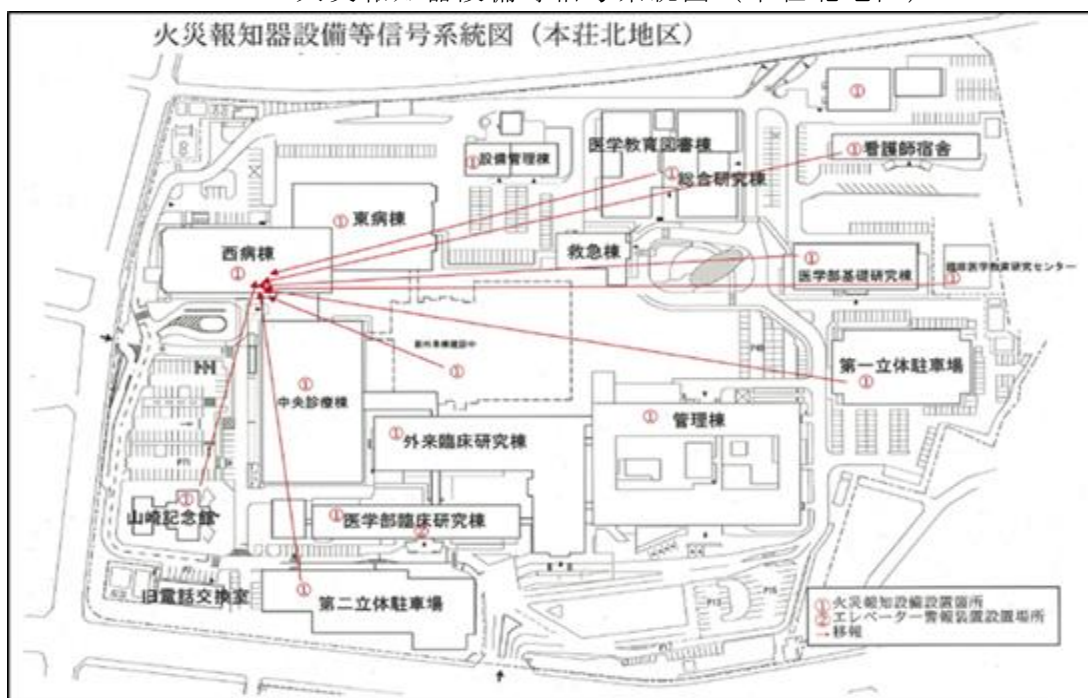
(出典：熊本大学ウェブサイト)

資料 Z-4-1-1-2 「講義室・演習室の使用状況」(抜粋)

学部等名	規模収容人員	教室数	使用度数	H22使用率(%)	H23使用率(%)	H24使用率(%)	H25使用率(%)
医学部	21~50	2	7	34	31	30	33
	51~100	5	9	35	34	34	39
	101~200	4	12	63	65	62	58
	201以上	2	8	43	47	34	38
薬学部	101~200	3	8	36	35	31	35

(出典：熊本大学年報)

資料 Z-4-1-1-3 火災報知器設備等信号系統図(本荘北地区)



(出典：生命科学系事務ユニット資料)

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

本荘地区においては、教育研究を行うために十分な施設が整っている。耐震基準を唯一満たしていない臨床研究棟も建築予定である。このことから概ね整備され、期待される水準にあると判断する。

観点 教育研究活動を展開する上で必要な ICT 環境が整備され、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

本荘地区においては、全学的な教育・研究用のコンピューターネットワークが各研究棟等に構築されている。また、本荘地区にも全学無線 LAN 基地局が設置され、運営は総合情報基盤センターを核として全学的に行われている(資料 Z-4-2-1-1)。医学部医学科学生及び医学教育部大学院学生のための情報ネットワーク室は本荘北地区の総合研究棟内に整備され、CBT などの実施が行われている(資料 Z-4-2-1-2)。また、図書館にインターネットへのアクセスが可能な設備が整えられている。ネットワークの利用の手引きは、全学的に共有され、共通の手引き書が発行されている。授業科目については、eラーニングの普及に努めている。(中期計画番号 K25、K84)

資料 Z-4-2-1-1 全学無線 LAN 基地局の設置場所(本荘・九品寺地区)



(出典：熊本大学ウェブサイト)

資料 Z-4-2-1-2 PC 実習室一覧

<b>本荘・九品寺地区</b>	医学部総合研究棟3F 情報教育実習室 医学部図書分館内 保健学科(A204・B201) 保健学科図書室
<b>大江地区</b>	薬学部C棟2F パソコン実習室(薬学部生のみ利用可) 薬学部図書分館内

(出典：総合情報統括センターウェブサイト)

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

大学ウェブサイトには学事計画、教員の専門分野等が記載されており、学生と教員間の情報交換の場ともなっている。学内情報ネットワークは概ね整備され有効に活用されていると判断する。

医学教育部では、講義のeラーニング化が着実に発展している。

観点 図書館が整備され、図書、学術雑誌、視聴覚資料、その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

附属図書館医学系分館は、延床面積 2,440 m<sup>2</sup>、閲覧座席数 218、和書 71,597 冊及び洋書 109,834 冊の蔵書である。視聴覚資料は 124 点、PC 38 台を備え、年間開館日数は 346 日と土・日・休日も開館しており、学内貸出冊数は 7,522 冊である。医学系分館は 2 名の専任職員及び 2 名の臨時職員(2 名が司書資格を有する)で運営されている(資料 Z-4-3-1-1、Z-4-3-1-2)。

電子ジャーナルは全学的に契約されており、その契約数は 8,612 件である。

(中期計画番号 K87、K90)

資料 Z-4-3-1-1

## 施設(附属図書館)調査票

図書館名	延床面積(m <sup>2</sup> )	閲覧座席数	専任職員数		臨時職員数		外部委託	
				司書資格者数		司書資格者数		司書資格者数
医学系分館	2440	218	2	2	2	0	0	0
薬学部分館	654	58	0	0	0	0	2	0

(出典:生命科学系事務保有データを基に作成)

## 資料 Z-4-3-1-2 図書館利用案内

医学系分館			
	通常期の平日	休業期の平日	土・日・休日
開館	9:00~21:00	9:00~17:00	12:00~18:00
貸出・返却・更新・予約	9:00~21:00	9:00~17:00	12:00~18:00
他機関への相互利用 (複写, 資料の貸借)	9:00~16:30		-
レファレンス(参考調査)	9:00~17:00		-
グループ学修室の利用	9:00~20:30	9:00~16:30	12:00~17:30
休館日	休業期間中の土・日・休日, 年末年始, 夏季一斉休業日, その他の臨時休館日		

[このページのトップへ](#)

(出典:熊本大学附属図書館ウェブサイト)

(水準)期待される水準にある。

(判断理由)

医学系分館では、研究教育上必要な資料を備えており、系統的に整備されていると判断する。書庫、図書スペースなどの整備も備わり、有効に活用されていると判断する。

観点 自主学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか。

(観点に係る状況)

大学院生の自主学習の場は、各大学院生の所属する研究室および附属図書館医学系分館が、それにあたる。研究室の自主学習環境については、大学院生用の学習スペースが用意されていて、無線および有線 LAN の接続が可能な環境にある。医学系図書館分館については、無線 LAN の利用が可能で、平日は午前 9 時から午後 9 時まで、土曜・日曜は正午から午後 6 時までと開館されて、効果的に利用されている。また、e ラーニングの普及率は 63% と自主学習に対応している。(中期計画番号 K86、K87)

(水準)期待される水準にある。

(判断理由)

各研究室および附属図書館医学系分館における自主学習環境は整備されていて、大学院生により有効に活用していると判断される。e ラーニング科目も増加している。

## 4. 質の向上度の分析及び判定

(1) 分析項目 I 管理運営体制及び事務組織が適切に整備され機能していること。

(判定結果) 質を維持している。

(判断理由)

医学教育部は、大学院生の教育に特化した組織で有り、教務委員会と学生委員会と事務組織が一体となった実行部門が、平成 20 年度に実施した改組（博士課程の 4 専攻から 1 専攻への改組）以降も効率よく運営され、医学教育部教授会も意思決定機関としての確に機能している。

(2) 分析項目Ⅱ 活動の総合的な状況に関する自己点検・評価が実施されているとともに、継続的に改善するための体制が整備され、機能していること。

(判定結果) 質を維持している。

(判断理由)

医学教育部の自己点検・評価は全学的な組織評価において実施されている。平成 21 年度以降、医学教育部としては固有の自己点検・評価は行っていないが、必要に応じて改善するための体制は整備されているため、標準的な質は保たれている。

(3) 分析項目Ⅲ 教育研究活動等についての情報が、適切に公表されることにより、説明責任が果たされていること。(教育情報の公表)

(判定結果) 質を維持している。

(判断理由)

医学教育部のウェブサイトでの学内外への公表、また、毎年作成している分野別研究・教育課題一覧等の冊子体において、適切に公表され、説明責任が果たされている。

(4) 分析項目Ⅳ 教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。(施設・設備)

(判定結果) 高い質を維持している。

(判断理由)

「発生・再生医学研究者養成コース (H20 開設)」、「エイズ制圧を目指した研究者養成コース (H18 開設)」、「HIGO プログラム (H24 開設)」などの教育コースの設置、「グローバル COE (H19~H23)」、「グローバル COE (H20~H24)」、「柴三郎プログラム (H24~現在)」、「九州がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン (H24~現在)」、「博士課程教育リーディングプログラム (HIGO プログラム) (H24~現在)」などによる教育プログラムに係る資金獲得による実験機器等の導入、生命資源研究・支援センターの「マウスクリニック」の開設などにより、大学院教育のための教育設備の充実が可能となった。本荘地区における無線 LAN 基地局の設置による ICT 環境の整備、附属図書館医学系分館の建設も自主学習環境上、有意義であった。以上の観点から、医学教育部の設備などの整備は、高い質を維持していると判断できる。